

【MS】ピアノ		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年						
授業内容	1年次に修得した演奏テクニックを発展させ、近現代の作品を中心に、テクニックと表現力が調和した高度な音楽作りを目指します。 音楽関連の知識を豊富にし、表現力豊かで魅力的な演奏ができるようにしていきます。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	より高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合 計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円) ISBN: 978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』全音楽譜出版社、または手持ちのもの 『J.S.バッハ: インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス(グループFaceTime・グループLINEビデオ通話使用) ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(1) 休暇中の課題のレッスン(ICTを活用した双方型授業:授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(準備)] 各曲のレッスンができるように準備しておく(2~3h)						
2	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(2) 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心に譜読みの確認(ICTを活用した双方型授業:授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(予習・復習)] 各曲1曲ずつ正確に譜読みの確認をする(2~3h)						
3	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(3) 課題の確認、テクニック練習(ICTを活用した双方型授業:授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導) [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
4	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(4) 課題の確認、強弱・速度・音楽用語 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する(2~3h)						
5	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(5) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(2~3h)						
6	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(6) 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
7	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(7) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる(2~3h)						
8	中間発表(中間試験):調号3つまでのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(1) 試験曲を中心に正確な譜読みの再確認 [課題(予習)] 試験曲の譜読みの再確認をする(2~3h)						
9	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
10	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
11	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(4) 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する(2~3h)						
12	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(5) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を高める(2~3h)						
13	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(6) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)						
14	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(7) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
15	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(8) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(2~3h)						
時間外での学修	各々の課題について、授業外で細かく深く練習しましょう。また、練習時間以外にも、演奏会に積極的に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨いてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:38時間】						

受講学生への メッセージ	音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。
-----------------	--

【MA】ピアノ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	横井 ：音楽教室講師・10年 三ツ橋：音楽教室講師・9年						
授業内容	より高度な音楽作りを心掛け、個々の希望する曲などは可能な限り取り入れ、最大限の成長を目指します。 。幅広く音楽関連の素養を身に付け、音楽表現もより豊かにし、魅力的で感動的な演奏ができるようにしていきます。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	より高度な演奏技術を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	音楽的感性を磨く努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合 計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲（１） 休暇中の課題のレッスン、譜読みの再確認 [課題(準備)] 各曲のレッスンができるように準備しておく 各曲１曲ずつ正確に譜読みの再確認をする（２～3h）						
2	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲（２） 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心にテクニク練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニクを向上する（２～3h）						
3	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲（３） 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（２～3h）						
4	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲（４） 課題の確認、音楽性 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高める（２～3h）						
5	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲（５） 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（２～3h）						
6	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲（６） 課題の確認、弾き込み [課(予習・復習)題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（２～3h）						
7	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲（７） 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる（２～3h）						
8	中間発表(中間試験)：調号４つ以上のスケール・アルペジオ、バッハ インヴェンション・シンフォニア・平均律のいずれか１曲 ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（１） 試験曲を中心に正確な譜読みの再確認 [課題(予習)] 試験曲の譜読みの再確認をする（２～3h）						
9	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（２） 課題の確認、テクニク練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニクを向上する（２～3h）						
10	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（３） 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける（２～3h）						
11	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（４） 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する（２～3h）						
12	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（５） 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を高める（２～3h）						
13	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（６） 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（２～3h）						
14	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（７） 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（２～3h）						
15	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲（８） 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる（２～3h）						
時間外での学修	各々の課題について、授業外で細かく深く練習しましょう。また、練習時間以外にも、演奏会に積極的に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：38時間】						
受講学生へのメッセージ	音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【MS】電子オルガン		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年 上園： 音楽講師・31年						
授業内容	電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、1曲目は自身で選曲した任意の新規レパートリー演奏に取り組みます。2曲目は、個々の今後拡充したいジャンルにおいて、比較的難易度の高い候補曲を複数ピックアップし、その中から演奏曲を選曲して取り組みます。どちらにおいても、1年次よりも更に種々の表現にこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作 / レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ2曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	第1週授業の際に、1曲目で取り組む自由曲の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。また、2曲目で取り組みたいジャンルを踏まえて、候補曲をピックアップし、音源・楽譜などを準備してきてください。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	1曲目に取り組む自由曲を確認 / 2曲目の選曲候補やジャンルを決定 (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [課題(準備)] 用意した自由曲を練習し、まず自身の力の範囲内で曲全体を仕上げてくる。(2～3h)						
2	1曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題(復習)] 曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
3	1曲目：演奏追究(2) 曲の冒頭から2/3程度まで (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題(復習)] 曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
4	1曲目：演奏追究(3) 曲全体 [課題(復習)] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
5	1曲目：演奏追究(4) 仕上げ [課題(復習)] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏を仕上げる。(2～3h)						
6	2曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/4程度まで [課題(復習)] 曲の冒頭から1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
7	2曲目：演奏追究(2) 前回と同範囲 [課題(復習)] 曲の冒頭から1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
8	2曲目：演奏追究(3) 曲の冒頭から2/4程度まで [課題(復習)] 曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
9	2曲目：演奏追究(4) 前回と同範囲 [課題(復習)] 曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
10	2曲目：演奏追究(5) 曲の冒頭から3/4程度まで [課題(復習)] 曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
11	2曲目：演奏追究(6) 前回と同範囲 [課題(復習)] 曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
12	2曲目：演奏追究(7) 曲全体 [課題(復習)] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
13	2曲目：演奏追究(8) 前回と同範囲 [課題(他)] 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏を仕上げる。前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる。(2～3h)						
14	1曲目：演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [課題(他)] 1曲目のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
15	2曲目：演奏の仕上がり確認と最終アドバイス [課題(他)] 2曲目のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
時間外での学修	・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ1曲目の練習を継続しましょう。 * [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()内の標準学習時間をめどにして、授業外で確実に学習を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：40時間】						
受講学生へのメッセージ	自編曲に取り組むことも可能です。 1年次以上に魅力的な演奏に仕上げていきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MA】電子オルガン		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年 上園： 音楽講師・31年						
授業内容	前期に引き続き、電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、1曲目は自身で選曲した任意の新規レパートリー演奏に取り組みます。2曲目は、個々の今後拡充したいジャンルにおいて、比較的難易度の高い候補曲を複数ピックアップし、その中から演奏曲を選曲して取り組みます。どちらにおいても、種々の表現にこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作 / レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に編曲・演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って編曲・演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を編曲・演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ2曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	第1週授業の際に、1曲目で取り組む自由曲の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。また、2曲目で取り組みたいジャンルを踏まえて、候補曲をピックアップし、音源・楽譜などを準備してきてください。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	1曲目に取り組む自由曲を確認 / 2曲目の選曲候補やジャンルを決定 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 【課題(準備)】 用意した自由曲を練習し、まず自身の力の範囲内で曲全体を仕上げてくる。(2～3h)						
2	1曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで 【課題(復習)】 曲の1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
3	1曲目：演奏追究(2) 曲の冒頭から2/3程度まで 【課題(復習)】 曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
4	1曲目：演奏追究(3) 曲全体 【課題(復習)】 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
5	1曲目：演奏追究(4) 仕上げ 【課題(復習)】 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏を仕上げる。(2～3h)						
6	2曲目：演奏追究(1) 曲の冒頭から1/4程度まで 【課題(復習)】 曲の1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
7	2曲目：演奏追究(2) 前回と同範囲 【課題(復習)】 曲の1/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
8	2曲目：演奏追究(3) 曲の冒頭から2/4程度まで 【課題(復習)】 曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
9	2曲目：演奏追究(4) 前回と同範囲 【課題(復習)】 曲の2/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
10	2曲目：演奏追究(5) 曲の冒頭から3/4程度まで 【課題(復習)】 曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
11	2曲目：演奏追究(6) 前回と同範囲 【課題(復習)】 曲の3/4程度までアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。(2～3h)						
12	2曲目：演奏追究(7) 曲全体 【課題(復習)】 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
13	2曲目：演奏追究(8) 前回と同範囲 【課題(他)】 曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、更に演奏を安定させる。また、前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる。(2～3h)						
14	1曲目：演奏の仕上がり確認と最終アドバイス 【課題(他)】 1曲目アドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
15	2曲目：演奏の仕上がり確認と最終アドバイス 【課題(他)】 2曲目のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる。(2～3h)						
時間外での学修	・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ1曲目の練習を継続しましょう。 *【課題】は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()内の標準学習時間をめどにして、授業外で確実に学習を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：40時間】						
受講学生へのメッセージ	自編曲に取り組むことも可能です。 卒業に向けて、より高度な演奏に、積極的に取り組んでいきましょう。 「オフィスアワー」当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MS】副科ピアノ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	0rコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	1年次に修得した基礎テクニックや音楽表現を更に発展させていきます。各々の目標に合わせて取り組みながら、演奏力・音楽力を高めていきます。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合 計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1』またはソナタアルバム1』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス（グループLINEビデオ通話使用） ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（1） 休暇中の課題のレッスン（ICTを活用した双方向型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導） [課題(準備)] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく（1～2h）						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（2） 課題の確認、譜読みの確認（ICTを活用した双方向型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導） [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、譜読みが正確にできているか確認する（1～2h）						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（3） 課題の確認、テクニック練習（ICTを活用した双方向型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導） [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する（1～2h）						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（4） 課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、反復練習をしてテクニックをさらに向上する（1～2h）						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（5） 課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、強弱を付ける（1～2h）						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（6） 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける（1～2h）						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（7） 課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする（1～2h）						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（8） 課題の確認、試験曲を中心に部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏技術を高める（1～2h）						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（9） 課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を考える（1～2h）						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（10） 課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、響きのバランスを考える（1～2h）						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（11） 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける（1～2h）						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（12） 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む（1～2h）						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（13） 学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（1～2h）						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（14） 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、よく弾き込む（1～2h）						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど（15） 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる（1～2h）						
時間外での学修	授業外で毎日練習することはもちろんですが、様々な音楽を聴き、音楽的知識を身に付けて、ピアノ演奏に活かすことができるようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】						
受講学生へのメッセージ	1年次に修得した演奏技術を更にレベルアップし、豊かなピアノ演奏ができるように取り組みましょう。オフィスアワーはB206で毎週金曜日の午後です。						

【MA】副科ピアノ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	0rコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	ピアノの演奏法を追求し、各々の目標に向けて取り組みながら、更に演奏技術や表現力を高めていきます。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合 計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,296円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『ソナチネアルバム1』または『ソナタアルバム1』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(1) 休暇中の課題のレッスン [課題(準備)] 初回の授業でレッスンできるよう練習しておく(1~2h)						
2	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(2) 課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、譜読みが正確にできているか確認する(1~2h)						
3	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(3) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(1~2h)						
4	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(4) 課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、反復練習をしてテクニックをさらに向上する(1~2h)						
5	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(5) 課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、強弱を付ける(1~2h)						
6	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(6) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽用語を調べ、曲想を付ける(1~2h)						
7	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(7) 課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする(1~2h)						
8	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(8) 課題の確認、試験曲を中心に部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏技術を高める(1~2h)						
9	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(9) 課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を考える(1~2h)						
10	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(10) 課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、響きのバランスを考える(1~2h)						
11	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(11) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を身に付ける(1~2h)						
12	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(12) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(1~2h)						
13	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(13) 学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(1~2h)						
14	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(14) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、よく弾き込む(1~2h)						
15	ハノン、練習曲、ソナチネまたはソナタなど(15) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(1~2h)						
時間外での学修	授業外で毎日練習することはもちろんですが、様々な音楽を聴き、音楽的知識を身に付けて、ピアノ演奏に活かすことができるようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】						
受講学生へのメッセージ	演奏技術を更にレベルアップし、豊かなピアノ演奏ができるように取り組みましょう。 オフィスアワーはB206で毎週金曜日の午後です。						

【MS】副科電子オルガン		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽講師・31年						
授業内容	引き続き電子オルガンの演奏法を学びます。市販のデータを分析し、入力技術を学び、演奏法を研究し修得します。スコアリードに挑戦します。						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。					
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。					
	技能	データをいかした演奏力の向上。 表情豊かな演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合 計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	春休みの課題発表 (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
2	次の曲決め (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題](準備)練習にとりかかる(1～2h)						
3	(レジスト分析、操作や、タッチに注意して演奏 (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
4	レジスト分析 [課題](準備)学んだ内容を理解し、さらに進める(1～2h)						
5	レジスト分析 [課題](準備)学んだ内容を理解し、さらに進める(1～2h)						
6	スコアリードについて [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
7	スコアリード実習 レパートリーを増やす [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～3h)						
8	スコアリード実習 レパートリーを増やす [課題](復習)学んだ内容を復習し、さらに進める(1～3h)						
9	スコアリード実習 レパートリーを増やす [課題](復習)学んだ内容を復習し、さらに進める(1～3h)						
10	スコアリード実習 レパートリーを増やす タッチなど奏法にも注意 [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～3h)						
11	スコアリード実習 レパートリーを増やす タッチなど奏法にも注意 [課題](準備)学んだ内容を理解し、さらに進める(1～3h)						
12	スコアリード実習 レパートリーを増やす [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
13	試験に向けての取り組み [課題](復習)学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1～2h)						
14	弾き込み 暗譜仕上げ [課題](復習)学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1～2h)						
15	弾き込み 仕上げ [課題](復習、他)学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1～2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:22時間]						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、毎日練習しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MA】副科電子オルガン		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽講師・31年						
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、小アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解する。					
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。 表情豊かな演奏ができる。					
	技能	データをいかした演奏力の向上。					
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習し、課題に取り組む。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	授業態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の宿題を発表する [課題](準備、他)次の課題に取り組む(1～2h)						
2	前期の復習 [課題](準備)次の曲の練習にとりかかる(1～2h)						
3	電子オルガンの操作、奏法など ステージアの機能について [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
4	レジストについて [課題](準備、他)学んだ内容を理解し、さらに進める(1～2h)						
5	レジスト分析 [課題](準備、他)学んだ内容を理解し、さらに進める(1～2h)						
6	レパートリーを増やす [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
7	レパートリー増やす [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
8	レパートリー増やす [課題](復習)学んだ内容を復習し、さらに進める(1～2h)						
9	小アレンジに挑戦 [課題](準備、他)学んだ内容を理解し、さらに進める(1～3h)						
10	小アレンジ実習 [課題](復習)学んだ内容を復習し、さらに進める(1～3h)						
11	小アレンジ実習 [課題](準備、他)学んだ内容を理解し、さらに進める(1～3h)						
12	オルガン奏法について [課題](復習)学んだ内容を復習する(1～2h)						
13	試験に向けての取り組み [課題](復習)学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1～2h)						
14	弾き込み 暗譜 [課題](復習)学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1～2h)						
15	弾き込み 仕上げ [課題](復習)学んだ内容を復習、理解し、弾き込む(1～2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:22時間]						
受講学生へのメッセージ	毎日の練習を怠らない様、空き時間を利用して、電子オルガンに向いましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MA】P・Orアンサンブル		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織・相原 里美						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・26年						
授業内容	1年次に引き続き、アンサンブルの魅力や難しさ、協調性などを学びます。 アンサンブル演奏を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術、表現力を共に高めていきます。						
授業方法	演習を中心とした1組ずつの演奏・指導を行います。アンサンブル演奏の知識・技術修得の確認のため、 中間発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することが できる。					
	思考・判断・表現	楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることがで きる。					
	技能	アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バラ ンスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。					
	関心・意欲・態度	パートナーと充分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調 性・責任感を養うことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表		-	5	5	-	10
	受講態度		10	-	-	20	30
	合 計(点)		10	35	35	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス（Zoom使用） ピアノコンチェルト（1）譜読みの確認（ICTを活用した双方向型授業：授業前日までに演奏動画を LINE、メール等にて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等で指導） 【課題（準備）】 レッスンまでに各自正確に譜読みをしておく（1～2h）						
2	ピアノコンチェルト（2）課題の確認、少しずつテンポを上げる（ICTを活用した双方向型授業：授業 前日までに演奏動画をLINE、メール等にて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通 話等で指導） 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、少しずつテンポを上げて弾けるようにしておく（1～2h）						
3	ピアノコンチェルト（3）課題の確認、テクニックの向上（ICTを活用した双方向型授業：授業前日ま でに演奏動画をLINE、メール等にて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等で 指導） 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、スムーズに弾けるようにする（1～2h）						
4	ピアノコンチェルト（4）課題の確認、合わせ・バランスの確認 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える （1～2h）						
5	ピアノコンチェルト（5）課題の確認、曲想 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h）						
6	ピアノコンチェルト（6）課題の確認、音楽表現 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h）						
7	ピアノコンチェルト（7）課題の確認、仕上げ 【課題（復習）】 レッソンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h）						
8	中間発表 試験曲決め（自由編成。ただしピアノ、電子オルガン両方とも演奏すること） 【課題（復習）】 レッソンの復習をし、中間発表に向けて弾き込む（1～2h）						
9	試験曲（1） 課題の確認、譜読みの確認 【課題（予習）】 各自正確な譜読みをする（1～2h）						
10	試験曲（2） 課題の確認、合わせ 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、レッスンまでにパートナーと合わせをする（1～2h）						
11	試験曲（3） 課題の確認、テクニックの向上 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、テクニック練習をして、自然に流れるような演奏を目指す （1～2h）						
12	試験曲（4） 課題の確認、バランス 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、各パートの把握・理解をしてバランスづくりをする（1～2h）						
13	試験曲（5） 課題の確認、曲想 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい曲想を付ける（1～2h）						
14	試験曲（6） 課題の確認、音楽表現 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、弾き込んで表現力を磨く（1～2h）						
15	試験曲（7） 課題の確認、仕上げ 【課題（復習）】 レッソンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h）						
時間外での学修	アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要です。責任を持って授業外で個々の練習を 行い、授業までにパートナーと合わせ、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立してより質の高い音楽が求 められるように準備しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】						

受講学生への メッセージ	授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。
-----------------	--

【MA】ピアノ指導法		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	横井 香織					
資格・制限等	P・Orコース必修					
実務家教員	音楽教室講師・10年					
授業内容	音楽教育法の一つであるリトミックを体験し、身体を使った音楽表現を通して自分自身の音楽感覚を磨きながら、子どもの発達についても学修し、各発達に沿ったリトミックの方法について研究します。また、リトミックで体得したことを子どものピアノ指導にどのように活かしていくか研究します。					
授業方法	演習を中心として、リトミックでは実際に身体を動かす活動をし、指導研究では実践・発表なども含めて授業を展開していきます。					
到達目標	知識・理解	指導者としての幅広い知識を身に付け、理解することができる。				
	思考・判断・表現	リトミック体験を通して豊かな想像力、表現力を養い、指導研究に活かすことができる。				
	技能	音楽に合わせた動きができる。				
	関心・意欲・態度	他者とコミュニケーションを図りながら、積極的に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	20	-	-	-	20
	活動・実践・発表	-	20	20	-	40
	レポート	-	20	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	20	40	20	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。					
テキスト						
参考書・教材	その都度提示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	リトミック（１） リトミックを知ろう、基礎リズム（ＩＣＴを活用した双方向型授業：Zoom使用） [課題(準備)] 身体を動かす心構えをし、身体を動かすことに慣れる（1h）					
2	リトミック（２） 拍と拍子、課題の確認（ＩＣＴを活用した双方向型授業：Zoom使用） [課題(復習)] 学修した内容を復習し、強拍・弱拍を考えるなどして拍子感を養う（1h）					
3	リトミック（３） リズムパターン、課題の確認（ＩＣＴを活用した双方向型授業：Zoom使用） [課題(復習)] 学修した内容を復習し、リズム感を養う（1h）					
4	リトミック（４） 複リズム・補足リズム・リズム即興、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、様々なリズムを考える（1h）					
5	リトミック（５） ダイナミック・テンポ・スペース、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、身体を使って強弱を表現できるようにする（1h）					
6	リトミック（６） ダイナミック・テンポ・スペース、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、テンポ感を養う（1h）					
7	リトミック（７） フレーズ、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、フレーズ感を養う（1h）					
8	リトミック（８） 創造的な動き、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、音楽を聴いて想像力・創造力を働かせ、身体で表現することに繋げる（1h）					
9	リトミック（９） ピアノによるイメージ即興、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、自由な発想で自由にピアノで表現できるようにする（1h）					
10	リトミック（10） 子どもの発達とリトミック、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h)					
11	リトミック（11） 子どもの発達とリトミック、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h)					
12	リトミック（12） 子どもの発達とリトミック、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h)					
13	テキストを使って（１）音・リズム・拍子感など、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく（1h）					
14	テキストを使って（２）強弱・テンポ・フレーズなど、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)					
15	テキストを使って（３）イメージ・表現など、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)					
時間外での学修	リトミックは豊かな人間性を育成することを目的とした音楽教育です。授業外でも学修した内容を復習するとともに、日頃から日常の小さなことにも感じる心を持ち、豊かな想像力、表現力を養うように心掛けましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	リトミックでは身体を動かしますので、運動のできる服装・履物で出席してください。オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。					

【MS】ピアノ特講		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子・田中 康司						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	(菅田)音楽療法関連施設職員・5年(田中)調律師・30年						
授業内容	授業前半はジャズピアノについて、ジャズの歴史とプレイスタイルを合わせて学びます。(担当:菅田)後半はピアノの歴史、構造としくみ、ピアノに関わる色々な知識を身に付け、自身の演奏、卒業後の職業などに役立てます。(担当:田中)						
授業方法	演習形式:前半のジャズピアノはジャズピアノの奏法を学びます。ピアノの構造としくみは講義を中心として、DVD鑑賞、ピアノの分解、調律の体験などを通じてピアノへの理解を深めます。また学外授業としてサラマンカホールの見学をします。						
到達目標	知識・理解	ジャズの歴史とスタイルについて理解する。ピアノの歴史、構造としくみ、ピアノに関わる色々な知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	ジャズのスタンダード曲で用いられるコード進行、コードネームについて理解し演奏することができる。ピアノの特性を理論立てて伝えることができる。ピアノの特性を自身の演奏に活かし表現することができる。					
	技能	ジャズピアノの即興パートを演奏できる。					
	関心・意欲・態度	ピアノへの理解を通じて、他の楽器や様々な音楽への興味を持ち、音楽の専門家として幅広い知識と教養を身に付けることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	(菅田)実技試験		-	-	20	-	20
	(菅田)授業内発表		10	-	-	20	30
	(田中)筆記試験		30	-	-	-	30
	(田中)発表・レポート		-	10	-	-	10
	(田中)受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		40	10	20	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 実習を終了して所定のレポートを提出することが単位の要件となります。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1(菅田)	ジャズの歴史とスタイル ニューオーリンズジャズ、ブルース [課題(復習)]学んだ内容を復習し、既成曲をニューオリンズスタイルで演奏できるよう練習する(1H)						
2(菅田)	ジャズの歴史とスタイル スwingジャズ [課題(復習)]学んだ内容を復習し、ビックバンドのスタイルを理解する(1H)						
3(菅田)	ジャズの歴史とスタイル ビバップ [課題(復習)]学んだ内容を復習し、ビバップのスタイルを理解する(1H)						
4(菅田)	ジャズの歴史とスタイル クールジャズ [課題(復習)]学んだ内容を復習し、クールジャズのスタイルを理解する(1H)						
5(菅田)	ジャズの歴史とスタイル フュージョン [課題(復習)]学んだ内容を復習し、フュージョンスタイルを理解する(1H)						
6(菅田)	ジャズの歴史とスタイル 現在のジャズ [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実技試験課題曲の譜読みをする(2H)						
7(菅田)	試験前の振り返り [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実技試験課題曲のアドリブパートを完成させる(2H)						
8(菅田)	実技試験 [課題(復習)]実技試験の際に得られたコメントを復習する(2H)						
9(田中)	ピアノの構造としくみ(1)鍵盤楽器の歴史(ピアノの前身楽器と、ピアノの発明・発展を学ぶ)など[課題(復習)]国内外のピアノメーカーを国別に調べる(1h)						
10(田中)	ピアノの構造としくみ(2)グランドピアノとアップライトピアノの違いを知る [課題(復習)]1つのピアノメーカーを選び、機種ごとの大きさ(間口・奥行・高さ)と重さを調べる(1h)						
11(田中)	ピアノの構造としくみ(3)グランドピアノとアップライトピアノの違いを知る [課題(復習)]古い時代のペダルを調べる(例:モーツァルトが活躍した時代のペダルの機能は今と同じか)(1h)						
12(田中)	ピアノの構造としくみ(4)調律師の仕事を知る [課題(復習)]平均律とはどんな調律方法か調べる、平均律以外にどんな調律方法があるか調べる(1h)						
13(田中)	ピアノの構造としくみ(5)ピアノに使われている材料と製造過程を学び、ピアノに適した環境を考える。 [課題(復習)]実施回10の準備と課題で選んだピアノメーカーの機種ごとの特長を調べる(1h)						
14(田中)	ピアノの構造としくみ(6)・サラマンカホールの見学 [課題(予習)]サラマンカホールに関して、案内パンフレットやホームページなどを読んで予習する(1h)						
15(田中)	ピアノの構造としくみ(7)・国際音楽コンクールに関する知識を身に着ける [課題(復習)]国内外の音楽コンクールを調べる(1h)						
時間外での学修	課題曲、ソロパートの作成など自分で課題を見つけて備えてください。 ピアノの構造としくみは、自分自身の演奏や卒業後の仕事に生かせる知識を身に着けます。ピアノまた他の楽器に関しても疑問に思ったことは積極的に調べ知るように心掛けましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:18時間】						
受講学生へのメッセージ	(菅田)オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。 (田中)動きやすい服装・履物で出席してください。グランドピアノの鍵盤蓋や天屋根の分解などを体験してもらいます。オフィスアワーは教室で授業前後の休み時間です。						

【MS】楽曲研究		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	柴田 恭男						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員							
授業内容	曲を分析し、研究することは、演奏、解釈に欠かせません。それは作曲家の意図を探り、隠されたメッセージを読み取ることもあります。また作曲や編曲への大きな手引きにもなります。この授業では、短い易しい曲から長大な曲まで、段階を経て、いろいろな角度からのアプローチをしていきます。きっと新たな発見があることでしょう。						
授業方法	講義を中心に進めますが、随時発表の機会を設け、自発的な授業展開をしていきます。第1回より第3回までオンライン遠隔授業。						
到達目標	知識・理解	楽曲の形式、和声構造について、基本的な知識を理解できる。					
	思考・判断・表現	楽曲から作曲者の意図を読み取ることができる。					
	技能	分析した楽曲を模範として類似したものを創作できる。					
	関心・意欲・態度	楽曲を分析・研究することに興味・関心を持ち、学んだことを演奏や創作に積極的に生かす努力をしながら学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験・レポート		45	10	10	-	65
	発表		5	5	5	5	20
	学修成果の自己評価		5	-	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		55	15	15	15	100
評価の特記事項	試験は、定期テスト及びレポート提出で行います。受講態度は学修への取り組みや発表、提出の状況などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	授業内で指示します。また必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	楽曲研究の基礎1（音楽理論の確認） [課題（復習）] 音程・音階・和音の復習(2～4h)						
2	楽曲研究の基礎2（楽曲分析に必要な知識、和声音と非和声音、及び借用和音について） [課題（復習）]調性判定・和音記号・コードネームの確認（2～4h）						
3	一部形式について（身近な曲を教材に） [課題（復習）]一部形式の旋律の創作(2～4h)						
4	第1回～第3回オンライン授業のフィードバック。及び二部形式について（フォスターの作品を中心に） [課題（復習）]二部形式の旋律の創作(2～4h)						
5	三部形式、複合三部形式、ロンド形式について（ソナチネアルバム、バイエルなどから） [課題（復習）]基礎形式のまとめ(2～4h)						
6	器楽的小楽曲の分析（ブルグミュラーの作品から） [課題（復習）]形式、和声などを分析し、授業で発表する(2～4h)						
7	変奏と変奏曲（さまざまな変化のパターンについて） [課題（復習）]厳格なバリエーションと自由なバリエーションの違い(2～4h)						
8	ベートーヴェンの変奏曲の分析と研究 [課題（復習）]32の変奏曲の分析(2～4h)						
9	ソナタ形式について（その成立と変遷） [課題（復習）]ソナタ形式についてまとめる(2～4h)						
10	ベートーヴェンのピアノソナタの分析と研究 [課題（復習）]第1番の分析(2～4h)						
11	多声音楽と対位法技法について [課題（復習）]二声対位法の課題の実施(2～4h)						
12	バッハのインヴェンションの分析と研究（多様性に注目して） [課題（復習）]第1番の分析(2～4h)						
13	ロマン派作品の研究 [課題（復習）]ショパンノクターンの分析(2～4h)						
14	印象派作品の分析と研究（作曲家の個性と特徴） [課題（復習）]ドビュッシーアラベスク第1番(2～4h)						
15	さまざまな楽器について、及び楽曲研究のまとめ 試験についての説明 [課題（復習）]楽器を分類しまとめる(2～4h)						
時間外での学修	[課題（復習）]としてしめた内容を（ ）の標準学修時間をめどとして取り組んで下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	授業で取り上げた曲以外の曲も、積極的に分析してみてください。 オフィスアワー：質問等は授業前後の休み時間にB404教室で受け付けます。						

【MS】プレイヤー演習		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	0rコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・26年						
授業内容	ブライダルプレイヤーとしての心得を学び、電子オルガンにてチャペル式の流れを式次第にそって演習します。また、人前で演奏に必要なマナーも含めその場に適した演奏ができるようにしていきます。						
授業方法	個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。						
到達目標	知識・理解	ブライダルプレイヤーの心得を知り、チャペル式の流れを理解できる。					
	思考・判断・表現	その場の雰囲気を読み、新郎・新婦の動作に合わせたメリハリのある演奏ができる。					
	技能	真心を込めた丁寧な演奏はもちろんのこと、状況に対応した演奏（ボリューム、速度、アレンジ）ができる。					
	関心・意欲・態度	授業に意欲を持って参加し、学んだ内容を必ず復習する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合 計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業説明（今後の授業の進め方）・予備知識（ブライダルプレイヤーのお仕事について） ICTを活用した双方向型授業（LINE使用） 授業時LINE通話にて指導 [課題(準備)]動画などでチャペル式とはどのようなものか観ておく。 ブライダルプレイヤーとしての仕事内容を理解する（1～2h）						
2	式次第にそって演習（チャペル式） 1 流れ（音楽を入れるタイミング等）、課題の確認 ICTを活用した双方向型授業（LINE使用） 授業時LINE通話にて指導 [課題(予習・復習)]どの場面で音楽を入れるかを理解し、流れを復習する（1～2h）						
3	式次第にそって演習（チャペル式） 2 前奏曲、参列者入場曲）、課題の確認 ICTを活用した双方向型授業（LINE使用） 授業前日までに演奏動画をLINEにて提出 担当教員がチェックし、授業時にLINE通話やビデオ通話で指導 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、見落としのないよう正確な譜読みをする（1～2h）						
4	式次第にそって演習（チャペル式） 3 入場曲）、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、止まらないように弾けるようにしておく（1～2h）						
5	式次第にそって演習（チャペル式） 4 讃美歌 3 1 2 番）、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、一定のテンポで弾けるようにしておく（1～2h）						
6	式次第にそって演習（チャペル式） 5 讃美歌 4 3 0 番、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、テンポを維持しながら止まらないよう弾けるようにしておく（1～2h）						
7	式次第にそって演習（チャペル式） 6 指輪交換等でのBGM、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、即興で繋げられるようにする（1～2h）						
8	式次第にそって演習（チャペル式） 7 新郎・新婦退場曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、止まらないように弾けるようにしておく（1～2h）						
9	式次第にそって演習（チャペル式） 8 参列者退場曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、テンポを維持しながら演奏を中断しないよう弾き続ける（1～2h）						
10	式次第にそって演習（チャペル式） 9 曲想、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、楽曲にふさわしい曲想をつける（1～2h）						
11	式次第にそって演習（チャペル式） 10 演出方法（タイミング、ボリュームのメリハリのつけ方）、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、臨機応変に音量のバランスをコントロールできるようにする（1～2h）						
12	まとめ（ハプニング対処法、服装等）、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、ブライダルプレイヤーとしての自覚を持ち、どんな時でも冷静な判断ができるようにする（1～2h）						
13	試験に向けての取り組み(1) 式次第にそって演習（参列者入場～参列者退場まで）、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、全体の流れやバランスの確認をする（1～2h）						
14	試験に向けての取り組み(2) 弾き込み、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、流れを理解しながら丁寧な演奏ができるようにする（1～2h）						
15	試験に向けての取り組み(3) 仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、臨機応変な対応ができるようにする（1～2h）						
時間外での学修	どんなリクエスト曲がきても困らないように、色んなジャンルの曲をとにかく知り、弾いてみましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間】						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して必ず学んだ内容を復習しましょう。 質問等あれば遠慮なく聞いてください。 オフィスアワーは授業教室で授業の前後の休み時間です。						

【MS】演奏グレード対策(ピアノA)		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	ピアノグレード試験官26年 音楽指導者31年						
授業内容	1年に引き続き、即興演奏について学びます。変奏の方法とまとめ方を実習しながら勉強していきます。初見演奏のポイントを、理解し練習します。						
授業方法	個別指導です。						
到達目標	知識・理解	変奏の方法を理解し、まとめられる。					
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。					
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。					
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	授業態度		-	-	-	15	15
	課題に対する取り組み		-	-	-	15	15
	合 計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ即興演奏の発表で、評価します						
テキスト	授業で提示します。資料を配付します。						
参考書・教材	必要に応じて紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	春休みの課題発表 (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題(準備、他)]ポイントをおさえる(1～2h)						
2	1年間の復習と、確認 授業外の課題も参考にして、実習(伴奏づけ、第1変奏、第2変奏)(LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
3	バス進行について確認 (LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業) [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
4	もりあげ方について [課題(準備、他)]学んだ内容を復習し、実習する(1～2h)						
5	クライマックスをどこにおくか [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
6	モチーフ即興について [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
7	形式について [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1～2h)						
8	和音進行について [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
9	モチーフの発展について [課題(準備、復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1～2h)						
10	和音進行と配置について [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
11	まとめ方 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
12	即興A課題実習 試験に向けて 授業外の課題も参考にする。 [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
13	即興B課題実習 試験に向けて 授業外の課題も参考にする。 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
14	初見課題実習 授業外の課題も参考にする。 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
15	予見について 試験に向けて [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
時間外での学修	学修した事を復習し、積極的に課題に取り組みましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:20時間]						
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。(いつでもよいので聞いて下さい) [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MA】演奏グレード対策(ピアノA)		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	ピアノグレード試験官26年 音楽指導者31年						
授業内容	前期にひき続き、即興演奏について学びます。変奏の方法とまとめ方を実習しながら勉強していきます。初見演奏のポイントを、理解し練習します。5級、4級受験の準備						
授業方法	個人指導です。						
到達目標	知識・理解	変奏の方法を理解し、まとめられる。					
	思考・判断・表現	即興課題を音楽的に演奏できる。					
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。					
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	授業態度		-	-	-	15	15
	課題に対する取り組み		-	-	-	15	15
	合 計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ即興演奏の発表で、評価します						
テキスト	授業で提示します。資料を配付します。						
参考書・教材	必要に応じて紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	夏休みの課題発表 形式について確認 [課題(復習、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
2	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
3	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
4	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1～2h)						
5	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
6	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
7	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1～2h)						
8	5級、4級受験に向けて、即興A課題実習 授業外の課題も参考にする。 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
9	5級、4級、受験に向けて、即興A課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1～2h)						
10	5級、4級、受験に向けて、即興A課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
11	5級、4級、受験に向けて、即興B課題実習 [課題(復習、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
12	5級、4級、受験に向けて、即興B課題実習 [課題(復習、他)]試験に向けて、学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
13	5級、4級受験に向けて、試験に向けて 即興A課題実習 即興B課題実習 [課題(復習、準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
14	初見課題実習 [課題(復習、準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
15	予見について 試験に向けて 授業外の課題も参考にする。 [課題(復習、準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1～2h)						
時間外での学修	学修した事を復習し、積極的に課題に取り組みましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので()の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 20時間]						
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。(いつでもよいので聞いて下さい) [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度						

【MS】演奏グレード対策(ピアノB)		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ演奏グレードの課題である伴奏付けを学修します。修得した知識と技術を活かし、さらに発展していきます。						
授業方法	演習を中心として、一人ずつ演奏・指導します。伴奏付けの知識の理解と技術修得に向け、発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	種々の和音を理解することができる。					
	思考・判断・表現	メロディから適切な和音・和音連結・伴奏形を判断し、音楽的に演奏することができる。					
	技能	調性感や和声感をもって、流れのある演奏をすることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	30	-	70
	受講態度		20	-	-	10	30
	合 計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『キーボードトレーニング集C』カワイ出版(1,944円) ISBN:978-4-7609-7481-8						
参考書・教材	必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス(グループLINEビデオ通話使用) カデンツについて・伴奏スタイルについて T-D-Tの4小節トレーニング(1)(ICTを活用した双方向型授業:FaceTime・LINEビデオ通話等使用) [課題(復習)] 1年次に学修した内容を復習し、T-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
2	T-D-Tの4小節トレーニング(2)、課題の確認(ICTを活用した双方向型授業:FaceTime・LINEビデオ通話等使用) [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、T-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
3	T-S-D-Tの4小節トレーニング(1)、課題の確認(ICTを活用した双方向型授業:FaceTime・LINEビデオ通話等使用) [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、T-S-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
4	T-S-D-Tの4小節トレーニング(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、T-S-D-Tの課題が演奏できるようにする(1h)						
5	の第2転回形を含む4小節トレーニング(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、の第2転回形を含む課題が演奏できるようにする(1h)						
6	の第2転回形を含む4小節トレーニング(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、の第2転回形を含む課題が演奏できるようにする(1h)						
7	T-S-Tを含む4小節トレーニング(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、T-S-Tを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
8	T-S-Tを含む4小節トレーニング(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、T-S-Tを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
9	8小節トレーニング(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにする(1h)						
10	8小節トレーニング(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにする(1h)						
11	8小節トレーニング(3)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにする(1h)						
12	ドッペルドミナントを含むパターン(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
13	ドッペルドミナントを含むパターン(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
14	ドッペルドミナントを含むパターン(3)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにする(1h)						
15	まとめ・受験対策、課題の確認 [課題(復習)] 前期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする(1h)						
時間外での学修	毎回課題を提示しますので、授業外で必ず練習を行い、授業時に演奏できるようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】						
受講学生へのメッセージ	自己練習を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【MA】演奏グレード対策(ピアノB)		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ演奏グレードの課題である伴奏付けを学修します。修得した知識と技術を活かし、更に発展していきます。						
授業方法	演習を中心として、一人ずつ演奏・指導します。伴奏付けの知識の理解、技術修得に向け、発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	種々の和音・調性を理解することができる。					
	思考・判断・表現	メロディから適切な和音・和音連結・伴奏形を判断し、音楽的に演奏することができる					
	技能	調性感や和声感をもって、流れのある演奏をすることができる					
	関心・意欲・態度	積極的に取り組み、技術修得のための努力を継続することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	30	-	70
	受講態度		20	-	-	10	30
	合 計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『キーボードトレーニング集C』カワイ出版(1,944円)ISBN:978-4-7609-7481-8						
参考書・教材	必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	総合課題(1) [課題(復習)] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
2	総合課題(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
3	総合課題(3)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
4	総合課題(4)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにする(1h)						
5	よく使われるコードパターン(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにする(1h)						
6	よく使われるコードパターン(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにする(1h)						
7	よく使われるコードパターン(3)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにする(1h)						
8	伴奏付け課題(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
9	伴奏付け課題(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
10	伴奏付け課題(3)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
11	伴奏付け課題(4)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
12	伴奏付け課題(5)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
13	伴奏付け課題(6)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
14	伴奏付け課題(7)、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにする(1h)						
15	まとめ・受験対策、課題の確認 [課題(復習)] 後期に学修した内容を復習し、受験に向けて準備をする(1h)						
時間外での学修	毎回課題を提示しますので、授業外で必ず練習を行い、授業時に演奏できるようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	自己練習を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【MS】演奏グレード対策(電子オルガン)		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	演奏グレード即興 A B モチーフ即興 4 級程度の課題演習 基礎編（ 5 級で学んだ事の確認と 4 級へ向けての応用へ）						
授業方法	演習授業で、 1 人ずつ指導を行います。 1 年次で学んだことの基礎から応用へ。 より良い即興表現力の向上の為に良質の音楽（クラシックからポピュラー）をアナリーゼし即興に応用。						
到達目標	知識・理解	1. 音楽の形式、構造、和声の仕組みを理解できる 2. 即興 A、新曲の形式を捉え、曲想を把握できる					
	思考・判断・表現	与えられたテーマから曲想を読み取りリズムを感じられるようにする					
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる					
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになること					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	20	20	10	70
	受講態度		-	-	10	20	30
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項							
テキスト	ありません。						
参考書・教材	コピーにて渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	5 級程度の基礎がどの程度身についているか確認。 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
2	コード付けについて ・コードパターン、ベース進行、固有和音、借用和音等 個別別に説明確認 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
3	スケール、カデンツ＃ 4 つまでのトレーニングを個別別実施確認 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
4	即興 A 新曲演奏について [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
5	既成曲よりコードパターン、ベース進行のアナリーゼ [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
6	課題による演習 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
7	課題による演習 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
8	即興 B モチーフ即興について [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
9	色々なコードパターンを取り上げ、個々に作曲する [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
10	個人チェック [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
11	新曲にコード付け [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
12	課題による演習 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
13	課題による演習 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
14	リズムのパターン、5 級で学んだものプラス、サンバ・タンゴ・ジャズワルツのトレーニング [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
15	基礎パターンの個人チェック [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
時間外での学修	数多くの音楽を注意深く聴き、多くの良質のアレンジ譜を演奏し、それを分析・アナリーゼして即興のヒントにする。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	ひたすらカデンツとスケール（＃ 4 つまでの長短調）を粘り強くトレーニングする事。 オフィスアワーは非常勤講師控室で毎週金曜日 12：40～12：55 です。						

【MA】演奏グレード対策(電子オルガン)		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	演奏グレード即興 A B 4 級程度の課題実習 応用編(リズムパターン・ハーモニー付け・編曲演奏)						
授業方法	演習授業で、1 人ずつ指導を行います。 前期に学んだ事の確認と 4・3 級への応用						
到達目標	知識・理解	4 級の過去問題集の実習と自己演奏表現力の向上					
	思考・判断・表現	電子オルガン(ステージア)の即興演奏に良い音作りができる事					
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる					
	関心・意欲・態度	即興演奏とは何か。かたちだけにとらわれず、楽しく自己表現できる事					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	20	20	10	70
	受講態度		-	-	10	20	30
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項							
テキスト	ありません。						
参考書・教材	コピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	即興 A、B 基礎パターン(コード付け)の確認 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
2	個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
3	楽曲のリズムパターンのアナリゼ (既成曲より) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
4	リズムパターンの復習、確認(マーチ・ワルツ・ジャズワルツ・サンバ・ビギン・ルンバ) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
5	課題による演習 個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
6	課題による演習 個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
7	モチーフ即興 個人パターンを作り発表 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
8	課題による演習 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
9	即興 A におけるステージアの音作り [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
10	個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
11	即興 B におけるステージアの音作り [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
12	個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
13	即興 A コード付け色々応用、課題にて発表 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
14	即興演奏 4 級の総括 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
15	即興演奏 4 級の総括 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
時間外での学修	1 年次に学んだ基礎をさらに磨く事 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	即興演奏は楽しいものです。 オフィスアワーは非常勤講師控室で毎週金曜日 12:40 ~ 12:55 です。						

【MS】指導グレード対策 A		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	指導グレード 筆記・実技試験に向けての内容理解 課題問題のアナリゼ、トレーニング						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 課題の実習と過去問題集の分析、キーボードハーモニー、コードトレーニング、オーケストレーション（移調楽器）を確認する。管弦楽法						
到達目標	知識・理解	指導グレード4級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる。					
	思考・判断・表現	指導グレード4級を目指し、同程度の問題の理解と実習ができる。					
	技能	テーマをソルフェージュし、楽譜を見たら頭で即、音が鳴るようにする。					
	関心・意欲・態度	実技試験における楽曲の解釈と"演奏表現力"を高める。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	10	-	40
	実技試験		20	10	10	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
合 計(点)		40	20	20	20	100	
評価の特記事項							
テキスト	『指導グレード5・4・3級実技試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,296円))ISBN:9784864617420 『指導グレード5・4・3級筆記試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,404円))ISBN:9784864617437 1年次「指導グレード対策 A ・ ・ 」履修者は購入済						
参考書・教材	その他の資料はコピーにて渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コード進行、コードパターンの確認 [課題（復習）]学んだコード進行の復習(1～2h)						
2	借用和音、キーボードハーモニー# 4つまでを個別に実施し、確認。 [課題（復習）]借用和音を含んだコードを# 4つに、移調奏する(1～2h)						
3	既成曲のコード付け、移調奏を個別に実施し確認。 [課題（復習）]既成曲の移調練習をする(1～2h)						
4	既成曲のコード付け、移調 [課題（復習）]既成曲の移調練習をする(1～2h)						
5	伴奏付け課題 [課題（復習）]伴奏付けの課題をこなす(1～2h)						
6	伴奏付け応用課題、演習 [課題（復習）]伴奏付けの課題を練習、及び移調奏して定着させる(1～2h)						
7	新曲視唱から弾き歌いへ [課題（復習）]新曲視唱、弾き歌いの課題を熟す(1～2h)						
8	新曲視唱から弾き歌いへ [課題（復習）]新曲視唱、弾き歌いの課題を熟す(1～2h)						
9	オーケストレーション、1年生の復習より課題へ導入 [課題（復習）]今まで学んできた内容の復習(1～2h)						
10	移調楽器の理解と確認 [課題（復習）]移調楽器に対する理解を深める(1～2h)						
11	聴音と移調奏の演習 [課題（復習）]移調奏の課題を熟す(1～2h)						
12	聴音と移調奏の演習 [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
13	伴奏付け、移調奏、キーボードハーモニーのまとめ [課題（復習）]今まで学んできた内容の復習(1～2h)						
14	前期のまとめとして鍵盤実技の個人チェック [課題（復習）]今まで学んできた内容の総復習(1～2h)						
15	筆記試験 16回目：実技試験 [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習と、練習課題を熟す(1～2h)						
時間外での学修	より良い演奏表現力を求めて、日頃から楽曲の分析と理解を深めて欲しい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	毎回授業で与えられた課題の復習ドリルを欠かさずにやる事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MA】指導グレード対策 A		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	指導グレード、筆記・実技試験に向けての実習 筆記試験問題（コード進行法・伴奏付け・カウンター・楽典）						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 管弦楽法の理解とオーケストレーション、スコアリーディングを通して楽曲の分析をする。 実技、過去問題集による実習						
到達目標	知識・理解	筆記試験 4 級の内容に準じてオーケストレーションの理解					
	思考・判断・表現	スコアリーディングよりソロ、アンサンブル編曲の力を増す事					
	技能	どんな調性にも対応できるようにする					
	関心・意欲・態度	より高い演奏、表現力、芸術性を高め、楽曲の深い理解を増す事					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	10	-	40
	実技試験		20	10	10	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『指導グレード5・4・3級実技試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,296円))ISBN:9784864617420 『指導グレード5・4・3級筆記試験問題一覧 2013～2015年実施』ヤマハミュージックメディア(1,404円))ISBN:9784864617437 1 年次「指導グレード対策 A ・ ・ 」履修者は購入済						
参考書・教材	その他資料はコピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディング [課題（復習）](オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディングに対する理解を深める（1～2h）)						
2	オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディング [課題（復習）]オーケストレーション、移調楽器、スコアリーディングに習熟する](1～2h)						
3	筆記試験 過去問題集による実習、演習 コード進行法 [課題（復習）]コード進行法を復習する。過去問題集による実習、演習をする(1～2h)						
4	筆記試験 過去問題集による実習、演習 伴奏付け [課題（復習）]伴奏付けに習熟する。過去問題集による実習、演習をする(1～2h)						
5	筆記試験 過去問題集による実習、演習 カウンター [課題（復習）]カウンターを復習する。過去問題集による実習、演習をする(1～2h)						
6	筆記試験のまとめ [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
7	ソルフェージュ、伴奏付け 演習 [課題（復習）]ソルフェージュ、伴奏付けに習熟する。(1～2h)						
8	弾き歌い、移調奏 演習 [課題（復習）]弾き歌い、移調奏に習熟する。(1～2h)						
9	実技試験のまとめ [課題（復習）]今まで学んだ内容を復習する(1～2h)						
10	個人チェック 何が本人にとって欠けているか [課題（復習）]自分の欠けているところを知り、補う演習をする(1～2h)						
11	個人チェック [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習(1～2h)						
12	指導グレードにおける筆記問題 個人チェック [課題（復習）]学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
13	指導グレードにおける筆記問題 個人チェック [課題（復習）]今まで学んだ内容の復習と演習(1～2h)						
14	4 級模擬試験 筆記・実技 [課題（復習）]学んだ内容の復習(1～2h)						
15	筆記試験 16回目：実技試験 [課題（復習）]今まで学んだ内容の総復習(1～2h)						
時間外での学修	日頃よりクラシックの名曲などを聴き、スコアリーディングをして楽曲のアナリーゼの習慣をつけてほしい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	毎回の課題の復習、ドリルをする事。 オフィスアワーは非常勤講師控室にて毎週金曜日の12:40～12:55です。						

【MS】指導グレード対策B		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ指導グレードの内容である、オーケストラや室内楽のスコアに関する知識に基づいたスコアリーディング、和声進行についての正しい理解に基づいたピアノ譜作成などを修得します。また初見奏も学修します。						
授業方法	演習を中心として、知識を深めるため、小グループでの活動も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	スコアに用いられている記号、ジャンル、楽器などについての知識を理解し修得することができる。					
	思考・判断・表現	和音記号、コードネームを正しく認識し、メロディ、和音記号、コードネームから適切な和音、和音連結、内声部、伴奏形を導き出すことができる。					
	技能	初見奏にて、音楽を楽譜からの確にとらえる能力、また音楽的に表現する能力を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	実技試験		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
合 計(点)		30	30	30	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社(1,620円) ISBN:4-276-10142-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円) ISBN:4-7609-7621-3 前年度購入						
参考書・教材	必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス(グループLINEビデオ通話使用) スコアリーディング(1)オーケストラの編成/ピアノ譜作成(1)ラインと音域・和音の転回・ベースの転回位置(ICTを活用した双方向型授業:グループLINEビデオ通話使用、課題は学生ポータルで提出・返却) [課題(予習)] オーケストラの編成、ラインと音域、転回形について理解する(1h)						
2	スコアリーディング(2)移調楽器/ピアノ譜作成(2)コードの連結とポジション/初見奏/課題の確認(ICTを活用した双方向型授業:【全員】グループLINEビデオ通話 【個人】FaceTime・LINEビデオ通話等 使用、課題は学生ポータルで提出・返却) [課題(復習)] 学修した内容を復習し、移調楽器、コードの連結とポジションについて理解する(1h)						
3	スコアリーディング(3)木管楽器 /ピアノ譜作成(3)連続5度・連続8度/初見奏/課題の確認(ICTを活用した双方向型授業:【全員】グループLINEビデオ通話 【個人】FaceTime・LINEビデオ通話等 使用、課題は学生ポータルで提出・返却) [課題(復習)] 学修した内容を復習し、木管楽器、連続5度・連続8度について理解する(1h)						
4	スコアリーディング(4)木管楽器 /ピアノ譜作成(4)解決/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、木管楽器、解決について理解する(1h)						
5	スコアリーディング(5)金管楽器 /ピアノ譜作成(5)分散和音の伴奏形 /初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、金管楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
6	スコアリーディング(6)金管楽器 /ピアノ譜作成(6)4和音の配置と連結/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、金管楽器、4和音の配置と連結について理解する(1h)						
7	スコアリーディング(7)打楽器/ピアノ譜作成(7)分散和音の伴奏形 /初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、打楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
8	スコアリーディング(8)弦楽器 /ピアノ譜作成(8)分散和音の伴奏形 /初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、弦楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
9	スコアリーディング(9)弦楽器 /ピアノ譜作成(9)コードの機能とカデンツ・ドミナントモーションと限定進行/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、弦楽器、コードの機能とカデンツ、ドミナントモーション、限定進行について理解する(1h)						
10	スコアリーディング(10)その他の楽器/ピアノ譜作成(10)ドミナントモーションの連結 ・右手のメロディ+コード/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、その他の楽器、ドミナントモーションの連結、右手のメロディ+コードについて理解する(1h)						
11	スコアリーディング(11)舞台配置とスコアの関係 /ピアノ譜作成(11)ドミナントモーションの連結 ・3度、6度の重音/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、舞台配置とスコアの関係、ドミナントモーションの連結について理解する(1h)						
12	スコアリーディング(12)舞台配置とスコアの関係 /ピアノ譜作成(12)カウンターライン/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、舞台配置とスコアの関係、カウンターラインについて理解する(1h)						
13	スコアリーディング(13)実際のスコアを読む /ピアノ譜作成(13)連続8度とピアノのオクターヴ奏法・単音、密集配置の伴奏形/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、実際のスコア、連続8度とピアノのオクターヴ奏法、単音・密集配置の伴奏形について理解する(1h)						
14	スコアリーディング(14)実際のスコアを読む /ピアノ譜作成(14)密集伴奏形/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、実際のスコア、密集伴奏形について理解する(1h)						
15	スコアリーディング(15)実際のスコアを読む /ピアノ譜作成(15)実例を見ながら/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、実際のスコア、ピアノ譜について理解する(1h)						

時間外での学修	学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。初見奏も授業外で自主的にトレーニングしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室 B 206 で毎週金曜日の午後です。

【MA】指導グレード対策B		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	カワイピアノ指導グレードの内容である、ピアノ曲における楽曲分析、和声進行の知識に基づいたピアノ譜作成などを修得します。また初見奏も学修します。						
授業方法	演習を中心として、理解を深めるために、小グループでの活動も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	調性および関係調、カデンツ、非和声音、モチーフの使われ方、フレーズの盛り上げ方、和声の変化の仕方などの知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	和音記号、コードネームを正しく認識し、メロディ、和音記号、コードネームから適切な和音、和音連結、内声部、伴奏形を導き出すことができる。					
	技能	初見奏にて、音楽を楽譜からの確にとらえる能力、また音楽的に表現する能力を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	実技試験		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
合 計(点)		30	30	30	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況で評価します。						
テキスト	『和声と楽式のアナリーゼ』音楽之友社(2,160円)ISBN:4-276-10213-8 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,700円)ISBN:4-7609-7621-3 前年度購入						
参考書・教材	必要に応じて配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	楽曲分析(1) 旋律と和声・和音・和音の組み立て・和音の分析・分散和音・非和声音/ピアノ譜作成(1) 課題に取り組む/初見奏 【課題(復習)】 前期に学修した内容を復習し、旋律と和音について理解する(1h)						
2	楽曲分析(2) カデンツの第1型・カデンツの第3型・2部形式の曲・3部形式の曲・2部形式と3部形式との違い・コーダ/ピアノ譜作成(2) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、カデンツ、形式について理解する(1h)						
3	楽曲分析(3) カデンツの第2型・低音位・Dとしての、2転、Sとしての、/ピアノ譜作成(3) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、カデンツ、和音の機能について理解する(1h)						
4	楽曲分析(4) 主音の保続音・非和声音のつづき・近親調・同主調・転調/ピアノ譜作成(4) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、保続音、非和声音、関係調について理解する(1h)						
5	楽曲分析(5) 複合3部形式/ピアノ譜作成(5) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、複合3部形式について理解する(1h)						
6	楽曲分析(6) Tとしての、各種のD和音・各種のS和音/ピアノ譜作成(6) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、和音の機能について理解する(1h)						
7	楽曲分析(7) 終止・非和声音のおぎない・ロンド形式/ピアノ譜作成(7) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、終止、非和声音、ロンド形式について理解する(1h)						
8	楽曲分析(8) ソナタ形式・ソナタ形式分析の要領/ピアノ譜作成(8) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、ソナタ形式について理解する(1h)						
9	楽曲分析(9) 借用和音・Sとしてのドッペルドミナント/ピアノ譜作成(9) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、借用和音、ドッペルドミナントについて理解する(1h)						
10	楽曲分析(10) ドッペルドミナントの下方変位/ピアノ譜作成(10) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントの下方変位について理解する(1h)						
11	楽曲分析(11) ナポリの、ドリアの、の和音の上方変位/ピアノ譜作成(11) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、ナポリの、ドリアの、の和音の上方変位について理解する(1h)						
12	楽曲分析(12) 各音度の5度関連・偶成和音・主音上の、属音の保続音/ピアノ譜作成(12) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、各音度の5度関連、偶成和音、主音上の、属音の保続音について理解する(1h)						
13	楽曲分析(13) 変奏曲/ピアノ譜作成(13) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、変奏曲について理解する(1h)						
14	楽曲分析(14) ソナタ形式のまとめ・楽曲としてのソナタ・各種演奏形態におけるソナタ/ピアノ譜作成(14) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、ソナタ形式について理解する(1h)						
15	楽曲分析(15) ロンド形式のまとめ/ピアノ譜作成(15) 課題に取り組む/初見奏/課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、ロンド形式について理解する(1h)						
時間外での学修	学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。初見奏も授業外で自主的にトレーニングしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【MS】和声学		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。					
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。					
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。					
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『和声 理論と実習 』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057 「和声学 ・ 」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	属7の和音 [課題(復習)]課題25,26,27を解いてみましょう。(1h)						
2	属7の和音 [課題(復習)]課題28(1～4)を解いてみましょう。(1h)						
3	属7の和音 [課題(復習)]課題28(5～8)を解いてみましょう。(1h)						
4	属7の和音 [課題(復習)]課題28(9～12)を解いてみましょう。(1h)						
5	属7の和音 [課題(復習)]課題30(1～3)を解いてみましょう。(1h)						
6	属7の和音 [課題(復習)]課題30(4～6)を解いてみましょう。(1h)						
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題(復習)]課題(6～10)を解いてみましょう。(1h)						
8	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題31,32,33を解いてみましょう。(1h)						
9	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題34(1～3)を解いてみましょう。(1h)						
10	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題34(4～6)を解いてみましょう。(1h)						
11	補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題(1～3)を解いてみましょう。(1h)						
12	補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題(4～6)を解いてみましょう。(1h)						
13	指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題(復習)]課題(1～3)を解いてみましょう。(1h)						
14	指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題(復習)]課題(4～6)を解いてみましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題(復習)]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MA】和声学		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。					
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。					
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。					
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『和声 理論と実習』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円)ISBN:978-4276102057 「和声学 ・ ・ ・ 」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	属9の和音（長調） [課題（復習）]課題35,36,37,38,39を解いてみましょう。(1h)						
2	属9の和音（長調） [課題（復習）]課題40（1～6）を解いてみましょう。(1h)						
3	属9の和音（長調） [課題（復習）]課題40（7～12）を解いてみましょう。(1h)						
4	属9の和音（短調） [課題（復習）]課題41,42を解いてみましょう。(1h)						
5	属9の和音（短調） [課題（復習）]課題43（1～4）を解いてみましょう。(1h)						
6	属9の和音（短調） [課題（復習）]課題43（5～8）を解いてみましょう。(1h)						
7	属9の和音（短調） [課題（復習）]課題43（9～12）を解いてみましょう。(1h)						
8	D諸和音の総括 [課題（復習）]課題44（1～3）を解いてみましょう。(1h)						
9	D諸和音の総括 [課題（復習）]課題44（4～6）を解いてみましょう。(1h)						
10	D諸和音の総括 [課題（復習）]課題44（7～8）を解いてみましょう。(1h)						
11	補充課題の実習 [課題（復習）]属9の和音（長調）課題を解いてみましょう。(1h)						
12	補充課題の実習 [課題（復習）]属9の和音（短調）課題を解いてみましょう。(1h)						
13	補充課題の実習 [課題（復習）]D諸和音の総括（長調）課題を解いてみましょう。(1h)						
14	補充課題の実習 [課題（復習）]D諸和音の総括（短調）課題を解いてみましょう。(1h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題（復習）]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【MS】音楽総合特講		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	鈴木 孝育・矢田貝 真一						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	音楽の学びを深めていくために基礎的な教養の涵養を図るとともに、音楽に関して学んだ成果を公務として直接生かしていける職業（音楽活動によって職務を果たす自衛隊音楽隊・警察音楽隊・消防音楽隊などの公務員）に求められる基本的な教養についての理解を図ります。また音楽隊の隊員もしくは人事担当者、公務員対策の外部講師をゲスト・スピーカーとして招き、活動や求められる資質等の基本について理解を図ります。音楽隊以外の公務員希望者や一般企業就職希望者にとっても、きわめて有意義な学修内容です。						
授業方法	高校までの国語・社会・数学の基本的な内容について復習を行い、教養として必要な事項の定着と深化を図ります。そのための教材として、実際の採用試験の問題等を活用しながら、学修を進めていきます。						
到達目標	知識・理解	音楽を学ぶ基盤となる国語、社会、数学についての基本的な知識と社会人に教養として求められる知識を身につける。					
	思考・判断・表現	復習した基本的な知識を、音楽活動に必要な思考力や判断力、表現力を培うために深化させようと努力できる。					
	技能	音楽を学ぶために必要な教養の一つとして、知的操作や技法の基礎を身につける。					
	関心・意欲・態度	音楽を学ぶために必要となる豊かな教養を一層高められるよう、積極的に継続した学びの態度を身につけることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		40	10	-	-	50
	学修記録表		10	10	5	-	25
	学修成果の自己評価		-	-	5	10	15
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		50	20	10	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学習姿勢や提出物の状況によって評価します。						
テキスト	『『短大生・専門学校生の就職筆記試験対策 一般常識チェック&マスター 改訂版』』山野晴雄 他著 実教出版(857円) ISBN: 978-4-407-32160-9						
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ZOOMによる講義 ガイダンス。論作文の書き方 終了後、個別に質疑応答。 [課題（復習）]課題プリント、学修ノートを実施する。論作文の書き方について復習する。自衛隊音楽隊について調べる。（3～5h）						
2	公務員講座 自衛隊音楽隊について：隊の活動状況、自衛隊における音楽隊の役割 （動画を見て学修する。） [課題（復習）]自衛隊音楽隊・自衛官採用について復習し、理解する。また、Googleフォームにて確認課題を実施する。（3～5h）						
3	ZOOMによる講義 公務員講座 公務員試験対策；論作文の書き方 終了後、個別に質疑応答。 [課題（復習・準備）]公務員作文の練習・復習を課題プリントにて行う。岐阜県警察音楽隊、岐阜県警察の採用について調べる。（3～5h）						
4	公務員講座 岐阜県警察音楽隊講話：隊の活動状況、警察における兼務音楽隊の役割について [課題（復習・予習）]岐阜県警察音楽隊、岐阜県警察の採用について理解する。論作文の課題プリントを実施する。（3～5h）						
5	公務員講座 公務員試験対策；論作文の書き方 個別の添削指導 [課題（復習・予習）]公務員論文演習・復習を行う。公務員音楽隊についてまとめる。（3～5h）						
6	学修ガイダンス（教養について、学修の進め方や教材について、基礎確認テスト、他） [課題（復習）]基礎確認テストの復習を確実に行う。（3～5h）						
7	世界史・思想文化史と難読漢字の定着と発展 [課題（復習・予習）]世界史・思想文化史と難読漢字の復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）						
8	方程式・同音異義語の定着と発展 [課題（復習・予習）]方程式・同音異義語の復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）						
9	政治と憲法・同訓異義語の定着と発展 [課題（復習・予習）]政治と憲法・同訓異義語の復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）						
10	文章題１・同義語と対義語の定着と発展 [課題（復習・予習）]文章題１・同義語と対義語の復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）						
11	経済と福祉・ことわざと故事成語の定着と発展 [課題（復習・予習）]経済と福祉・ことわざと故事成語の復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）						
12	文章題２・四字熟語１の定着と発展 [課題（復習・予習）]文章題２・四字熟語１の復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）						
13	社会生活・四字熟語２の定着と発展 [課題（復習・予習）]社会生活・四字熟語２の復習と次時内容の予習を確実に行う。（3～5h）						
14	図形・慣用表現と敬語表現の定着と発展 [課題（復習・予習）]図形・慣用表現と敬語表現の復習とこれまで学んだ内容の全体について復習を行う。（4～6h）						
15	まとめ(第6回～14回までの学修の確認と定着) [課題（復習）]学んだ内容の総合的な復習を行う。（2～6h）						

時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に復習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：64時間]
受講学生へのメッセージ	音楽を活用する公務員への就職をめざして、採用試験を想定した学修や音楽隊の活動内容を学びます。音楽隊以外の公務員をめざす学生や一般企業を目指す学生にとっても活用可能な内容です。積極的に学ぼうとする意識をもって受講してください。 *授業の順序や内容は、進捗等の都合で変更されることがあります。 オフィスアワー：質問等があれば、授業終了後、担当教員に申し出てください。

【MA】ソルフェージュ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	1年で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。						
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の修得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和声感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。					
	思考・判断・表現	得られた知識を、実際の音楽の現場に対応できるものにする。					
	技能	音楽の専門家としての知識・理解の上に、音楽を通してコミュニケーションの能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表(グループ発表を含む)		10	5	10	10	35
	筆記試験		40	10	-	-	50
	自己評価		-	5	-	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		50	20	10	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 『女子音楽 カンターレ』音楽之友社 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス ソルフェージュ を理解し臨む。さらに高度な技術を学ぶ。 コンコーネNo.13 カンターレ(エーデルワイス) コールユーブンゲンNo.46 新曲視唱 第3章 No.21-30 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.48の予習とNo.46の復習 1h)						
2	コンコーネNo.13 カンターレ(エーデルワイス) コールユーブンゲンNo.48 新曲視唱 第3章 No.31-40 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.49の予習とNo.48の復習 1h)						
3	コンコーネNo.14 カンターレ(エーデルワイス) コールユーブンゲンNo.49 新曲視唱 第3章 No.61-70 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.50の予習とNo.49の復習 1h)						
4	コンコーネNo.14 カンターレ(星に願いを) コールユーブンゲンNo.50 新曲視唱 第3章 No.71-80 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.51の予習とNo.50の復習 1h)						
5	コンコーネNo.15 カンターレ(星に願いを) コールユーブンゲンNo.51 新曲視唱 第3章 No.81-90 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.52の予習とNo.51の復習 1h)						
6	コンコーネNo.16 カンターレ(星に願いを) コールユーブンゲンNo.52 新曲視唱 第4章 No.1-10 聴音 到達度確認テスト(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.53の予習とNo.52の復習 1h)						
7	コンコーネNo.16 カンターレ(野ばら) コールユーブンゲンNo.53 新曲視唱 第4章 No.11-20 聴 音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.54の予習とNo.53の復習 1h)						
8	コンコーネNo.17 カンターレ(野ばら) コールユーブンゲンNo.54 新曲視唱 第4章 No.21-30 聴 音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.55の予習とNo.54の復習 1h)						
9	コンコーネNo.17 カンターレ(野ばら) コールユーブンゲンNo.55 新曲視唱 第4章 No.31-40 聴 音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.56の予習とNo.55の復習 1h)						
10	コンコーネNo.18 カンターレ(赤とんぼ) コールユーブンゲンNo.56 新曲視唱 第4章 No.41-50 聴音 到達度確認テスト(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.57の予習とNo.56の復習 1h)						
11	コンコーネNo.18 カンターレ(赤とんぼ) コールユーブンゲンNo.57 新曲視唱 第4章 No.51-60 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.58の予習とNo.57の復習 1h)						
12	コンコーネNo.19 カンターレ(赤とんぼ) コールユーブンゲンNo.58 新曲視唱 第4章 No.61-70 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.59の予習とNo.58の復習 1h)						
13	コンコーネNo.19 カンターレ(早春賦) コールユーブンゲンNo.59 新曲視唱 第4章 No.111-120 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲンNo.55の復習 1h)						
14	コンコーネNo.20 カンターレ(早春賦) コールユーブンゲンまとめ 新曲視唱 第4章 No.121-130 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲン2年前期の課題復習 1h)						
15	コンコーネNo.21 カンターレ(早春賦) コールユーブンゲンまとめ 新曲視唱 第4章 No.131-140 聴音 到達度確認テスト(〔課題(復習)〕コールユーブンゲン2年前期の課題復習 1h)						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないよう体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて 木曜日16:10～16:20						

【MA】ソルフェージュ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	声楽家43年、声楽指導40年、合唱指導26年						
授業内容	2年次前期で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。						
授業方法	実技、実践を中心として、基礎的な音楽知識の修得・応用をしていきます。						
到達目標	知識・理解	調性を理解し、楽譜の基礎的な読み書きができる。					
	思考・判断・表現	音楽を楽譜からの確にとらえ、音楽的に表現する能力を身につけることができる。					
	技能	音感、リズム感、和声感を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、自身の音楽活動に活かす努力ができる。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		実技試験	20	10	20	-	50
	筆記試験	20	-	20	-	40	
	受講態度	-	-	-	10	10	
	合 計(点)	40	10	40	10	100	
評価の特記事項							
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 『女子音楽 カンターレ』音楽之友社 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コンコーネNo.22 カンターレ(夢路より)コールユーブンゲン No.60・61 新曲視唱 第4章 No.141～150 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.62・63の予習と No.60・61の復習						
2	コンコーネNo.23 カンターレ(夢路より)コールユーブンゲン No.62・63 新曲視唱 第4章 No.151～160 聴音(〔課題(復習)〕コールユーブンゲン No.64・65の予習と No.62・63の復習 1h)						
3	コンコーネNo.24 カンターレ(夢路より)コールユーブンゲン No.64・65 新曲視唱 第4章 No.161～170 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.66・67の予習と No.65・66の復習						
4	コンコーネNo.25 カンターレ(アニー・ローリー)コールユーブンゲン No.66・67 新曲視唱 第4章 No.171～180 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.68・69の予習と No.66・67の復習 1h)						
5	コンコーネNo.26 カンターレ(アニー・ローリー)コールユーブンゲン No.68・69 新曲視唱 第5章 No.1～10 聴音 到達度確認テスト(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.70・71の予習と No.68・69の復習 1h)						
6	コンコーネNo.27 カンターレ(アニー・ローリー)コールユーブンゲン No.70・71 新曲視唱 第5章 No.11～20 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.72・73の予習と No.70・71の復習 1h)						
7	コンコーネNo.28 カンターレ(グリーン・スリーヴス)コールユーブンゲン No.72・73 新曲視唱 第5章No.21～30 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.74・75の予習と No.72・73の復習 1h)						
8	コンコーネNo.29 カンターレ(グリーン・スリーヴス)コールユーブンゲン No.74・75 新曲視唱 第5章No.31～40 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.76・77の予習と No.74・75の復習 1h)						
9	コンコーネNo.30 カンターレ(グリーン・スリーヴス)コールユーブンゲン No.76・77 新曲視唱 第5章No.41～50 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.78・79の予習と No.76・77の復習 1h)						
10	コンコーネNo.31 カンターレ(春の日の花と輝く)コールユーブンゲン No.78・79 新曲視唱 第5章 No.61～70 聴音 到達度確認テスト(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.80・81の予習と No.78・79の復習 1h)						
11	コンコーネNo.32 カンターレ(春の日の花と輝く)コールユーブンゲン No.80・81 新曲視唱 第5章 No.71～80 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.82・83の予習と No.80・81の復習 1h)						
12	コンコーネNo.33 カンターレ(春の日の花と輝く)コールユーブンゲン No.82・83 新曲視唱 総復 習 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.84・85の予習と No.82・83の復習 1h)						
13	コンコーネNo.34 カンターレ(Amazing Grace)コールユーブンゲン No.84・85 新曲視唱 総復習 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン No.86・87の予習と No.84・85の復習 1h)						
14	コンコーネNo.35 カンターレ(Amazing Grace)コールユーブンゲン No.86・87 新曲視唱 総復習 聴音(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン 2年間の復習 1h)						
15	コンコーネNo.36 カンターレ(Amazing Grace)コールユーブンゲン 2年間のまとめ 新曲視唱 総復 習 聴音 到達度確認テスト(〔課題(復習)〕 コールユーブンゲン 2年間の復習 1h)						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないように体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日16:10～16:20						

【MS】鍵盤楽器		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	1年生で基礎的な演奏技術や知識を修得したことをより深く追求し、演奏することを通して自己の内面や感性を磨き表現力豊かな音楽を作り出せるように。そして、各々の専門分野に結び付け役立てていけるようにします。						
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。 レッスンの時間までの空き時間は、練習室で自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的奏法を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。					
	技能	音楽の専門家として役立てていけるために必要な演奏技術を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち理解を深め、意欲的に取り組む姿勢を持つことで音楽を通して、人との関わりを大切にしていけることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		25	-	-	15	40
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
テキスト							
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス・lineのビデオ通話を使用してひとりひとり次回からの練習曲を個々に選択する。 [課題(準備)]次回からの曲の譜読みをする。(1h)						
2	練習曲(1)指使い[lineのビデオ通話で奏法などの確認。] [課題(復習)]指のポジションや指使いを確認する。(1h)						
3	練習曲(2)部分練習[lineのビデオ通話で練習方法等、アドバイス。] [課題(復習)]片手奏や部分練習を十分に行う。(1h)						
4	練習曲(3)音楽表現 [課題(復習)]音の強弱やフレーズを考えて演奏する。(1h)						
5	練習曲(4)曲想 [課題(復習)]曲想を、自ら考えて演奏する。(1h)						
6	練習曲(5)弾き込み [課題(復習)]曲の流れを考えて、反復練習する。(1h)						
7	練習曲(6)仕上げ [課題(復習)]練習を積み重ねてきた曲をまとめる。(1h)						
8	試験曲の選曲を個々に行う。 [課題(準備)]試験曲の譜読みをする。(1h)						
9	試験曲(1)指使い [課題(復習)]指使いの工夫やポジションの再確認する。(1h)						
10	試験曲(2)フレージング・バランス [課題(復習)]曲にふさわしいテンポや音のバランスを考える。(1h)						
11	試験曲(3)曲想 [課題(復習)]音楽の流れや響きを考える。(1h)						
12	試験曲(4)暗譜・曲の理解を深めるために必要不可欠な為時間をかけて取り組む [課題(復習)]暗譜を丁寧にする。(1h)						
13	試験曲(5)弾き込み [課題(復習)]曲の流れをとらえて、止まらないで演奏できるように弾き込む。(1h)						
14	試験曲(6)仕上げ [課題(復習)]何度も練習を積み重ねる。(1h)						
15	試験曲(7)前期のまとめとして自信をもって演奏できるように繰り返し練習する。(1h) [課題(準備)]休暇中の課題曲を決める。						
時間外での学修	個々の進度に合わせて進めていきますので、レッスンで学んだことの復習と次回レッスンまでの目標を達成できるように自主練習を心がけてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の積み重ねが大切です。 オフィスアワーは、レッスン時間の前後休み時間です。						

【MA】鍵盤楽器		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	1年生で基礎的な演奏技術や知識を修得したことをより深く追求し、演奏することを通して自己の内面や感性を磨き、より豊かな音楽作りを目指します。そして、各々の専門分野に結び付け役立てていけるようにします。						
授業方法	一人一人の進度に合った個人レッスンです。 レッスンの時間までの空き時間は、練習室で自主練習をしてください。						
到達目標	知識・理解	ピアノの演奏に必要な基礎的奏法を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。					
	技能	音楽の専門家として役立てていけるために必要な演奏技術を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち理解を深め、意欲的に取り組む姿勢を持つことで音楽を通して、人との関わりを大切にしていけることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		25	-	-	15	40
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は受講生全員で行います。受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
テキスト							
参考書・教材	個々のレベルに合った楽譜を選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の課題の発表・見直し。(1h) [課題(準備)]次回からの練習曲の選曲をする。						
2	練習曲(1)譜読み [課題(復習)]選曲した練習曲の譜読みをする。(1h)						
3	練習曲(2)フィンガートレーニング [課題(復習)]指使いに注意して、滑らかな指の動きができるように練習する。(1h)						
4	練習曲(3)部分練習 [課題(復習)]片手奏や部分練習を行う。(1h)						
5	練習曲(4)音楽表現 [課題(復習)]音の強弱やフレーズを考えて演奏する。(1h)						
6	練習曲(5)曲想 [課題(復習)]曲にふさわしい音色やハーモニーをつくる。(1h)						
7	練習曲(6)弾き込む [課題(復習)]曲の流れをつかむために、何度も繰り返し練習する。(1h)						
8	練習曲(7)仕上げ [課題(復習)]止まらずに演奏でき、さらに美しい音色が出せるよう自分の演奏をよく聞くようにする。(1h)						
9	試験曲を各々で選曲 [課題(準備)]試験曲の譜読みをする。指使いやポジションの確認。(1h)						
10	試験曲(1)部分練習 [課題(復習)]片手奏や部分的に弾けないところをなくす。(1h)						
11	試験曲(2)曲想 [課題(復習)]曲にふさわしい音色を探究する。(1h)						
12	試験曲(3)音楽表現 [課題(復習)]豊かなハーモニーを奏できるようにイメージして演奏する(1h)。						
13	試験曲(4)暗譜を確実に行う [課題(復習)]楽譜に書かれていることを再確認する。(1h)						
14	試験曲(5)弾き込む [課題(復習)]弾けていないところなどをなくせるように、反復練習を繰り返し行う。(1h)						
15	試験曲(6)総まとめ [課題(復習)]これまでに習得した演奏技術や音楽表現を活かした演奏ができるようにする。(1h)						
時間外での学修	個々の進度に合わせて進めていきますので、レッスンで学んだことの復習と次回レッスンまでの目標を達成できるように自主練習を心がけてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスンで習得したことを改善していけるように日々の積み重ねが大切です。 オフィスアワーは、レッスン時間の前後休み時間です。						

【MS】ポピュラーミュージック		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	持田 雅美					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業内容	ポピュラーミュージックの発展に多大な影響を与えたアーティストの楽曲をCDやDVDで鑑賞し、実際に歌ったり、演奏したり、アンサンブルする事で自分の演奏の糧にします。音楽の自由さ、楽しさを見つけ、音楽での自己表現を目指します。					
授業方法	歌・コーラス・演奏など、実技中心に行います。					
到達目標	知識・理解	課題曲の構成や、歌詞の意味などを理解する。				
	思考・判断・表現	音楽で自分を表現する事ができる。				
	技能	音楽でコミュニケーションをとる事ができる。				
	関心・意欲・態度	人を楽しませる、元気付ける演奏を目指す。感受性豊かに、音楽と向き合う事ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	15	-	-	15	30
	アンサンブル力	-	20	20	-	40
	受講態度	-	-	-	30	30
合 計(点)	15	20	20	45	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト						
参考書・教材	必要な資料。譜面は配付します。					
内 容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション(自己紹介・授業ガイダンス) [課題(復習)]授業内にプロフィールを完成させられなかった人は、持ち帰り作成(1h)					
2	ポピュラーミュージックの歴史と発展(ポピュラーミュージックの歴史、ポピュラーミュージックについて考え、コミュニケーションを取る。リズムトレーニング) [課題(予習)]有名な楽曲と、その理由を考えてくる。(1h)					
3	ポピュラーミュージックの歴史と発展2(楽曲の特性やジャンル、リズムセッション、コール&レスポンス) [課題(予習)]人に紹介したい楽曲を選出し、発表の準備をする。(1h)					
4	ポピュラーミュージックのレコメンド(音楽鑑賞、好きな楽曲の良さを伝える、音楽の知識を深める) [課題(予習)]鑑賞した楽曲の中から、気になる曲を選出し、どこに興味が引っ掛かったのか自己分析(1h)					
5	ポピュラーミュージックのレコメンド2(音楽鑑賞、好きな楽曲の良さを伝える、音楽の知識を深める) [課題(予習)]鑑賞した楽曲の中から気になる曲を選出し、どこに興味が引っ掛かったのか自己分析(1h)					
6	音楽の3要素と構成(リズム・メロディー・ハーモニーの体感、曲の構成、歌詞) [課題(復習)]リズムの練習(1h)					
7	音楽の3要素と構成2(リズム・メロディー・ハーモニーの体感、曲の構成、歌詞) [課題(復習)]リズムの練習(1h)					
8	コーラス練習(リズム・メロディー・ハーモニーの体感) [課題(復習)]必要に応じて自主練習(1h)					
9	コーラス練習2(リズム・メロディー・ハーモニーの体感) [課題(復習)]必要に応じて自主練習(1h)					
10	音楽鑑賞(ライブ映像やライブ音源の鑑賞) [課題(予習)]気になるアーティストの楽曲を聴いてみる(1h)					
11	即興のセッションとポピュラーミュージックの実践(音楽鑑賞、ブルース進行とアドリブ、世界的に有名な楽曲に触れ、演奏する) [課題(復習)]授業内で扱った楽曲を聴いてくる(1h)					
12	ポピュラーミュージックの実践2(世界的に有名な楽曲に触れ、背景や仕組みを理解し、演奏する) [課題(復習)]授業内で扱った楽曲を聴いてくる(1h)					
13	前期試験曲決め・譜面書き 五線譜持参 [課題(復習)]楽譜の作成(1h)					
14	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [課題(復習)]授業内で譜面が書けなかった人は、持ち帰り作成。試験曲練習(2h)					
15	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [課題(復習)]試験曲練習(2h)					
時間外での学修	・多様な価値観を知り、様々なジャンルの音楽に興味を持つ。聴く。 ・社会や芸術などに関心を向ける。 ・音楽を通じ、他者とコミュニケーションをとる。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：17時間】					
受講学生へのメッセージ	全員参加型の授業です。自己解放を目指し、表現する事、飛び出すことを恐れず、みんなで音楽を作りましょう。 オフィスアワーは授業終了後教室で行います。					

【MS】ポピュラーミュージック		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	持田 雅美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	ポピュラーミュージックの発展に多大な影響を与えたアーティストの楽曲をCDやDVDで鑑賞し、実際に歌ったり、演奏したり、アンサンブルする事で自分の演奏の糧にします。 音楽の自由さ、楽しさをみつけ、音楽での自己表現を目指します。						
授業方法	歌・コーラス・演奏など、実技中心に行います。						
到達目標	知識・理解	課題曲の構成や歌詞の意味などを理解する。					
	思考・判断・表現	音楽で自分を表現する事ができる。					
	技能	音楽でコミュニケーションを取る事ができる。					
	関心・意欲・態度	人を楽しませる、元気付ける演奏を目指す。感受性豊かに、音楽と向き合う事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	-	-	15	30
	アンサンブル力		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		15	20	20	45	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	必要な資料・譜面は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	MC練習 テーマを決め、人前で話す練習 [課題（復習）]前期の内容復習(～1h)						
2	DVD鑑賞・ジャンル別楽曲鑑賞・音楽史 [課題（復習）]気になったジャンルの音楽を聴いてみる(～1h)						
3	DVD鑑賞・ジャンル別楽曲鑑賞・音楽史2 [課題（復習）]気になったジャンルの音楽を聴いてみる(～1h)						
4	コーラス・アンサンブル練習1(アンサンブル力を付ける) [課題（復習）]各自コーラスパート復習(～1h)						
5	コーラス・アンサンブル練習2(アンサンブル力を付ける) [課題（復習）]各自コーラスパート復習(～1h)						
6	コーラス・アンサンブル練習3(アンサンブル力を付ける) [課題（復習）]各自コーラスパート復習(～1h)						
7	リズムトレーニングと自己解放 音楽にノッてみよう 動きやすい格好で参加 [課題（復習）]メトロノームでリズムトレーニング(～1h)						
8	リズムトレーニングと自己解放 音楽にノッてみよう2 動きやすい格好で参加 [課題（復習）]メトロノームでリズムトレーニング(～1h)						
9	立ち方・歩き方など、ステージングと舞台用語・マイクワーク [課題（復習）]マイクワークやステージング等を意識してTVやライブを見てみる(～1h)						
10	クリスマスソング鑑賞・練習 [課題（復習）]クリスマスソングを自主的に聴いてみる(0.5～～2h)						
11	クリスマスソング練習1 [課題（復習）]各自クリスマスソング練習(0.5～2h)						
12	クリスマスソング練習2 [課題（復習）]各自クリスマスソング練習(0.5～2h)						
13	後期試験曲決め・実習と譜面書き 五線譜持参 [課題（復習）]課題曲のいろんなver.を聴いて研究(～1h)						
14	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [課題（復習）]授業内で譜面が書けなかった人は、持ち帰り作成。試験曲練習(～2h)						
15	試験曲実習・アドバイスと個人練習 [課題（復習）]試験曲練習(～2h)						
時間外での学修	・多様な価値観を知り、様々なジャンルの音楽に興味を持つ。聴く。 ・社会や芸術などに関心を向ける。 ・音楽を通じ、他者とコミュニケーションをとる。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：20時間】						
受講学生へのメッセージ	全員参加型の授業です。 自己解放を目指し、表現すること、飛びだすことを恐れず、みんなで音楽を作りましょう。 オフィスアワーは、授業終了後教室で行います。						

【MF】和太鼓		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	藤井 久美子						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	高等学校音楽非常勤講師(27年)						
授業内容	まず和太鼓を打つことで、日本の伝統音楽の響きに慣れ豊かなリズム感や拍子感を養い、楽しい遊びや豊かな身体表現ができるようになり、和楽器のアンサンブルを楽しみ即興演奏や即興伴奏ができるまでの音楽的能力を養いたい。						
授業方法	ペアを組みお互い向かい合って一つの太鼓を打ち合い指導教員の打ち方を見ながら打法等を身につける。						
到達目標	知識・理解	和太鼓の歴史や太鼓の種類、打法についての必要な知識を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	その曲に適した打法や躍動感のある表現能力を身につけることができる。					
	技能	和太鼓をしっかりと打ち込み、正しいリズム感や拍子感を身につけることができる。					
	関心・意欲・態度	意欲的に練習して、仲間とアンサンブルを楽しむことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	5	50	-	60
	ステージ発表		-	5	10	5	20
	創作（作曲）		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		5	15	65	15	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、ステージ発表等から総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な楽譜は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	日本太鼓の歴史と鼓動・種類・知識 ICT(携帯のスマートフォンのオープンチャット)を活用した双方向型授業 太鼓の演奏を動画配信 動画から学んだことをレポートにて提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
2	日本太鼓の打法・太鼓の楽譜に慣れよう ICT(携帯のスマートフォンのオープンチャット)を活用した双方向型授業 太鼓の打法、リズム演奏を動画配信 自分のアイディアで作ったパチ、太鼓でリズムを打って動画にて提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
3	基礎練習 基本リズムに慣れよう ICT(携帯のスマートフォンのオープンチャット)を活用した双方向型授業 基本リズム譜を配信 リズム譜を見て打ったリズムを動画にて提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
4	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
5	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
6	和楽器のアンサンブル練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
7	和楽器のアンサンブル練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
8	和楽器による即興演奏への導入 和楽器のアンサンブルと即興演奏・和太鼓作曲 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
9	オリジナル曲（ ）練習 セット打ち 唱歌演奏 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
10	オリジナル曲（ ）練習 リズム練習 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
11	オリジナル曲（ ）練習 構え・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
12	オリジナル曲（ ）練習 パチさばき・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
13	オリジナル曲（ ）練習 音の表現・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
14	オリジナル曲（ ）練習 身体表現・打ち込み [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
15	オリジナル曲（ ）まとめ 発表会 [課題（復習）]学んだ内容を復習する(1～2h)						
時間外での学修	毎日のストレッチと授業で行ったオリジナル曲の見直し練習。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	誰でも叩けば音が出る和太鼓。でも打ち方は千差万別。自分がイメージした音を自由に出せる楽器です。とにかく力を抜いてリラックスして自分の音を追及してみてください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MS】作譜		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）としてコンピュータ浄書履歴・25年						
授業内容	ピアノ、吹奏楽における楽譜は現在では殆どが楽譜製作ソフトによって作成されています。この授業では、自ら作編曲した楽譜、または録音から起した楽譜を第3者が見てもわかりやすい楽譜を作成できるように学習します。 DTMソフトのシステムを理解し、ピアノ譜、吹奏楽等のスコアといった基本的な楽譜の製作をコンピュータによって行います。 学修する主なソフトはFinale 2014を使用します。						
授業方法	DTMソフトのシステムの概要を理解した上で、コンピュータによる楽譜の打ち込みを学習していきます。質疑応答の時間を設け、問題点を解決しながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	DTMソフトのシステムを理解し、基本的な操作ができ演奏者が使用できるスコア、パート譜の製作ができる。					
	思考・判断・表現	見た目の美しい楽譜のレイアウトを構築できる。					
	技能	各ジャンルの譜表の様式を理解し作譜ができる。					
	関心・意欲・態度	手書き譜の浄書など演奏者がより使用しやすい美しい楽譜の作成ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験（技能試験）		20	20	10	-	50
	課題提出		20	20	-	-	40
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	作成データ保存のためUSBメモリが必要です。						
参考書・教材	その都度配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容等 [課題（予習）]DTMについて調べる（1h）						
2	基礎知識1 DTMソフトの概要 [課題（予習）]DTMソフトについて調べる（1h）						
3	基礎知識2 各種ソフト 小テスト [課題（予習）]フィナーレについて調べる（1h）						
4	使用機械の説明 周辺機器の基本的な操作方法 [課題（予習）]フィナーレを使用するPC環境について調べる（1h）						
5	フィナーレの概要 [課題（予習）]フィナーレの操作方法について調べる（1h）						
6	基本的な入力方法 貼り付け [課題（復習）]本時学修内容（基本的な音符入力）の復習（3h）						
7	基本的な入力方法 貼り付け 課題制作1 ピアノ譜の作成 [課題（復習）]本時学修内容（基本的な音符入力）の復習（3h）						
8	基本的な入力方法 課題制作2 ピアノ譜の作成 仕上げ [課題（復習）]本時学修内容（アーテュレーション入力）の復習（3h）						
9	ステップ入力 ショートカットなど [課題（復習）]本時学修内容（ステップ入力に伴うキーボードショートカット）の確認復習（3h）						
10	ステップ入力 課題制作1 総譜の作成 [課題（復習）]本時学修内容（スコアセット作成・レイヤー入力）の復習（3h）						
11	ステップ入力 課題制作2 総譜の作成 [課題（復習）]本時学修内容（発想標語・ディナーミク入力）の復習（3h）						
12	ステップ入力 課題製作3 総譜の作成 仕上げ [課題（復習）]本時学修内容（特殊記譜：符頭変更・連符変更・トレモロ・楽譜レイアウト変更など）の復習（3h）						
13	応用編 その他の入力方法 リアルタイム入力 歌詞入力 等 [課題（予習）]試験内容の予習（3h）						
14	試験対策1 [課題（予習）]試験内容の予習（3h）						
15	試験対策2 [課題（予習）]試験内容の予習（3h）						
時間外での学修	授業内で課題が完成できない場合は各々で時間を作って仕上げてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：35時間]						
受講学生へのメッセージ	短期間に修得するためには、経験が重要になります。そのためかなりの作業量となりますので、本当に覚えたいという気持ちがある人のみ受講してください。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MF】生涯スポーツ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 千穂						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション県協会理事・6年 岐阜県公立小学校教諭・6年						
授業内容	メディアの発展に伴い、社会環境や生活環境も目まぐるしく変化してきました。その中においても、健康に対する意識や関心がより一層高まり、生涯にわたって気軽に運動や活動ができるレクリエーションの役割が大きくなってきています。そこで、レクリエーションの知的理解と多方面からアプローチできる力を身につけていきます。						
授業方法	内容に合わせて、教室を使った講義形式と、体育館を利用したレクリエーション実技を行います。講義・実技共に、指導者としての役割を学ぶために「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。また、生涯スポーツやレクリエーション活動の事業現場へ出かけ実技を行います。						
到達目標	知識・理解	生活環境の変化を学び、レクリエーション活動の重要性を理解する。					
	思考・判断・表現	場面や個々の特性に応じたレクリエーション支援することができる。					
	技能	環境の変化に気づき、目的に応じたレクリエーション活動が提供できる。					
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動を通じ、様々な場面で誰とでも笑顔でふれあうコミュニケーションを意識できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記小テスト		20	-	-	-	20
	実技試験		10	-	10	-	20
	発表(個人1回・グループ1回)		-	10	-	10	20
	レポート(2回)		-	10	-	-	10
	自己評価(毎回)		-	-	5	10	15
	受講態度		-	-	5	10	15
合 計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項							
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり/レクリエーション支援の理論と方法』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 『楽しいアイスブレイキングゲーム集』(公財)日本レクリエーション協会(900円)ISBN:978-4-931180-72-7						
参考書・教材							
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	モデル・プログラム モデル・プログラムを通じ、「レクリエーション概論」を振り返る。 [課題(復習)]地域でされているスポーツには何があるか調べる。(1.0h)						
2	楽しさと元気づくりの理論 [課題(復習)]自分の家族構成をまとめ平日と休日のライフスタイルをまとめる。(0.5h)						
3	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 [課題(復習)]身の回りにおけるコミュニケーションの方法についてまとめる。(0.5h)						
4	信頼関係づくりの方法とホスピタリティー [課題(復習)]各地域に伝わる伝統行事または地域の行事について調べる。(1.0h)						
5	良好な集団作りの理論 [課題(復習)]子どもがアクティブに学べる活動はどんなものがあるか調べる。(1.0h)						
6	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング [課題(復習)]各ライフステージにおける課題は何か(1.0h)						
7	プログラムの立案 全国一斉あそびの日のコーナー実践にむけて具体的に計画 [課題(復習)]全国一斉あそびの日は、全国でどのようなことがなされているか(1.0h)						
8	安全管理の方法 [課題(復習)]一次救命処置とはなにかまとめる。(0.5h)						
9	レクリエーション活動の習得 6月14日(日)全国一斉あそびの日 in大垣 市民活動の実際 [課題(復習)]当日の動きについて確認(0.5h)						
10	レクリエーション支援の実施 6月14日(日)全国一斉あそびの日 in大垣 市民活動の支援と運営[課題(復習)]当日準備確認(0.5h)						
11	レクリエーション支援の実施 全国一斉あそびの日in大垣 振り返り [課題(復習)]全国一斉あそびの日報告書提出(1.0h)						
12	自主的主体的に楽しむ力を高める理論 [課題(復習)]各自の趣味についてまとめる(0.5h)						
13	自主的主体的に楽しむ力を育む展開方法 [課題(復習)]軽スポーツ種目について調べ提出する。(0.5h)						
14	本講義内容の理解度(筆記小テスト)各自調べてきた軽スポーツについて発表。 アイスブレイキング・ゲームの指導を通じた指導者の心得を知り、次時の実技試験にむけて準備する。[課題(復習)]軽スポーツ種目について調べたものの発表準備。本時までの内容を見直す(1.0h)						
15	「楽しいアイスブレイキング」指導を1人1種目行う。(実技試験) [課題(復習)]実技試験にむけて心得を踏まえた指導練習(1.0h)						
時間外での学修	(特非)岐阜県レクリエーション協会(特非)大垣市レクリエーション協会など地域レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する。(事前に参加手続きを各自で行なう)参加報告を作成提出すること。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：18.5時間】						
受講学生へのメッセージ	服装はTP0に合わせることが大切です。学習内容に合わせたふさわしい服装を心がけてください。現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。授業内容が会場・物品の都合で前後することもあります。 オフィスアワーは、授業後10分間とします。						

【MF】生涯スポーツ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 千穂						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション県協会理事・7年 岐阜県公立小学校教諭・6年						
授業内容	人づくり・町づくりのキーワードは、コミュニケーションです。親子も高齢者もコミュニケーションを高め、体力・増進の目的で生涯スポーツを楽しむ人々が増加しています。幅広い年齢層で楽しむことのできるスポーツやレクリエーションが生まれ、親しまれています。そこで、コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心に福祉レクリエーションの要素を取り入れながら実践します。また、さまざまなアクティビティーに関する知的理解と指導法の修得について学びます。						
授業方法	体育館にてニュースポーツやゲーム・ソング・ダンス・クラフトの実技・指導演習を行う。						
到達目標	知識・理解	年齢や体力・技能を考慮した活動を理解する。					
	思考・判断・表現	発達の特性を生かした指導計画を作成できる。					
	技能	ゲームの特性を理解し、楽しいの伝達ができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に関わり合いを持ち、社会に貢献する姿となることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	-	5	10	20
	自己評価(毎回)		10	-	10	-	20
	受講態度		-	10	-	20	30
	レポート(2回)		-	10	-	-	10
	発表(グループ発表含む)		5	-	5	10	20
	合 計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項							
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 『楽しいアイスブレイキングゲーム集』(公財)日本レクリエーション協会(972円)ISBN:978-4-931180-72-7 C2076 2年次「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	資格取得にむけたガイダンス レクリエーション活動の習得 トランプ [課題(復習)]トランプのゲームについて調べる(0.5h)						
2	レクリエーションプログラムの立案 家庭教育総合推進事業における「トランプ」の各コーナーでの役割を把握し、「楽しい」の伝え方や関わり方について実践にむけて企画立案する。 [課題(復習)]担当となったトランプのゲームを見直す(0.5h)						
3	レクリエーション支援の実施 10月10日(土)[大垣市青年の家]大垣市家庭教育総合推進事業「トランプ大会」対象者に合わせ、言葉かけや活動をすすめる。 [課題(復習)]対象者に合わせた準備・言葉かけを考える。(1.0h)						
4	レクリエーション支援の実施 10月10日(土)[大垣市青年の家]大垣市家庭教育総合推進事業「トランプ大会」目的にそって、他の団体と共により良い事業となるよう心掛けたい行動を行う。[課題(復習)]対象者に合わせた進め方を考える。(1.0h)						
5	プログラムの立案 レクリエーション・フェスティバルにむけて [課題(復習)]「トランプ大会」報告書提出(1.0h)						
6	レクリエーション活動の習得 10月31日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル 市民による活動の実際 [準備・課題]軽スポーツについて振り返る(1.0h)						
7	レクリエーション活動の習得 10月31日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル 市民による活動の実際 [課題(復習)]担当コーナーの準備確認(1.0h)						
8	レクリエーション活動の習得 10月31日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル 軽スポーツ・レクリエーションなど多種目体験 [課題(復習)]事前配布チラシにある種目について調べる。(1.0h)						
9	レクリエーション活動支援の実施 10月31日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル 軽スポーツ・レクリエーションなど多種目体験 [課題(復習)]事前配布チラシにある種目について調べる。(1.0h)						
10	レクリエーション活動支援の実施 10月31日(土)[岐阜メモリアリセンター]岐阜県レクリエーションフェスティバル 軽スポーツ・レクリエーションなど多種目体験 [課題(復習)]事前配布チラシにある種目について調べる。(1.0h)						
11	モデル・プログラムの習得 (キンボール) [課題(復習)]キンボールについて振り返りをする。(1.0h)						
12	プログラム立案 (クリスマス会 準備) [課題(復習)]クリスマス会の担当内容を決める。(1.0h)						
13	科目終了判定(クリスマス会)実技演習Aグループ [課題(復習)]コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。(1.0h)						
14	科目終了判定(コミュニケーション・ゲームの指導と実践)実技演習Bグループ [課題(復習)]コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。(1.0h)						
15	科目終了判定(コミュニケーション・ゲームの指導と実践)実技演習Cグループ [課題(復習)]コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。(1.0h)						
時間外での学修	(特非)岐阜県レクリエーション協会(特非)大垣市レクリエーション協会など地域レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する。(事前に参加手続きを各自で行なう)参加報告作成提出すること。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:22時間】						

<p>受講学生への メッセージ</p>	<p>スポーツ要素を多く含む激しい動きもあります。活動しやすい服装（体育館シューズ・スカート不可）で積極的に参加し、現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。体育館の利用状況や種目道具の使用状況で授業内容の入れ替えがあります。 オフィスアワーは、授業後10分間とします。</p>
-------------------------	--

【MS】特別支援教育		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	学校教員 2 0 年						
授業内容	教育の現場では、特別な教育的ニーズを有する子どもや大人に対して、適正な支援が求められています。本科目では、特別支援（教育）の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説し演習を通じて学びます。						
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。						
到達目標	知識・理解	特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。					
	思考・判断・表現	支援者としての考え方や役割を理解し、自分なりの保育者観を持って、問題や課題に向き合うことができる。					
	技能	支援が必要な一人ひとりの考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。					
	関心・意欲・態度	連携・ネットワークの視点・方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	-	60
	発表・レポート		-	5	10	5	20
	自己評価		5	-	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		35	15	35	15	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。						
テキスト	『子どもと保護者のココロに寄り添う！エピソードで学ぶ！特別支援教育 A to Z 幼児編』松村 齋 明治図書(1,860円) ISBN: ISBN-10: 4181226107 ありません。						
参考書・教材	授業時にプリント配付します。 授業時に適宜紹介します。 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（文部科学省）						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	特別支援教育の現状 特別支援教育の意義、学校教育法一部改正による特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別的教育支援計画の作成、学習指導要領の改訂等を解説する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
2	視覚障害児の理解 視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
3	聴覚障害児の理解 聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
4	知的障害児の理解 知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
5	肢体不自由児の理解 肢体不自由の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
6	病弱児の理解 病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
7	重複障害児の理解 重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	<p>LD児の理解 学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
9	<p>ADHD児の理解 ADHDの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
10	<p>自閉症児の理解 自閉症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
11	<p>情緒障害児の理解 情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
12	<p>特別支援学校の教育の実際 特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
13	<p>特別支援学級の教育の実際 特別支援学級の現状、教育課程の編成、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
14	<p>通級による指導の実際 通級による指導の位置づけ、教育課程、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
15	<p>小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際 通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等について実際を紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
時間外での学修	<p>特別支援教育に関する当事者の著書を数冊熟読し、当事者の思いが理解できる保育者となれるように常に心がけておいてください。 特別支援教育に関係する学会やシンポジウム等に積極的に参加するようにしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>成人施設の支援と並行して、幼稚園、小学校等では、現在、特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱のひとつとなっています。積極的な機会を見つけて、学校園等に出向くように心がけてください。 オフィスアワーは、H号館H207号室 木曜日16時10分からです。</p>

【MS】社会福祉		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	堀江 法夫						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員							
授業内容	少子高齢化の社会にあって社会福祉は全ての人にとって大切なテーマです。限られたマンパワーや財源という社会資源の中で高齢者や子どもたちの命がまもられていくにはどうしたらいいのか。社会福祉のこれまでも現在の課題を学んでいきます。						
授業方法	講義を中心として基礎的知識を学び、その上で出来る限りみなで考えを深めていきます。最終の2回程度の講義では、一人4分程度発表してもらいます。						
到達目標	知識・理解	1．〔知識・理解〕社会福祉の歴史と実践について基本的な知識と理解を深めるようになる。					
	思考・判断・表現	2．〔思考・判断・表現〕社会が激変していく中で生活のしづらさを思考、判断、表現できるようになる。					
	技能	3．〔技能〕福祉の実践の場でアプローチしていく専門的な技能を深めるようになる。					
	関心・意欲・態度	4．〔関心・意欲・態度〕共通の福祉課題に積極的に関心を持ち取り組むことができるようになる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	-	60
	発表・レポート		-	5	5	10	20
	自己評価		5	-	-	5	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		35	15	25	25	100
評価の特記事項	方法:筆記試験(1回)・レポート発表(1回)・自己評価(毎回) その他:3分の1以上欠席した者には単位を与えない。						
テキスト	テキストはありません						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	社会福祉を学ぶにあたって：これまでの社会の変遷と現代の生活課題について考えよう。 [課題(復習)]社会福祉は私たちの生活の中でどのような関係があるのかを考えておこう。(3h)						
2	社会福祉の考え方と役割：保育を含む社会福祉の視点と目的を考えよう。 [課題(復習)]社会福祉の考えはどのようにして生まれてきたのかを考えておこう。(3h)						
3	社会福祉の歴史：欧米と日本の福祉についてこれまでのあゆみを理解しておこう。 [課題(復習)]特に資本主義社会の発展との関係で考えておこう。(3～6h)						
4	社会保障とは何か：社会保険や生活保護について理解しておこう。 [課題(復習)]社会保険の種類と生活保護の考えを調べておこう。(3h)						
5	社会福祉のしくみ：高齢者福祉と障害者福祉のしくみと法制度について理解しておこう。 [課題(復習)]介護保険法と障害者総合福祉法について調べておこう。(3h)						
6	社会福祉の実施機関と行政：福祉事務所と社会福祉法人について理解しておこう。 [課題(復習)]児童相談所、福祉事務所、社会福祉協議会、社会福祉法人について調べておこう。(3h)						
7	社会福祉施設：社会福祉施設の種類や運営の基準について理解しておこう。 [課題(復習)]社会福祉施設の種類や利用方法について調べておこう。(3h)						
8	子どもの福祉：子どもの人権と児童家庭福祉について考えよう。 [課題(復習)]子供の福祉と向き合うにはどのような視点が必要か考えてみよう。(3h)						
9	社会福祉の専門職：社会福祉専門職の専門性と倫理について考えよう。 [課題(復習)]社会福祉の専門職としての資格はなぜ必要か考えてみよう。(3h)						
10	相談援助の意味と方法：ソーシャルワークの視点と展開過程について考えよう。 [課題(復習)]保育士等のソーシャルワークの実際はどのようにして行くのか考えてみよう。(3～6h)						
11	福祉サービスの利用支援：契約制度と適切な利用支援について理解しておこう。 [課題(復習)]その人にマッチした支援とは何かを考えてみよう。(3h)						
12	権利擁護と苦情解決：権利擁護の意味と苦情解決のしくみについて理解しておこう。 [課題(復習)]権利擁護と苦情解決はなぜ必要になってきたのかを考えてみよう。(3h)						
13	地域福祉の推進：地域福祉の理念と推進の方法について考えよう。 [課題(復習)]地域福祉が必要になってきた過程について考えてみよう。(3h)						
14	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3～4分発表してもらいます。 [課題(復習)]事前に要点をまとめ提出する。(3～6h)						
15	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3～4分発表してもらいます。 [課題(復習)]事前に要点をまとめ提出する。(3～6h)						
時間外での学修	社会福祉の専門職は保育士や介護福祉士等があります。共通点と相違点を考えてみよう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	子育て環境は変化し、専門職として社会福祉の基礎的理解が大切です。一緒に考えていきましょう。 オフィスアワーは毎週火曜日、12:10から12:30です。						

【MA】臨床における即興技法		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。						
授業方法	1人1台の電子ピアノに向かい、毎週呈示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾き（譜面を見ずに演奏）か、コード付けの課題が出されます。						
到達目標	知識・理解	知っている曲は譜面がなくても簡単なメロディーとコードをつけて演奏することができる。					
	思考・判断・表現	演歌風、民謡風、軍歌風など、曲調にあったアレンジで伴奏をつけることができる。					
	技能	知らない曲のメロディーに簡単なコードをつけて伴奏することができる。					
	関心・意欲・態度	対象者に合わせたテンポ、リズムパターン、音量に合わせた即興演奏ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		10	10	20	-	40
	発表（グループ発表含む）		20	20	10	-	50
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生、課題の発表がない学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内で指示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	対象者に合わせるための練習1：（LINEによる遠隔授業）テンポの変わるメトロノームに合わせて演奏する練習、さぐり弾き課題[準備・課題]学んだ内容の復習（歌いながら合図を出す）、さぐり弾き課題（p11）のコード付け（1H）						
2	さぐり弾きと移調：（LINEによる遠隔授業）短調のさぐり弾き課題p21～22の3和音課題を7つの調で演奏する[課題（復習）]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題（p13）のコード付け（1H）						
3	さぐり弾きと移調：（LINEによる遠隔授業）p24の3和音課題を7つの調で演奏する[課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
4	ミュージックベルの編曲1 曲の決定（各自自由に）、移調、メロディーラインの書き写し [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
5	ミュージックベルの編曲2 メロディーにコードをつける、教員のチェックでOKがたらパート譜作成 [課題（復習）]学んだ内容の復習、パート譜を仕上げる（1H）						
6	ミュージックベルの編曲3 パート譜にマーカーで印をつけ、クラス内発表の準備、発表、譜面の提出 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
7	ペントニック：自由に即興演奏をするための練習、F#ペントニックを使った作曲 [課題（復習）]学んだ内容の復習（ペントニックで即興演奏する）、さぐり弾き課題(p16) のコード付け（1H）						
8	さまざまなペントニック：ペントニックの曲に和音をつける [課題（復習）]学んだ内容の復習（音階に含まれる音のみで伴奏する）、さぐり弾き課題（p20）のコード付け（1H）						
9	基本拍を促す演奏1：既成曲の基本拍 [課題（復習）]既成曲に基本拍をつけ伴奏する練習、さぐり弾き課題（p34）のコード付け（1H）						
10	基本拍を促す演奏2：太鼓とピアノの即興、基礎 [課題（復習）]太鼓にピアノで即興の伴奏をつける練習、コード付け課題（p37）（1H）						
11	基本拍を促す演奏3：太鼓とピアノの即興、応用 [課題（復習）]伴奏に変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題（p43）（1H）						
12	基本拍を促す演奏4：太鼓とピアノのテンポ変化 [課題（復習）]テンポに変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題（p46）（1H）						
13	基本拍を促す演奏5：太鼓、シンバルとピアノの即興課題 [課題（復習）]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題のコード付け（1H）						
14	さまざまな伴奏パターンを学ぶ 民謡 [課題（復習）]民謡に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題(p49) のコード付け（1H）						
15	さまざまな伴奏パターンを学ぶ 軍歌 [課題（復習）]軍歌に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題(p52) のコード付け（1H）						
時間外での学修	授業で呈示された課題が身につくまで、各自が練習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	即興演奏はその場で演奏するものですが、蓄積が必要です。授業内で行った課題で不得手なものがあれば克服にむけて自主練習してください。 オフィスアワーは研究室（B403：B館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【MA】臨床における即興技法		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。幅広いジャンルの曲に親しみ、旋律や和声の構造を分析します。音楽療法の目的に沿った作曲も学びます。						
授業方法	1人1台の電子ピアノに向かい、毎週呈示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾きかコード付けの課題があります。						
到達目標	知識・理解	既成曲を音楽療法の目的に合わせて編曲することができる。					
	思考・判断・表現	音楽療法セッションで用いる体操や動きに即興で伴奏をつけることができる。					
	技能	セッションの目的に沿った簡単な曲を即興で作ることができる。相手に合わせた即興演奏の伴奏ができる。					
	関心・意欲・態度	障がいを持つ人がつくる詞に曲をつけることができる。対象者に合わせた演奏ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	10	10	-	40
	課題提出		20	10	-	10	40
	受講態度		-	-	10	-	10
	発表（グループ発表含む）		-	-	10	-	10
	合 計(点)		40	20	30	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生、課題の発表を行わなかった学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内で配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	さまざまな伴奏パターンを学ぶ：演歌 [課題（復習）]演歌の伴奏パターンに慣れるため繰り返し練習する、さぐり弾き課題のコード付け（1H）						
2	目的に合わせて作曲する1：リラックス体操の伴奏 [課題（復習）]コード進行とリズムがあまり動かない伴奏を練習する、さぐり弾き課題（p58）のコード付け（1H）						
3	目的に合わせて作曲する2：タオル体操の伴奏 [課題（復習）]音階と動きがマッチする伴奏を練習する、コード付け課題（p60）（1H）						
4	目的に合わせて作曲する3：嚙下体操の伴奏 [課題（復習）]動きに合わせて伴奏をつける、さぐり弾き課題（p66）のコード付け（1H）						
5	目的に合わせて作曲する4：「待つ」ための曲を作る、ミュージックベルのアレンジ 曲の決定、移調 [課題（復習）]ベル譜面（移調したメロディー）の清書、コード付け課題（p69）（1H）						
6	目的に合わせて作曲する5：動きを促す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ 和音づけ [課題（復習）]ベル譜面（和音つけ）の清書、学んだ内容の復習、さぐり弾き課題（p71）のコード付け（1H）						
7	目的に合わせて作曲する6：気持ちを表す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ パート分け[課題（復習）]パート分けしたベル譜面にマーカーで色分けしてくる、さぐり弾き課題（p75）のコード付け（1H）						
8	目的に合わせて作曲する7：言葉や詩に曲をつける、ミュージックベルのアレンジ 、発表 [課題（復習）]作ったメロディー譜の清書、残りのメロディーを考える						
9	目的に合わせて作曲する8：作った曲をCメロ譜にする [課題（復習）]作曲した曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け（1H）						
10	1音のためのアレンジ、1音のための作曲 [課題（復習）]作った曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け（1H）						
11	モード（旋法）と慣用的な表現1：ドリアンのスケール [課題（復習）]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題（p88）のコード付け（1H）						
12	モード（旋法）と慣用的な表現2：リディアン、中近東のスケール [課題（復習）]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p92)のコード付け（1H）						
13	モード（旋法）と慣用的な表現3：スペイン風音階 [課題（復習）]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題（p94）のコード付け（1H）						
14	モード（旋法）と慣用的な表現4：民謡音階の即興 [課題（復習）]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題（p97）のコード付け（1H）						
15	臨床における応用 [課題（復習）]学んだ内容の復習、試験の準備（1H）						
時間外での学修	作曲や編曲の課題が宿題として出ますので、積極的に取り組んでください。 課題が時間内に終了しなかった学生には補講を行います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	臨床実習や、音楽療法士として働くにあたって一番役に立ったといわれている授業です。面倒な課題も多いですが将来の自分のために取り組んでください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【MS】音楽療法・臨床		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	この授業では後期から始まる臨床実習に向けて、基礎となる力をつけることを目的とします。授業内容は大きくわけて2つに分かれます。ひとつめは音楽療法全般に関する理論と音楽療法を受ける対象となる人の病気、障害、心理特性などについての知識を学ぶことです。ふたつめはそれぞれの対象に向けた実践の内容について学びます。						
授業方法	講義形式ですが演習も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法の臨床分野（児童・成人・高齢）それぞれについて、主要な目的と活動について理解、説明ができる。					
	思考・判断・表現	音楽の治療的用い方について説明ができる。 音楽療法に関連のある心理療法の概略について理解、説明ができる。					
	技能	目標に沿った音楽活動を発表できる。					
	関心・意欲・態度	対象者に即した課題を相手にわかりやすく工夫した形で発表することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	レポート		10	10	-	-	20
	発表（グループ発表含む）		-	-	10	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。 課題発表、提出物のない学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 心理学の理論、心理学の歴史概論（オンデマンド視聴） [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、心理学理論の歴史について理解する（4H）						
2	理論1：精神分析 無意識、防衛機能について（オンデマンド視聴） 精神分析理論を用いた音楽療法について 教材視聴 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、精神分析と音楽療法の関連について理解する（4H）						
3	自己防衛メカニズムについて [課題（復習）]指定する書式に沿ってレポート課題を提出する（4H）						
4	理論2 - 1：行動療法 学習と強化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法の理論的背景とアプローチについて理解する（4H）						
5	理論2 - 2：行動療法を用いた音楽療法 目標設定と般化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法的音楽療法の目標設定について理解する（4H）						
6	理論3 - 1：人間主義 クライアント中心療法、カウンセリングについて 受容と共感 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、人間主義的関わりとこれまでの理論の違いを理解する（4H）						
7	理論3 - 2：人間主義的音楽療法 創造的音楽療法について 教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、即興を用いる音楽療法の目的を理解する（4H）						
8	聴覚障害と音楽療法1 聴こえの仕組み、耳の構造、難聴の定義 教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴こえの仕組みについて理解する（4H）						
9	聴覚障害と音楽療法2 人工内耳と聴覚リハビリテーション、手話とろう文化 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴覚障害の治療についての問題を理解する（4H）						
10	重度重複障害者に対する音楽療法1 ゲストスピーカーを招いて学ぶ。対象者理解と適切な目標設定、音楽活動について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
11	不登校とカウンセリング 不登校の歴史、カウンセリングで重視すること 不登校児童と音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
12	意識障害と音楽療法 昏睡患者に対する音楽療法、NICUにおける音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
13	医療現場における音楽療法の役割 疼痛緩和、ストレスの軽減、チーム医療としての音楽療法士の役割について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
14	レポート課題について説明、文献の調べ方、書き方について [課題（復習）]学んだ内容の復習、レポート作成（4H）						
15	他職種との連携と音楽療法活動 [課題（復習）]学んだ内容の復習、レポート作成（4H）						
時間外での学修	毎回宿題が出ますので準備をしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	課題のレポート、練習問題の成績比率が成績評価に関係してきます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です						

【MA】音楽療法・技法		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	音楽療法士として必要な音楽技法や心理的援助方法、集団をまとめる方法についての知識を学びます。臨床の現場で発生する問題や課題について解決方法をクラス内で討議し、問題解決能力の向上をはかります。						
授業方法	講義形式ですが演習も含まれます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法の技法について基本的な知識を得ておりそれぞれの理解ができている。					
	思考・判断・表現	音楽療法に関連する分野についての基本的な知識を持ち、どの分野にどの技法が適しているか判断できる。					
	技能	対象者の立場を考えた計画ができる。					
	関心・意欲・態度	人前で意欲的に発表できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	-	-	50
	レポート		20	10	10	-	40
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		50	30	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 課題の発表を行わない学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	授業中にプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	認知機能を測る標準化されたテストについて：かなひろいテスト、MMSE、長谷川式について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、自分でテストを実施する練習をする（4H）						
2	新版長谷川式テストを一人ずつ行い点数計算ができるようになる。それぞれの待ち時間には移調課題を行う。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、回想法課題の準備を行う（4H）						
3	回想法について：手順と方法について学ぶ。各自持参した回想法に使う道具を発表する。 学習療法について：手順と方法について学ぶ。簡単なクイズの作成、発表を行う。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、回想法と学習療法について理解する（4H）						
4	Anglia Ruskin University作成のDVD "Music Therapy for Children on the Autistic Spectrum" "Timothy: Music Therapy with a Little Boy who has Asperger Syndrome"を視聴、海外の音楽療法のアプローチと日本のアプローチの違いについて学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、自閉症スペクトラム児童の特徴と音楽療法について理解する（4H）						
5	倫理について：音楽療法士の職業倫理について事例から学ぶ。グループ討論 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽療法士の倫理について理解する（4H）						
6	回想法と音楽療法の組み合わせ：対象者にとって重要な出来事や時期に合致する選曲を行い、どのように声かけを行うか発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者が懐かしく感じる曲についてまとめる（4H）						
7	学習療法と音楽療法の組み合わせ：歌唱や楽器演奏を取り入れることで言葉を記憶しやすくしたり、複数の活動を一度に行う方法について発表する。曲名を連想するクイズを作成する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、使用する曲を練習する（4H）						
8	矯正施設における音楽療法：音楽を用いたカウンセリングの目的や方法について学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、矯正施設の特性と音楽活動の目的の関連についてまとめる（4H）						
9	NICUにおける音楽療法：実際のセッションの様子をビデオを見て学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）						
10	介護予防と音楽療法：障害や病気をもつ人だけでなく、高齢者社会が急速に進む日本において介護予防は喫緊の課題である。音楽療法士が勤務することの多い高齢者施設でも地域の人を対象とした介護予防に関する音楽活動に携わる機会がある。実際にゲストスピーカーを招き、介護予防と音楽療法の実際について学ぶ。 [課題（復習）]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる（4H）						
11	緩和ケアにおける音楽療法：ホスピス、緩和ケアにおいて音楽療法士が働いている現場はまだ少ないが、対象者本人だけではなく家族も含めた働きかけが重要となる。日本と海外のビデオを見て学ぶ。教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、自分の死生観について理解し、終末期ケアのニーズとの関連を考える（4H）						
12	地域における音楽療法：従来の、対象者の問題に対する治療目的が明確な伝統的な音楽療法に加えて近年コミュニティ音楽療法という概念が出てきている。地域を対象とした音楽活動について、実際に地域で活動している音楽療法士をゲストに招いて学ぶ。 [課題（復習）]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる（4H）						
13	日本で発達した音楽療法1：欧米だけでなく、日本の実情に合わせて発達してきた音楽療法の手法について基本的な概念を学ぶ。ミュージックケア、ミュージックボランティアなど [課題（復習）]学んだ内容を復習しまとめる（4H）						
14	日本で発達した音楽療法2：音楽運動療法、現在の音楽療法の課題など [課題（復習）]学んだ内容を復習しまとめる（4H）						
15	音楽療法を現場で実践するにあたっての業務、予算、計画申請などについて。これまでの授業の振り返り [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）						
時間外での学修	毎週課題が出されます。宿題として評価の対象になります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への メッセージ	知識と、自分で考える能力の両方が現場では必要とされます。自分ならどうするのか、常に考えながら授業に臨んでください。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。
-----------------	---

【MS】音楽療法実践		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 あけみ						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	現場実践16年						
授業内容	対象者のポジティブな部分を大切にした音楽活動を計画します。また、分野別・形態別に学ぶことで多様性のある働きかけ方を身につけます。						
授業方法	学内での演習。実践形式で行います。						
到達目標	知識・理解	対象者のニーズに合った目標と活動の組み立てを考えることができる。					
	思考・判断・表現	対象者の好みの歌を知り、弾き歌いができるようにする。					
	技能	対象者の心情を汲みとりながら、活動を進めることができる。					
	関心・意欲・態度	活動を振り返ることで、どのような働きかけ方が望ましいのか考えることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実践発表		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	レポート		-	-	-	20	20
	期末試験		10	-	-	-	10
	合 計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項							
テキスト	『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』あおぞら音楽社(2,484円))ISBN:978-4904437032 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』あおぞら音楽社(2,484円))ISBN:978-4904437049 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』あおぞら音楽社(2,646円))ISBN:978-4904437056						
参考書・教材	資料を配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(年間計画の確認) 資料にて課題の取り組み [課題(予習、復習)]レポート提出、伴奏練習(1~3h) *LINEグループ通話による遠隔授業および学生ポータルを活用						
2	伴奏の発表 個人セッション(高齢者)の活動準備:アセスメント [課題(予習、復習)]レポート提出、伴奏練習(1~3h) *LINEグループ通話による遠隔授業および学生ポータルを活用						
3	伴奏の発表 個人セッション(高齢者)の活動準備:目標およびプログラム作成 [課題(予習、復習)]レポート提出、伴奏練習(1~3h) *LINEグループ通話による遠隔授業および学生ポータルを活用						
4	伴奏の発表 個人セッション(高齢者)の活動準備:最終確認および練習 [課題(予習、復習)]イメージトレーニング、活動の確認、伴奏練習(1~3h)						
5	伴奏の発表 個人セッション(高齢者)の発表 意見交換 [課題(予習、復習)]反省、実践記録のまとめ、伴奏練習(1~3h)						
6	伴奏の発表 個人セッション(児童)の活動準備:プログラム作成 [課題(予習、復習)]イメージトレーニング、活動の確認、伴奏練習(1~3h)						
7	伴奏の発表 個人セッション(児童)の発表1 意見交換 [課題(予習、復習)]反省、実践記録のまとめ、伴奏練習(1~3h)						
8	伴奏の発表 個人セッション(児童)の発表2 意見交換 [課題(予習、復習)]反省、実践記録のまとめ、伴奏練習(1~3h)						
9	伴奏の発表 個人セッション(児童)の発表3 [課題(予習、復習)]反省、実践記録のまとめ、伴奏練習(1~3h)						
10	伴奏の発表 音楽による自分史を作成 [課題(予習、復習)]レポート提出、伴奏練習(1~3h)						
11	伴奏の発表 個人セッション(成人)の活動準備:プログラム作成1 [課題(予習、復習)]レポート提出、伴奏練習(1~3h)						
12	伴奏の発表 個人セッション(成人)の活動準備:プログラム作成2 [課題(予習、復習)]レポート提出、伴奏練習(1~3h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	伴奏の発表 個人セッション（成人）の発表 1 意見交換 [課題（予習、復習）]反省、実践記録のまとめ、伴奏練習(1～3h)
14	伴奏の発表 個人セッション（成人）の発表 2 意見交換 [課題（予習、復習）]反省、実践記録のまとめ、伴奏練習(1～3h)
15	伴奏の発表 個人セッション（成人）の発表 3 [課題（復習）]反省、実践記録のまとめ、期末試験について
時間外での学修	様々なボランティア活動に参加し、人と多く関わることで柔軟性を身につけてください。
受講学生へのメッセージ	いろいろな立場になって活動を進めます。お互いに気付いたことを伝え合える関係づくりに努めてください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：45時間】

【MA】音楽療法実践		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 あけみ						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	現場実践16年						
授業内容	対象者のポジティブな部分を大切にしたい音楽活動を計画します。また、分野別・形態別に学ぶことで多様性のある働きかけ方を身につけます。						
授業方法	学内での演習。実践形式で行います。						
到達目標	知識・理解	対象者のニーズに合った目標と活動の組み立てを考えることができる。					
	思考・判断・表現	対象者の好みの歌を知り、弾き歌いができるようにする。					
	技能	対象者の心情を汲みとりながら、活動を進めることができる。					
	関心・意欲・態度	活動を振り返ることで、どのような働きかけ方が望ましいのか考えることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実践発表		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	レポート		-	-	-	20	20
	期末試験		10	-	-	-	10
	合 計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項							
テキスト	『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』おおぞら音楽社(2,484円))ISBN:978-4904437032 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』おおぞら音楽社(2,484円))ISBN:978-4904437049 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』おおぞら音楽社(2,646円))ISBN:978-4904437056 「音楽療法演習」履修者は購入済						
参考書・教材	資料を配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(年間計画の確認) 個人セッション(高齢者)の活動準備 [課題(予習、復習)]事前調査、計画(1～3h)						
2	個人セッション(高齢者)の練習 [課題(復習)]練習、見直し(1～3h)						
3	個人セッション(高齢者)の発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1～3h)						
4	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1～3h)						
5	個人セッション(成人)の活動準備 [課題(予習、復習)]事前調査、計画(1～3h)						
6	個人セッション(成人)の練習 [課題(復習)]練習、見直し(1～3h)						
7	個人セッション(成人)の発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1～3h)						
8	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1～3h)						
9	個人セッション(児童)の活動準備 [課題(予習、復習)]事前調査、計画(1～3h)						
10	個人セッション(児童)の練習 [課題(復習)]練習、見直し(1～3h)						
11	個人セッション(児童)の発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1～3h)						
12	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1～3h)						
13	少人数グループセッションの活動準備および練習 [課題(予習、復習)]事前調査、計画、練習、見直し(1～3h)						
14	少人数グループセッションの発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1～3h)						
15	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1～3h)						
時間外での学修	様々なボランティア活動に参加し、人と多く関わることで柔軟性を身につけてください。						
受講学生へのメッセージ	いろいろな立場になって活動を進めます。お互いに気付いたことを伝え合える関係づくりに努めてください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。 【この科目で求められる望ましい授業時間外での総学修時間：45時間】						

【MA】臨床実習(事前・事後指導を含む)		音楽総合学科		2年後期			
		3単位	選択	実習	135時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年 日比：現場実践・16年						
授業内容	音楽療法士資格取得のための臨床実習に向けた事前準備および実習後の資格申請手続きまでをこの時間内に行います。 実習前はセッション記録の取り方の復習、実践計画と準備を行います。実習終了後は実習期間中の振り返りや実習中に起きた問題をクラス内で共有するなど。1年生の授業において実習成果を発表するので、その準備もこの時間でを行います。						
授業方法	講義形式、実習グループに分かれた計画の立案、練習、他グループの前での発表練習などを含みます。						
到達目標	知識・理解	対象者のアセスメントを行い目標を設定することができる。					
	思考・判断・表現	自分の行った活動について目的や内容を説明することができる。					
	技能	目標に沿って計画したグループセッションと個人セッションを実施して記録を取ることができる。					
	関心・意欲・態度	施設実習において関連職種やスタッフと十分に連携を取り実践活動が行える。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		30	10	-	-	40
	受講態度		-	-	-	50	50
	発表（グループ発表含む）		-	-	10	-	10
	合 計(点)		30	10	10	50	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 実習を終了して所定のレポートを提出することが単位の要件となります。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション、各実習施設の説明、希望施設の調査 [課題（予習、復習）]学んだ内容の復習、実習計画の作成（2H）						
2	実習記録の配布、記入方法の説明、実習生個人目標の設定 [課題（予習、復習）]学んだ内容の復習、実習計画の作成（2H）						
3	音楽療法セッションの準備 1 グループセッションのため予備も含めて10曲×3セッションを目標に準備を行う。 [課題（復習）]セッションの準備、曲の練習（3H）						
4	音楽療法セッションの準備 2 セッション計画を記入、担当教員と内容、治療目標との検討を個別に行う。 [課題（復習）]セッションの準備、曲の練習（3H）						
5	音楽療法セッションの準備 3 譜面、楽器、歌詞幕なども準備を行う。 [課題（復習）]セッションの準備、曲の練習（3H）						
6	音楽療法セッションの準備 4 先週に引き続きグループセッション 3 つ分の準備を行う。 個人セッションのアセスメントについて復習し、確認を行う。 [課題（復習）]セッションの準備、曲の練習（3H）						
7	実習前の心構え：倫理、服装、態度について 実習直前の準備を行う。 [課題（復習）]セッションの準備、曲の練習（3H）						
8	音楽療法コース臨床実習1週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [課題（復習）]実習記録の記入（10H）						
9	音楽療法コース臨床実習2週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [課題（復習）]実習記録の記入（10H）						
10	実習を終えて：振り返りと施設に向けてお礼状を作成する 実習記録ノートの整理 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
11	個人セッション報告書の作成 担当した個人セッションの報告書を作成し、提出する。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
12	音楽療法士資格申請準備 これまでに取得した単位を計算して所定の用紙に下書きし、提出する。清書は担当教員が行う。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
13	1年生に向けた発表準備と計画 実習施設と音楽活動について1年生の授業にて発表するための準備を行う。 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
14	実習のまとめ、振り返り [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
15	レポート課題の作成、提出 [課題（復習）]学んだ内容の復習（1H）						
時間外での学修	実習に向けて時間外も含めて準備を進めてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への メッセージ	各自課題を設定し、苦手なところを克服できるようにがんばりましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。
-----------------	---

【MS】ウインドアンサンブル A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・野々垣 行恵・長尾 洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2から3回の小長谷宗一客員教授の特別講義があります。（コロナウイルス感染症の影響で依頼演奏、特別講義は中止）						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業（課題提出及び演習） ガイダンス。授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。パート編成発表。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読。自己の基礎力を確認。課題プリントの実施。（2h～4h）						
2	遠隔授業（課題提出及び演習） 定期演奏会用楽曲 についての研究・調査（課題PPT）。Googleフォームによるチェックテスト。 [課題（復習）]定期演奏会用楽曲 についての課題復習。個々に基礎力をチェック。（2h～4h）						
3	遠隔授業（課題提出及び演習） 音階についての学修（課題&演習問題）。 [課題（復習）]音階についての課題復習。（2h～4h）						
4	これより対面授業 改めて本授業のガイダンス。コロナ感染症の影響による変更事項の確認、感染症対策や予防に関する説明。 学生 の学修状況及び学修環境状況調査。 [課題（復習）]学修プリントを中心に本時の内容を復習する。各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理する。（2h～4h）						
5	変更合奏会場の設定。感染症対策を考慮した合奏隊形の検討。パート内自己紹介。各自の基礎練習をパート内で討論し、確認し合う。音楽鑑賞用楽曲 配布・個人・パートで譜読み。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習（特に特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）（2h～4h）						
6	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。合奏基礎演習 「音程を正確に取るための考え方」（長音階 B dur） [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）						
7	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。（2h～4h）						
8	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。合奏基礎演習 「機能と声感を基盤にしたフレージング」（長音階 F dur - Es dur） [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）						
9	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。研究レポートの作成。（2h～4h）						
10	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。研究レポートの作成。（2h～4h）						
11	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み。定期演奏会用楽曲 の合奏。分奏〔木管・金管・打楽器〕演習（定期演奏会用楽曲 ）。「フレーズ・重心プリント」配布・説明 [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習。定期演奏会用楽曲 の復習。分奏演習の復習。「フレーズ・重心プリント」復習。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	初見合奏演習。音楽鑑賞用楽曲 配布・譜読み、及び合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。合奏基礎演習 「美しいスケールを楽曲の中に応用する方法」（長音階 G dur） [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲 の個人練習・復習。合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）
13	初見合奏演習。音楽学修用楽曲 配布・譜読み、及び合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。合奏基礎演習 「美しい長音階を踏まえて教会旋法（リディア）を実際の楽曲の中で応用する方法」（長音階 A dur- D dur） [課題（復習）]音楽学修用楽曲 の個人練習・復習。合奏基礎演習 の確認（2h～4h）
14	音楽学修用楽曲 合奏（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。定期演奏会用楽曲 合奏。合奏基礎演習 「美しい長音階を踏まえて教会旋法（リディア）を実際の楽曲の中で応用する方法」（長音階 Des dur - As dur - C dur） [課題（復習）]音楽学修用楽曲 の個人練習・復習。定期演奏会用楽曲 の復習。及び合奏基礎演習 の確認。（2h～4h）
15	定期演奏会用楽曲 （前期実技試験指定曲合奏） [課題（復習）]試験指定曲の個人練習の復習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【MS】ウインドアンサンブル　　B		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木　孝育・野々垣　行恵・長尾　洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2～3回の小長谷宗一客員教授による特別講義を実施します。（コロナウイルス感染症の影響で依頼演奏、特別講義は中止）						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・　・　の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合　計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内							

内容	
実施回	授業内容・目標
14	定期演奏会用楽曲 の合奏（後半）（作曲家、ジャンル、構成や特徴等）。 [課題（復習）] 定期演奏会用楽曲 の個人練習（特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように）。学修ノート記入。（3h～5h）
15	筆記試験 [課題（復習）] 試験指定の個人練習。筆記試験の復習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45～75時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【MA】ウインドアンサンブル　C		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木　孝育・長尾　洪基・野々垣　行恵						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2から3回の小長谷宗一客員教授の特別講義を実施します。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・　・　の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合　計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内　　　　　　容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座　（短音階スケール　） 及び音楽鑑賞用楽曲　配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲　の個人練習、及び短音階スケールの練習（2h～4h）						
2	基礎力向上の為の講座　（短音階スケール　）パート内で討論し、確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲　配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲　の個人練習、及び短音階スケールの練習　（2h～4h）						
3	基礎力向上の為の講座　（3連符と12/8拍子での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲　配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲　の個人練習、及び3連符と12/8拍子での音階練習（2h～4h）						
4	基礎力向上の為の講座　（16分音符での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲　配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲　の個人練習、及び16分音符での音階練習（2h～4h）						
5	基礎力向上の為の講座　（3度） 及び音楽鑑賞用楽曲　配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲　の個人練習、及び3度の練習（2h～4h）						
6	基礎力向上の為の講座　（アルペジオ：短調） 及び音楽鑑賞用楽曲　配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲　の個人練習、及びアルペジオ：短調の練習（2h～4h）						
7	基礎力向上の為の講座　（短3和音と減7の和音） 及び音楽鑑賞用楽曲　配布・パートで譜読み [課題（復習）]音楽鑑賞用楽曲　の個人練習、及び短3和音と減7の和音の練習（2h～4h）						
8	基礎力向上の為の講座　（グルーピング） 及び定期演奏会に向けての練習1 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及びグルーピングについて復習し、理解する。（2h～4h）						
9	基礎力向上の為の講座　（重心） 及び定期演奏会に向けての練習2 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及び重心について復習し、理解する。（2h～4h）						
10	基礎力向上の為の講座　（コントラスト） 及び定期演奏会に向けての練習3 [課題（復習）]定期演奏会の研究、個人練習、及びコントラストについて復習し、理解する。（2h～4h）						
11	定期演奏会に向けての練習4 [[課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。（2h～4h）						
12	定期演奏会に向けての練習5 [課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。（2h～4h）						
13	定期演奏会に向けての練習6 [課題（復習）]定期演奏会の個人練習、パート・セクションによる集団練習。（2h～4h）						
14	定期演奏会の反省と振り返り、問題点を話し合う。後片付け [課題（復習）]定期演奏会の反省を、個人、パート、全体で行い、来年度に向けての問題点を列挙する。（2h～4h）						
15	試験指定曲の合奏 [課題（復習・準備）]試験指定曲の研究・個人練習（2h～4h）						

時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業終了後、教室で行います。

【MA】ウインドアンサンブル D		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・長尾 洪基・野々垣 行恵						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、2から3回の小長谷宗一客員教授による特別講義を実施します。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。					
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。					
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールやフレーズの歌い方をはじめとする演奏技術を身につける。					
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に判断します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。短音階スケールの練習（3h～5h）						
2	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。短音階スケールの練習 （3h～5h）						
3	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。3連符と12/8拍子での音階練習（3h～5h）						
4	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。16分音符での音階練習（3h～5h）						
5	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。3度の練習（3h～5h）						
6	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。アルペジオ：短調の練習（3h～5h）						
7	音楽鑑賞用楽曲 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]音楽鑑賞用楽曲 の研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習、学修ノートの記入。短3和音と減7の和音の練習（3h～5h）						
8	定期演奏会に向けての練習1 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の楽曲の研究・調査及び苦手なところの練習、個人・パート練習、学修ノートの記入。グルーピングについての課題学習（3h～5h）						
9	定期演奏会に向けての練習2 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の楽曲の研究・調査及び苦手なところの練習、個人・パート練習、学修ノートの記入。重心についての課題学習（3h～5h）						
10	定期演奏会に向けての練習3 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の楽曲の研究・調査及び苦手なところの練習、個人・パート練習、学修ノートの記入。コントラストについての課題学習（3h～5h）						
11	定期演奏会に向けての練習4 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の個人・パート・セクション練習、学修ノートの記入。（3h～5h）						
12	定期演奏会に向けての練習5 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の個人・パート・セクション練習、学修ノートの記入。（3h～5h）						
13	定期演奏会に向けての練習6 合奏・分析・仕上げ [課題（復習・発展）]定期演奏会の個人・パート・セクション練習、学修ノートの記入。（3h～5h）						
14	定期演奏会の反省と振り返り、問題点を話し合う。後片付け。 [課題（復習・発展）]定期演奏会の反省を個人・パート・全体で行い、来年度に向けての問題点を検討する。学修ノートの記入。（3h～5h）						
15	試験指定曲の合奏 [課題（準備）]試験指定曲の研究・個人練習（3h～5h）						

時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間： 4 5 ～ 7 5 時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、授業終了後、教室で行います。

【MS】吹奏楽指導法		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）3 5 年						
授業内容	吹奏楽における歴史や楽器編成の変遷、指導や運営方法を学び、卒業後、生涯教育としての吹奏楽の指導に携われるように準備します。まず、吹奏楽の歴史については、管楽器の歴史と管楽器の発展に影響を与えた作曲家を中心に音楽史全般と絡めながら学んでいきます。あらゆるジャンルにおける名曲や名演奏を聞き、自分の音楽表現の素養を幅広く身につけていきます。次に、吹奏楽における基礎練習について学修します。前期は、「個人の基礎編」について学び、各楽器の基礎練習法を理解し、自分独自の練習法を確立していきます。						
授業方法	吹奏楽指導における必要な総合的な知識を講義によって学びます。各専攻楽器の指導法について発表し、その特性や練習法について互いに吸収します。また、吹奏楽の歴史や、楽器編成の変遷、基礎練習の方法については、視聴覚教材を使ったり、個人の課題研究発表をしたりして学びます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽の楽器編成や歴史、基礎練習法について理解し、あらゆるジャンルの吹奏楽譜を演奏するための総合的な知識を身につけ、自分の言葉で伝えることができる。					
	思考・判断・表現	様々なジャンルの楽曲の特性や様式を理解し、その楽曲にふさわしい指導法を選択できる。自分の考え方、音楽性を相手に伝えることができる。					
	技能	合奏、分奏、パート練習、個人練習における練習方法を学び、小・中・高という学校教育や、職場や一般の社会教育の場でそれぞれの環境やレベルに合わせて指導ができる。					
	関心・意欲・態度	講義内容において自発的な問題提起、実践、改善、解決ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	30	-	-	70
	発表		-	-	10	-	10
	課題提出		-	-	-	20	20
	合 計(点)		40	30	10	20	100
評価の特記事項	発表と課題提出においては、受講態度や取り組み姿勢なども考慮し、総合的に評価します。						
テキスト	なし。						
参考書・教材	その都度指示、または配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ZOOMによる講義 ガイダンス、授業の進め方、授業内容、一年間の流れ。終了後、個別に質疑応答。 〔課題（復習・準備）〕準備学習（木管楽器・金管楽器）についての課題。自分と吹奏楽の関わりについて作文を書き、発表の準備をする。（1～2h）						
2	ZOOMによる講義 課題「吹奏楽と私」について発表及び討議。考察と指導。 各楽器についての歴史や特性、奏法を準備学習課題で考察する。 終了後、個別に質疑応答。 〔課題（復習・発展）〕各専攻楽器の指導法を、準備課題や経験を参考にプレゼンテーションするための資料を作成し、発表の準備をする。（1～2h）						
3	ZOOMによるプレゼンテーション 各10分間の発表。その後質疑応答。 〔課題（復習）〕各発表を振り返り、自分以外の楽器について特性や、練習法をまとめ、専攻楽器の練習法確立に活かす。（1～2h）						
4	吹奏楽の歴史と楽器編成の変遷 吹奏楽の歴史、楽器編成の変遷 〔課題（復習）〕吹奏楽の歴史、楽器編成の変遷について復習する。（1～2h）						
5	吹奏楽の歴史と楽器編成の変遷 楽器編成の基礎理論、楽器編成の種類と形態 〔課題（復習）〕楽器編成についての基礎理論や、種類・形態について復習し、大編成、中編成、小編成について個々に理想の編成を組んでみる（課題）。（1～2h）						
6	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち 編成についての発表・考察。 中世・ルネッサンス音楽：モンテヴェルディ、ガブリエリ、ベツェル バロック音楽：バッハ、ヘンデル、テレマン 〔課題（復習・準備）〕各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのが復習し考察する。（1～2h）						
7	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち 古典派音楽：グルック、シュターミッツ親子、モーツァルト、ベートーヴェン ロマン派音楽：リスト、ベルリオーズ、ワーグナー 〔課題（復習・準備）〕各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのが復習し考察する。（1～2h）						
8	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち 近代音楽へ：サン＝サーンス、リヒャルト・シュトラウス 印象派音楽：ドビュッシー、ラヴェル 〔課題（復習・準備）〕各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのが復習し考察する。（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち 国民学派音楽：格林カ、リムスキー・コルサコフ、ボロディン、スメタナ、ムソルグスキー、シベリウス [課題（復習・準備）] 各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。(1~2h)
10	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち 原始主義音楽：ストラヴィンスキー 表現主義音楽：シェーンベルク 新古典主義音楽：プロコフィエフ、レスピーギ [課題（復習・準備）] 各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。(1~2h)
11	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち 民族的・新古典主義：バルトーク、ハチャトゥリアン、ショスタコーヴィチ 近代その他：ホルスト、ヴォーン＝ウィリアムズ [課題（復習・準備）] 各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。(1~2h)
12	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち 近代その他：アルフォード、グレインジャー、コダーイ、イベール、ミヨー、ガーシュウィン、コープランド、プーランクなど 現代の音楽：シュトックハウゼン、クセナキス、リゲティなど [課題（復習・準備）] 各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。(1~2h)
13	吹奏楽における基礎練習 呼吸法 [課題（復習）] プレスロードを確認し、プレストレーニングの復習。タンギングと縦の響きを復習し、NaNoNuNoNaを歌って口腔内のフォームを確認する。(1~2h)
14	吹奏楽における基礎練習 個人の基礎練習 [課題（復習）] 学修した奏法チェックを確認。ロングトーンの実践。タンギングの確認。メトロノーム・チューナーの使い方の確認。フィンガリングの有効な練習法の実践。(1~2h)
15	前期の総まとめ、夏休みに向けての課題指示。 [課題（復習）] 前期を振り返り、吹奏楽の歴史と楽器編成の変遷、吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち、吹奏楽における基礎練習についてまとめる。(1~2h)
時間外での学修	楽曲を読み解き、指導するにあたり、作曲家や様式、時代背景の知識が必要です。管楽器の歴史や発展と作曲家の関係や、吹奏楽の歴史・楽器編成の変遷等を学び、楽曲のより深い読み取りを心がけましょう。また、指導対象を具体的にシミュレーションすることによって、指導の幅が広がります。想像力を豊かにしましょう。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間]
受講学生へのメッセージ	日頃から、音楽の仕組みや合奏隊やアンサンブルの音のブレンドや各楽器個々の音色や特徴に注意を向けることによって、吹奏楽に対する深い理解と、愛着を養い、それが指導に大きく役立ちます。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MA】吹奏楽指導法		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）3 5 年						
授業内容	吹奏楽において使用される楽器の音色の特性、音域、機能性を理解した上で、さまざまな楽器の組み合わせによりどのようなサウンドが生まれるかを学び、それを生かしたアンサンブルやバンド全体の音作りの仕方を学びます。さらに、各楽器の特性や、ハーモニーの作り方、基礎練習の方法など、具体的な指導内容の研究をします。また吹奏楽における編成や歴史、指導や運営方法を学び、卒業後、様々な場面において、吹奏楽の指導に携われるように準備します。吹奏楽のあらゆるジャンルにおける名曲や名演奏を聞き、それぞれの楽曲における形式や特性を学ぶことで、様々な楽曲の合奏指導法を身につけます。						
授業方法	吹奏楽指導における必要な総合的な知識を講義によって学びます。 指揮法、基礎合奏指導、楽曲指導などを実際に演奏したり、発表したり、また、視聴覚教材を使ったりして学びます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽の編成や成り立ちや、あらゆるジャンルの吹奏楽譜を演奏するための総合的な知識を身につけ、自分の言葉で伝えることができる。					
	思考・判断・表現	様々なジャンルの楽曲の特性や様式を理解し、その楽曲にふさわしい指導法を選択できる。自分の考え方、音楽性を相手に伝えることができる。					
	技能	合奏、分奏、パート練習、個人練習における練習方法を学び、小・中・高という学校教育や、職場や一般の社会教育の場でそれぞれの環境やレベルに合わせて指導ができる。					
	関心・意欲・態度	講義内容において自発的な問題提起、実践、改善、解決ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	-	-	50
	指導発表		-	-	10	10	20
	課題提出		10	10	-	10	30
合 計(点)		40	30	10	20	100	
評価の特記事項	指導発表と課題提出においては、受講態度や取り組み姿勢なども考慮し、総合的に評価します。						
テキスト	なし。						
参考書・教材	その都度指示、または配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	吹奏楽の指導と運営（吹奏楽と学校教育：小学校、中学校、高等学校における運営と問題）それぞれの中・高校時代の部活の組織について発表し合う。 [課題（準備）] 小学校、中学校、高等学校における運営と問題について各自考えてくる。（1～2h）						
2	吹奏楽の指導と運営（大学、職場、一般バンドの運営と問題、練習環境、組織） [課題（復習・発展）] 大学、職場、一般バンドの運営と問題、組織について復習する。吹奏楽の社会活動について、現代社会の情勢から今後の展望を考えまとめる。（課題）（1～2h）						
3	吹奏楽の指導と運営（これからの吹奏楽活動の向かう方向と課題） [課題（準備）] 個々が吹奏楽とどう関わっていくか、自分のライフプランと合わせて考え、レポートにまとめる。（1～2h）						
4	合奏の技術（基本作法：フレージング、バランス、ダイナミクス、表現など） [課題（復習）] 講義で使用した以外の教材において、復習する（課題プリント配布）。(1～2h)						
5	合奏の技術（指揮法の基礎と実践） [課題（復習）] 指揮の基本運動、応用的運動を理解した上で、様々な場合の指揮法について練習してくる。(1～2h)						
6	合奏の技術（指揮法課題の発表。吹奏楽における指揮の留意点） [課題（復習・発展）] 講義内容について、十分に理解できるまで、参考資料を読み込む。(1～2h)						
7	合奏の技術（アンサンブルのテクニック：木管アンサンブル） [課題（復習）] フルート、クラリネット、サクソフォーン、木管混成アンサンブルについて、その練習方法、演奏方法を理解する。(1～2h)						
8	合奏の技術（アンサンブルのテクニック：金管アンサンブル、打楽器アンサンブル） [課題（復習）] トランペット、ホルン、トロンボーン、バリチューバ、金管混成アンサンブル、打楽器アンサンブルについて、その練習方法、演奏方法を理解する。(1～2h)						
9	吹奏楽における名曲と名演、作曲家（マーチ、アレンジ作品）吹奏楽で定番のマーチ、アレンジ作品を、有名な楽団による演奏で聞くことにより、楽曲におけるより深い理解を得る。 [課題（復習・発展）] 授業で紹介した演奏とは別の楽団による演奏を聞き、さらなる理解を深める。（1～2h）						
10	吹奏楽における名曲と名演、作曲家（オリジナル作品：外国作曲家、邦人作曲家）吹奏楽で定番のオリジナル作品を、有名な楽団による演奏で聞くことにより、楽曲におけるより深い理解を得る。 [課題（復習・発展）] 授業で紹介した演奏とは別の楽団による演奏を聞き、さらなる理解を深める。（1～2h）						
11	吹奏楽曲の指導法（定期演奏会：第1部）楽曲分析。 [課題（復習）] 定期演奏会に対する考え方の共通理解。講義内容をもとに、第1部の楽曲について復習する。（1～2h）						
12	吹奏楽曲の指導法（定期演奏会：第2部）楽曲分析。 [課題（復習）] 講義内容をもとに、第2部の楽曲について復習する。（1～2h）						
13	吹奏楽曲の指導法（定期演奏会：第3部）楽曲分析。 [課題（復習）] 講義内容をもとに、第3部の楽曲について復習する。（1～2h）						
14	吹奏楽における名曲と名演、作曲家（アンサンブル作品）吹奏楽で定番のアンサンブル作品を、有名な奏者による演奏で聞くことにより、楽曲におけるより深い理解を得る。 [課題（復習・発展）] 授業で紹介した演奏とは別の演奏を聞き、さらなる理解を深める。（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	一年間の総まとめ、実際の合奏指導にむけての心構え。 [課題(復習・発展)] 一年間の学修内容の総括。吹奏楽における指導全般についてまとめる。(1~2h)
時間外での学修	楽曲を指導するにあたり、スコアについては、吹奏楽に関する基礎的な知識をもとにした詳細な読み取りが必要です。1年次に学修した「吹奏楽理論」の内容をしっかりと復習しておきましょう。また、ここで学んだ内容を定期演奏会につなげることで、より学修内容が定着し、知識は深まり、実際の演奏会における達成感を味わうことができます。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間]
受講学生へのメッセージ	日頃から、音楽の仕組みや合奏隊やアンサンブルの音のブレンドや各楽器個々の音色や特徴に注意を向けることによって、吹奏楽に対する深い理解と、愛着を養い、それが指導に大きく役立ちます。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【MS】リペア応用(木管)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度な技能を身に付ける事で、効率の良い作業方法を考える。また、完成度についてもより精度アップを図る。それらから、卒業後の実践的な技能の習得を目指す。木管楽器全般知識の学修						
授業方法	実技が主となりますが、個々の改善点をクリア化してスキルアップを行い、学内認定試験合格に向けて学修していきます。場合によっては、グループ化し、手法についての話し合いの場を設けたいと思います。さらに、メーカー協力により、特別講義を数回実施します。主要管楽器メーカーの知識や、独自のリペア技術を理解する事で、自己の持つ技術向上を図ります。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し的確なリペアができる。					
	思考・判断・表現	各木管楽器の状況を把握し、リペアが必要と思われる箇所を見つけ、解決方法を判断する。					
	技能	各木管楽器の状況を把握し、リペア箇所を自らの技術で問題解決できる。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『【管打楽器の新しい楽器学と演奏法】上・下巻』 1年次に購入したものを使います。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 作成した動画を活用し対面授業に向けた学修 【課題(復習)】課題提出 修正方法 (1h)						
2	クラリネット応用実習 タンポ交換・タンポ合わせ【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3h)						
3	クラリネット応用実習 全体バランス調整・軟物交換【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3～5h)						
4	クラリネット応用実習 管体割れ修正方法【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3h)						
5	クラリネット応用実習 セリ・ガタの修正方法について (スウェージングベンチ加工も含む) 【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3～5h)						
6	フルート応用実習 タンポ交換・タンポ合わせ【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3h)						
7	フルート応用実習 バランス調整の取り方 (再確認) ・軟物交換【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3～5h)						
8	フルート応用実習 全体調整 (アソビの取り方、開き等) 【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3～5h)						
9	サクソフォン応用実習 タンポ交換・タンポ合わせ【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3h)						
10	サクソフォン応用実習 ベル、1番管＝2番管分解組み立て (テーブルキ調整含む) 【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3h)						
11	サクソフォン応用実習 ベル、1番管＝2番管分解組み立て (テーブルキ調整含む) 【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する (3h)						
12	サクソフォン応用実習 ネックコルク交換 (ラック付けについても説明する) 【課題 (復習) 】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容についても復習する。(3h)						
13	主要メーカー特別講義 【課題 (復習) 】商品知識や、独自のリペア技術について学んだ内容の復習を行う。(3h)						
14	木管楽器総合実習 スワブ詰まりや、ノックピン抜き等、日常で起こりやすいトラブルについて説明【課題 (復習) 】学んだ内容の復習 (3h)						
15	木管楽器総合実習 あるテーマを設定し、終了後他の人にチェックリストを記入してもらい、自身の不出来部について再考する。 【課題 (復習) 】学んだ内容の復習 (3h)						

時間外での学修	技能の反復練習は非常に重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。学内認定は、自己申告で行いますが、合格ラインをしっかりと理解しておいてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべきことを十分に理解し、さらなる技術向上を目指してください。オフィスアワーは、毎週月曜日授業終了後にF101教室で行います。

【MA】リペア応用(木管)B		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 木村：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	前期で学修した技能をさらに発展させ、より高度な技術力を身に付け、作業時間の効率化を図るために、手法の見直しや改善を考える。 また、卒業後を見据えたより実践的な技能の習得、木管楽器全般知識の修得 *学内定試験を随時行います。						
授業方法	実技中心とし、苦手意識を無くし、得意分野をさらに向上させるように反復練習が多くなります。 前期での実施した、メーカーによる特別講義も行います。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアができる。					
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握をし、必要と思われるリペア箇所を見つけ解決方法を判断する。					
	技能	各木管楽器の状態把握をし、必要と思われるリペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、必要プリントについては授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	木管楽器応用実習 音孔修正他【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
2	木管楽器応用実習 音孔修正・大きなガタの取り方【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
3	木管楽器応用実習 音孔修正・大きなガタの取り方【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
4	主要管楽器メーカー特別講義 【課題（復習・他）】構造やセールストーク。また、独自のリペア技術等学んだ内容の復習（3h）						
5	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
6	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
7	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
8	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
9	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
10	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
11	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
12	主要メーカー特別講義 主要管楽器メーカー特別講義 【課題（復習・他）】構造やセールストーク。また、独自のリペア技術等学んだ内容の復習（3h）						
13	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
14	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
15	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて準備 規定時間内での仕上がり状態を合格ラインまで持ち上げる。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
時間外での学修	苦手意識を無くし、確実性を目指す。多くの技術者の作業法や使用工具を理解することで、到達点への過程の違いを見つけ、自分のスタイルに合った手法を確立してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						

受講学生への メッセージ	技術以外でセールスエンジニアとして必要なマナー等を身に付け、人間性を向上させてください。オフィスアワーは、毎週月曜日授業終了後F101教室で行います。
-----------------	---

【MS】リペア応用(木管)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 河本：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度な技能を身に付ける事で、効率の良い作業方法を考える。また、完成度についてもより精度アップを図る。それらから、卒業後の実践的な技能の習得を目指す。木管楽器全般知識の学修						
授業方法	実技が主となりますが、個々の改善点をクリア化してスキルアップを行い、学内認定試験合格に向けて学修していきます。場合によっては、グループ化し、手法についての話し合いの場を設けたいと思います。さらに、メーカー協力により、特別講義を数回実施します。主要管楽器メーカーの知識や、独自のリペア技術を理解する事で、自己の持つ技術向上を図ります。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し的確なリペアができる。					
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断する。					
	技能	各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
合 計(点)		10	20	50	20	100	
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は、授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 作成した動画を活用し対面授業に向けた学修 【課題(復習)】課題提出 修正方法 (1h)						
2	クラリネット応用実習 タンポ交換時のラック量の適正化。ラック溶解時のバーナー位置。【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3h)						
3	クラリネット応用実習 タンポ交換時のラック量の適正化。ラック溶解時のバーナー位置。カップの曲がり修正【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3h)						
4	クラリネット応用実習 タンポ交換時のラック量の適正化。ラック溶解時のバーナー位置。カップの曲がり修正【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3h)						
5	フルート応用実習 調整台紙でのタンポ合わせ【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3h)						
6	フルート応用実習 調整台紙でのタンポ合わせ ラックで接着するタンポ合わせ【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3h)						
7	フルート応用実習 ヘッドコルク交換作業。反射板位置の出し方。ジョイント部の修正法【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3h)						
8	フルート応用実習 ヘッドコルク交換作業。反射板位置の出し方。ジョイント部の修正法【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3h)						
9	サクソフォン応用実習 タンポ交換時のラック量とバーナーの位置や温度設定【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3～5h)						
10	サクソフォン応用実習 タンポ交換時のラック量とバーナーの位置や温度設定【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3～5h)						
11	サクソフォン応用実習 各キイのバネ圧の確認と曲げ方について【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3～5h)						
12	サクソフォン応用実習 連絡バランス後のアソビの取り方。各キイにおける開きの確認【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3～5h)						
13	主要メーカー特別講義 【課題（復習）】商品知識や、独自のリペア技術について学んだ内容の復習を行い、リペア技術については、積極的に取り入れる。(3～5h)						
14	木管楽器総合応用 日頃起こりやすいトラブルについて説明し、トラブル対処法について説明する。学内認定試験に向けて、各楽器のリペア精度を上げる。【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3～5h)						
15	木管楽器総合応用 日頃起こりやすいトラブルについて説明し、トラブル対処法について説明する。学内認定試験に向けて、各楽器のリペア精度を上げる。【課題（復習）】学んだ内容の復習 (3～5h)						
時間外での学修	リペア技術を身につけるには、反復練習がとても重要ですので、空き時間を利用して苦手意識を克服してください。また、主要メーカーの商品知識、アクセサリー等の知識を持つことも大切ですので、各社カタログや音楽雑誌を読むようにしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	リペア技術以外で、セールエンジニアとして必要なマナー等を身に付け、人間性を向上させてください。オフィスアワーは、毎週水曜日5限にF101教室で行います。						

【MA】リペア応用(木管)B		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 木村：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度な技能を身に付ける事で、効率の良い作業方法を考える。また、完成度についてもより精度アップを図る。それらから、卒業後の実践的な技能の習得を目指す。木管楽器全般知識の学修						
授業方法	実技が主となりますが、個々の改善点をクリア化してスキルアップを行い、学内認定試験合格に向けて学修していきます。場合によっては、グループ化し、手法についての話し合いの場を設けたいと思います。さらに、メーカー協力により、特別講義を数回実施します。主要管楽器メーカーの知識や、独自のリペア技術を理解する事で、自己の持つ技術向上を図ります。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し的確なリペア対応ができる。					
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ解決方法を判断する。					
	技能	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	木管楽器応用実習 グラナディア材を使用している管体の割れ修正について【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
2	木管楽器応用実習 フルートリングキのタンポ交換 ストロピンガータンポについて【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
3	木管楽器応用実習 フルートリングキのタンポ交換 ストロピンガータンポについて【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
4	主要メーカー特別講義 【課題（復習）】構造やセールストーク。独自のリペア技術等学んだ内容の復習を行い、技術については、積極的に取り入れてください。（3～5h）						
5	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
6	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
7	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
8	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
9	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
10	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
11	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
12	主要メーカー特別講義 商品研修および、メーカー技術者として日頃行われている技術について説明等【課題（復習）】学んだ内容の復習は、楽器店に就職を希望する学生は、特に覚える様にしてください。（3h）						
13	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
14	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
15	木管楽器応用実習 学内認定試験に向けて精度アップ【課題（復習）】学んだ内容の復習（3～5h）						
時間外での学修	苦手な楽器（リペアでの）を無くし、確実な対応力を身に付けてください。それぞれ異なった手順でもゴールへ向かうことが出来ることを理解し、自分としての最善な手法を確立してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	技術もさることながら、社会人として必要なマナー等は、バタバタでは身に付きません。日頃から意識を持って習得してください。 オフィスアワーは、毎週水曜日5限にF101教室で行います。						

【MS】リペア応用(金管)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	河本：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度なリペア技能を身につけ、作業時間短縮に向けて、効率の良い作業法を考え問題解決できるよう授業を展開していきます。また、卒業後を見据えたより実践的なリペア技能の習得、金管楽器全般についての知識向上を図る。						
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなど入れながら、より専門性の高い金管楽器についての知識、リペア技能が身につく授業にしていきます。また、各社メーカー比較などを取り入れ、セールスエンジニアに必要な知識なども身につけます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、的確なリペア技能対応ができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。					
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持って、自らが率先して学修する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15,120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 作成した動画を活用し対面授業に向けた学修 [課題(復習)]課題提出 修正方法(1h)						
2	ハンダ付け応用実習 [課題(復習)]ハンダ付けの復習(3h)						
3	トランペット応用実習 ピストン、抜き差し管調整 [課題(復習)]ピストン、抜き差し管調整の復習(3h)						
4	トランペット応用実習 ヘル、ヘル胴等ヘコミ修正 [課題(復習)]凹み修正方法の復習(3h)						
5	トランペット応用実習 マウスピースシャック修正他 [課題(復習)]各部修正方法の復習(3h)						
6	トランペット応用実習 全体調整 [課題(復習)]全体的な修理の復習(3h～5h)						
7	ホルン応用実習 ロータリー調整、ロータリー系(紐)交換 [課題(復習)]ロータリー調整、ロータリー紐交換の復習(3h)						
8	ホルン応用実習 レバー曲がり修正、レバー位置 [課題(復習)]各部修正方法の復習(3h)						
9	ホルン応用実習 ヘコミ修正他 [課題(復習)]凹み修正方法の復習(3h)						
10	ホルン応用実習 学内認定プレ試験 [課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h)						
11	トロンボーン応用実習 スライド調整 [課題(復習)]スライド調整の復習(3h)						
12	トロンボーン応用実習 全体調整 [課題(復習)]全体的な修理の復習(3h～5h)						
13	金管楽器応用実習 ブッシュ使用品の縦ガタ修正他 ヤマハグレード受験希望者に対して学内プレ試験 [課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h)						
14	各社メーカー別調整修理 [課題(復習)]各社メーカー別調整の復習(3h)						
15	金管楽器応用実習 ロー付け他 [課題(復習)]ロー付け方法の復習(3h)						
時間外での学修	技術の反復実習により、確実にリペア技能を身につける。 各社カタログ等をしっかり読み、商品知識を身につけ、楽器店訪問する事で、各店のディスプレイの仕方、接客姿勢、商品の種類等を理解し楽器店実習の準備に取りかかる。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据え、今やるべきことを理解し、更なるリペア技能向上を目指してください。 オフィスアワーは、毎週水曜日授業終了後にF101教室で行います。						

【MA】リペア応用(金管)B		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	楽器店修理販売職・10年						
授業内容	前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なりペア技能を身につけ、作業時間短縮に向けて効率の良い作業法を考え問題解決できるよう授業を展開していきます。また、卒業後を見据えたより実践的な技能の習得、金管楽器全般知識の修得。 *学内認定試験を随時行います。 ヤマハ(株)管楽器リペア技術評価試験受験者は合格を目指します。						
授業方法	実技中心とし、各自が不得意としている内容を克服するように反復練習の時間を増加します。インターン実習の機会を設け、より多くの現場を観てもらいます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し的確なりペア技能ができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。					
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決できる。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15,120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	金管楽器応用実習 ピストン固着、調整 抜き差し管固着他 [課題(復習)]固着修正方法の復習(3h)						
2	金管楽器応用実習 ピストン曲がり修正他 [課題(復習)]ピストン曲がり修正の復習(3h)						
3	金管楽器応用実習 スライド調整他 [課題(復習)]スライド調整の復習(3h)						
4	金管楽器応用実習 ロータリー調整他 [課題(復習)]ロータリー調整の復習(3h)						
5	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
6	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
7	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
8	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
9	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
10	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
11	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
12	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
13	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
14	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
15	金管楽器総合実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)]時間短縮及び苦手な修理の復習(3h～5h)						
時間外での学修	苦手なりペア技能を無くし確実に身につけてください。多くの技術者の手法を理解することで、到達点へのプロセスの違いを見出し、自分の技術スタイルを確立してください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	リペア技能以外に、セールスエンジニアとして必要なマナーを身につけ人間性を向上させてください。オフィスアワーは毎週水曜日授業終了後F101教室で行います。						

【MS】リペア応用(金管)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	松永 幸宏・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、河本：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	1年次で学修した基礎技術を発展させ、より高度なリペア技能を身につけ、作業時間短縮の為に効率の良い作業法を考え問題解決できるよう授業を展開していきます。 また、卒業後を見据えたより実践的なリペア技能の習得。金管楽器全般知識の修得。						
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなど入れながら、より専門的な金管楽器の知識、リペア技能が身につく授業にします。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し的確な修理、調整ができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断する。					
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修する事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』(上・下2巻)ヤマハ(15,120円) 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 作成した動画を活用し対面授業に向けた学修 [課題(復習)]課題提出 修正方法 (1h)						
2	ハンダ付け応用実習 [課題(復習)]1年次時の復習になるが、しっかり学んだ内容の復習 (1h)						
3	トランペット応用実習 ビストン横押し修正、抜き差し管固着修正他 [課題(復習)]症状によっての対応を考える授業であり、学んだ内容の復習 (3h)						
4	トランペット応用実習 ベルフレア部、ベル胴部へコミ修正他 [課題(復習)]作業で手直しが効かない事を十分に理解し、作業の復習を行う (3h)						
5	トランペット応用実習 ネジ部修正他 [課題(復習)]作業で手直しが効かない事を十分に理解し、作業の復習を行う (3h)						
6	トランペット応用実習 学内ブレ試験 [課題(復習)]受験するに当たってチェックポイントを十分に理解しその復習をする (3h)						
7	ホルン応用実習 ロータリー調整、ロータリー系(紐)交換、ベアリングスタイル調整 [課題(復習)]効率化をよく考えて学んだ内容の復習 (3h)						
8	ホルン応用実習 ロータリー調整、ロータリー系(紐)交換、ベアリングスタイル調整 [課題(復習)]効率化をよく考えて学んだ内容の復習 (3h)						
9	ホルン応用実習 学内ブレ試験 [課題(復習)]受験するに当たってチェックポイントを十分に理解し内容の復習 (3h)						
10	トロンボーン応用実習 スライド調整 [課題(復習)]1年次時に学んだ内容を復習 (3h)						
11	トロンボーン応用実習 スライド調整 [課題(復習)]楽器の特性を十分に理解し学んだ内容の復習 (3h)						
12	トロンボーン応用実習 学内ブレ試験 [課題(復習)]受験するためのチェックポイントを理解し、学んだ内容の復習 (3h)						
13	金管楽器応用実習 ヤマハグレード取得希望者については学内ブレ試験 [課題(復習)]受験するためのチェックポイントを理解し、学んだ内容の復習 (3h) 苦手意識を持っているのはどこなのかを理解し、改善に向けて作業を復習する。						
14	各社メーカー別調整修理 [課題(復習)]仕様の違い等で沢山の種類がある事を理解し、学んだ内容の復習 (3h)						
15	金管楽器応用実習 支柱ハンダ付け、ロー付け他 [課題(復習)]作業で手直しが効かない事を十分に理解し、作業の復習を行う (3h)						
時間外での学修	技術の反復実習により確実に身につける。 各社カタログ等をしっかり読み、商品知識を身につけ、楽器店訪問する事で各店のディスプレイの仕方や接客姿勢、商品の種類等を理解し、楽器店実習の準備にとりかかる。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]						
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべきことを理解して、更なるリペア技能向上を目指して下さい。 オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後F101教室で行います。						

【MA】リペア応用(金管)B		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	松永 幸宏・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、河本：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なリペア技術力を付け、作業時間短縮に向け効率の良い作業法を考え問題解決できるよう授業を展開していきます。 また、卒業後を見据えたより実践的なリペア技能の習得 金管楽器全般の知識修得 *学内認定試験を随時行います ヤマハ（株）管楽器リペア評価試験受験者は合格を目指します。						
授業方法	実技中心とし、各自が不得意としている内容を克服するよう、反復練習の時間を増加します。 インターン実習の機会を設け、より多くの現場を観てもらいます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し的確な修理、調整ができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決法を判断する。					
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。						
テキスト	『管打楽器の新しい楽器学と演奏法』（上・下2巻）ヤマハ1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	金管楽器応用実習 ピストン固着修正、抜き差し管固着修正他 [課題(復習)] 固着の原因を解明し、どう修復するのがベストなのか内容の復習（3h）						
2	金管楽器応用実習 ピストン固着修正、ピストン曲がり修正、抜き差し管固着修正他 [課題(復習)] 固着の原因を解明し、どう修復するのがベストなのか内容の復習（3h）						
3	金管楽器応用実習 トランペット、ホルン、トロンボーン以外の金管楽器 [課題(復習)] 金管楽器として分類されている管楽器はどのくらい存在するのかの復習（3h）						
4	金管楽器応用実習 トランペット、ホルン、トロンボーン以外の金管楽器 [課題(復習)] 金管楽器として分類されている管楽器はどのくらい存在するのかの復習（3h）						
5	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)] 受験するにに対してチェックポイントの確認内容の復習（3h～5h）						
6	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)] 自己の結果をみて、どう克服するのかの復習（3h～5h）						
7	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)] 自己の結果をみて、どう克服するのかの復習（3h～5h）						
8	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)] 自己の結果をみて、どう克服するのかの復習（3h～5h）						
9	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。[課題(復習)] 学んだ内容の復習（3h～5h）						
10	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。[課題(復習)] 楽器診断正確さの復習（3h～5h）						
11	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。[課題(復習)] 自己の持つ技術で対応可否の見極めがしっかり出来るかの復習（3h～5h）						
12	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。実習用楽器以外を自己診断させ、修理が必要であれば、その対応を行う。[課題(復習)] 自己の持つ技術で対応可否の見極めがしっかり出来るかの復習（3h～5h）						
13	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)] 苦手意識の克服するにはどうしたら良いのか復習する（3h～5h）						
14	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)] 苦手意識の克服するにはどうしたら良いのか復習する（3h～5h）						
15	金管楽器応用実習 学内認定取得に向け、規定時間内に作業を終了し、状態レベルが合格ラインに達するようにする。[課題(復習)] 苦手意識の克服するにはどうしたら良いのか復習する（3h～5h）						

時間外での学修	<p>苦手意識を克服し、確実に身につける。</p> <p>多くの技術者の手法を理解することで、到達点へのプロセスの違いを見出し、自分のリペア技能スタイルを確立させて下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]</p>
受講学生へのメッセージ	<p>技術以外にセールスエンジニアとして必要なマナーを身につけ人間性を向上させて下さい。</p> <p>オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後F101教室で行います。</p>

【MA】リペア特講(木管)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業内容	吹奏楽で使用されている木管楽器の種類は多くあります。特殊管等の仕組みや構造を理解し、リペア技術の幅や商品知識向上を図ります。						
授業方法	実習が主になりますが、小グループで解決策を見出し。検討結果等の発表の活動等も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し的確なリペア対応ができる。					
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ解決方法を判断する。					
	技能	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	40	-	60
	発表・レポート		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合 計(点)		20	30	40	10	100	
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方【課題（復習）】学んだ内容の復習（1h）						
2	ピッコロについて ヘッドコルク脱着方法、反射板位置（各社の寸法）タンポ調整【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
3	ピッコロについて タンポ調整、連絡バランスの取り方、ハンミッヒ製についても説明【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
4	フルートリングキタイプについて 仕組みや構造、タンポ調整【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
5	フルートリングキタイプについて タンポ調整（専用工具製作含む）小グループ化し、ピッコロ・リングキフルートの作業方法等を討議する【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～6h）						
6	ハーモニクラリネットについて 仕組みや構造【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
7	ハーモニクラリネット タンポ調整、連絡バランスの取り方【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
8	ハーモニクラリネットについて レジスター連絡の取り方について小グループ化し、取り方につけて討論する【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～6h）						
9	オーボエについて 仕組みや構造について【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（1h）						
10	オーボエについて タンポ調整、連絡バランス調整【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
11	ファゴットについて 仕組みや構造について【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（1h）						
12	ファゴットについて タンポ調整、連絡バランスの取り方について、小グループ化し討論する。【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
13	ソプラノサクソフォン・バリトンサクソフォンについて 仕組みや構造について【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（1h）						
14	ソプラノサクソフォン・バリトンサクソフォンについて タンポ調整、連絡バランスの取り方について小グループ化し討論する【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～6h）						
15	木管楽器全般復習 学校備品や使用品のリペア対応力アップ 使用頻度や対応年数、メンテナンス不足等で状況の異なるトラブルが発生するため、日常、楽器店等へ持ち込まれる修理品の状態把握と、リペア対応力を身に付ける。【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～6h）						
時間外での学修	多くの種類の楽器が存在するため、まずは、構造を理解しなければ先に進みませんので、しっかり身に付けてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	楽器店では、吹奏楽団体との繋がりが多くなりますから、木管楽器全般のリペア対応力が必要となりますので、しっかり身に付けてください。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後にF101教室で行います。						

【MA】リペア特講(金管)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	河本 幾乃						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	木村：楽器店修理販売職・10年						
授業内容	吹奏楽で使用されている金管楽器の種類は多くあります。特殊管等の仕組みや構造を理解し、リペア技術の幅や商品知識向上を図ります。						
授業方法	実習が主になりますが、小グループで解決策を見出し。検討結果等の発表の活動等も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組みや構造を理解し的確なリペア対応ができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ解決方法を判断する。					
	技能	各金管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ自らの技能で問題解決する。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味と関心を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	40	-	60
	発表・レポート		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		20	30	40	10	100
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方 【課題（復習）】学んだ内容の復習（1h）						
2	ピストン楽器について ホルネット、フリューゲルホルンの仕組み構造について【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（1h）						
3	ピストン楽器について ユーフォonium、チューバの仕組み、構造について【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（1h）						
4	ピストン楽器について 1番管、2番管へこみ直しの方法【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
5	ピストン楽器についてまとめ 小グループでまとめる【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～6h）						
6	ロータリー楽器について フルダブルホルン、セミダブルホルン、チューバの仕組みや構造【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
7	ロータリー楽器 チューバを使用して、分解組み立てと調整方法【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
8	ロータリー楽器のまとめ 小グループ化してまとめる。【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
9	スライド楽器について 仕組みや構造（主にトロンボーンのテナー、テナーバス、バスの比較）【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（1h）						
10	スライド楽器について 各社切り替えシステムについて【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
11	スライド楽器のまとめ 小グループ化してまとめる【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
12	金管楽器のトラブル対処 へこみ、固着【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3～5h）						
13	金管楽器のトラブル対処 軟物による変化【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（2h）						
14	金管楽器のトラブル対処 溶接【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～6h）						
15	金管楽器全般復習 学校備品や使用品のリペア対応力アップ 使用頻度や対応年数、メンテナンス不足等で状況の異なるトラブルが発生するため、 日常、楽器店等へ持ち込まれる修理品の状態把握と、リペア対応力を身に付ける。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～6h）						
時間外での学修	多くの種類の楽器が存在するため、まずは、構造を理解しなければ先に進みませんので、しっかり身に付けてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	楽器店では、吹奏楽団体との繋がりが多くなりますから、金管楽器全般のリペア対応力が必要となりますので、しっかり身に付けてください。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後にF101教室で行います。						

【MS】リペアグレード対策(木管)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	松永 幸宏						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	楽器店修理販売職・19年						
授業内容	ヤマハが実施するリペアグレード取得に向けて、木管楽器（フルート・クラリネット・サクソフォン）の3品目について、実技を行ってきませんが、チェックポイントを考えて、合格レベルに達するよう反復指導になります。						
授業方法	実技が中心となり、グレード基準とはどういったものなのかを詳細に説明していきます。						
到達目標	知識・理解	木管楽器のベストな状態とは、を十分に理解できる。					
	思考・判断・表現	リペア技術での手法をどう導き出して、実技に表現されている。					
	技能	作業にあたって、原因究明し対処方法を考えて、合格レベルを超えるものになっている。					
	関心・意欲・態度	自らが率先して、リペア技能や表現に対して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	35	40	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		15	35	40	10	100
評価の特記事項							
テキスト	特にありません						
参考書・教材	必要資料は、授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 ポータルサイトを活用し対面授業に向けた学修 [課題(復習)]課題提出 各部名称 (1h)						
2	木管楽器（クラリネット）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、タッチ感【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
3	木管楽器（クラリネット）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、タッチ感、ジョイントコルク交換【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
4	木管楽器（クラリネット）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、タッチ感、ジョイントコルク交換【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
5	木管楽器（フルート）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、タッチ感【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
6	木管楽器（フルート）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、タッチ感、ヘッドコルク交換、反射板位置調整【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
7	木管楽器（フルート）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、タッチ感、ヘッドコルク交換、反射板位置調整【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
8	木管楽器（サクソフォン）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
9	木管楽器（サクソフォン）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧、ネックコルク交換調整【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
10	木管楽器（サクソフォン）リペアグレード対策実習 タンポ調整（汚れ・合わせ・開き）、連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧、ネックコルク交換調整【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
11	木管楽器リペアグレード対策実習 木管楽器のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛け、よりリペア技術の精度アップを図る。 。【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
12	木管楽器リペアグレード対策実習 木管楽器のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛け、よりリペア技術の精度アップを図る。 。【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
13	木管楽器リペアグレード対策実習 木管楽器のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛け、よりリペア技術の精度アップを図る。 。【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3～5h）						
14	木管楽器リペアグレード対策実習 木管楽器のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛け、よりリペア技術の精度アップを図る。 。【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（5h）						
15	木管楽器リペアグレード対策実習 木管楽器のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛け、よりリペア技術の精度アップを図る。 。【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（5h）						
時間外での学修	復習時間を多く取る事が重要ですので、授業外で確実に学修を進めてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への メッセージ	グレード合格に向け頑張ってください。また、分からないことを後回しにしないで、すぐに質問してください。試験日が限られていますので、効率的に進めないと後手後手になってしまいますから、十分に気を付けて下さい。 オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後F101教室で行います。
-----------------	--

【MS】リペアグレード対策(金管)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業内容	ヤマハが実施するリペアグレード取得に向けて、トランペット、ホルン、トロンボーンの3品目について、実技を行ってきますが、チェックポイントを考えて、合格レベルに達するよう反復指導になります。						
授業方法	実技が中心となり、グレード基準とはどういったものなのかを詳細に説明していきます。						
到達目標	知識・理解	金管楽器のベストな状態とは、を十分に理解できる。					
	思考・判断・表現	リペア技術での手法をどう導き出して、実技に表現されている。					
	技能	作業にあたって、原因究明し対処方法を考えて、合格レベルを超えるものになっている。					
	関心・意欲・態度	自らが率先して、リペア技能や表現に対して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	35	40	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		15	35	40	10	100
評価の特記事項							
テキスト	特にありません						
参考書・教材	必要資料は、授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 ポータルサイトを活用し対面授業に向けた学修 【課題(復習)】課題提出 各部名称 (1h)						
2	トランペットリペアグレード対策実習 ピストン固着修正作業の見直し【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)						
3	トランペットリペアグレード対策実習 マウスパイプハンダ付け作業の見直し【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)						
4	トランペットリペアグレード対策実習 抜き差し管へこみ修正の見直し【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)						
5	トランペットリペアグレード対策実習総合 リペアグレード対策実習で学修した内容について時間内で実施し、チェックリストに基づいてチェックを行い、不出来部について再考する。【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
6	ホルンリペアグレード対策実習 ロータリー固着修正の見直し、ガタ取り方法の再確認【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
7	ホルンリペアグレード対策実習 ロータリー固着修正の見直し、ガタ取り方法の再確認【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
8	ホルンリペアグレード対策実習 ロータリー系(紐)交換時のテンションとレバー板曲がり修正の見直し【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)						
9	ホルンリペアグレード実習総合 リペアグレード対策実習で学修した内容について時間内で実施し、チェックリストに基づいてチェックを行い、不出来部について再考する。【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
10	トロンボーンリペアグレード対策実習 スライド調整の見直し【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
11	トロンボーンリペアグレード対策実習 スライド調整の見直し【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
12	トロンボーンリペアグレード対策実習 スライドストップフェルト交換での適正な状態。ウォーターキー、コルク調整の再確認【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)						
13	トロンボーンリペアグレード実習総合 リペアグレード対策実習で学修した内容について時間内で実施し、チェックリストに基づいてチェックを行い、不出来部について再考する。【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
14	金管楽器全般リペアグレード対策実習 リペアグレード取得に向けて、リペアの精度アップを図り合格を目指す。 規定時間内で精度をあげるにはどうすれば良いかをよく考え、技能に反映する。【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
15	金管楽器全般リペアグレード対策実習 リペアグレード取得に向けて、リペアの精度アップを図り合格を目指す。 規定時間内で精度をあげるにはどうすれば良いかをよく考え、技能に反映する。【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
時間外での学修	復習時間を多く取る事が重要ですので、授業外で確実に学修を進めてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	グレード合格に向け頑張ってください。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後F101教室で行います。						

【MS】リペアグレード対策(総合)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	河本 幾乃						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	楽器店修理販売職・10年						
授業内容	ヤマハが実施するリペアグレード取得に向けて、木管楽器3品目、金管楽器3品目について、実技を行ってきますが、チェックポイントを考えて、合格レベルに達するよう反復指導になります。						
授業方法	実技が中心となり、グレード基準とはどういったものなのかを詳細に説明していきます。						
到達目標	知識・理解	木管楽器、金管楽器のベストな状態とは、を十分に理解できる。					
	思考・判断・表現	リペア技術での手法をどう導き出して、実技に表現されている。					
	技能	作業にあたって、原因究明し対処方法を考えて、合格レベルを超えるものになっている。					
	関心・意欲・態度	自らが率先して、リペア技能や表現に対して学修することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	35	40	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		15	35	40	10	100
評価の特記事項							
テキスト	特にありません						
参考書・教材	必要資料は、授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	遠隔授業 ポータルサイトを活用し対面授業に向けた学修 【課題(復習)】課題提出 各部名称 (1h)						
2	木管楽器(クラリネット)リペアグレード対策実習 タンポ調整(汚れ、開き、隙、他)連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
3	木管楽器(クラリネット)リペアグレード対策実習 タンポ調整(汚れ、開き、隙、他)連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
4	木管楽器(フルート)リペアグレード対策実習 タンポ調整(汚れ、開き、隙、他)連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
5	木管楽器(フルート)リペアグレード対策実習 タンポ調整(汚れ、開き、隙、他)連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
6	木管楽器(サクソフォン)リペアグレード対策実習 タンポ調整(汚れ、開き、隙、他)連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
7	木管楽器(サクソフォン)リペアグレード対策実習 タンポ調整(汚れ、開き、隙、他)連絡バランス、セリ、ガタ、パネ圧 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
8	金管楽器(トランペット)リペアグレード対策実習 ピストン調整、抜き差し管調整、ハンダ付け、全体調整 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)						
9	金管楽器(ホルン)リペアグレード対策実習 ロータリー調整、ロータリー系交換、レバー高さ修正、全体調整 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)						
10	金管楽器(トロンボーン)リペアグレード対策実習 スライド調整、スライドストップフェルト交換他 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3~5h)						
11	リペアグレード対策実習 制限時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら、合格レベルまで精度を上げていく。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(5h)						
12	リペアグレード対策実習 制限時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら、合格レベルまで精度を上げていく。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(5h)						
13	リペアグレード対策実習 制限時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら、合格レベルまで精度を上げていく。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(5h)						
14	リペアグレード対策実習 制限時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら、合格レベルまで精度を上げていく。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(5h)						
15	リペアグレード対策実習 制限時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら、合格レベルまで精度を上げていく。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(5h)						
時間外での学修	復習時間を多く取る事が重要ですので、授業外で確実に学修を進めてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	楽器でばらつきが出るのは自然ですが、満遍なくこなせるように心掛けてください。 オフィスアワーは、毎週木曜日授業終了後にF101教室で行います。						

【MA】打楽器リペア演習		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業内容	打楽器類より、主にティンパニーを取り上げ、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技術や知識を学修し、膜楽器、音板打楽器の起こりやすいトラブルに対処できるリペア技能を学修します。安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学び、リペア技術に必要な基本動作、取り扱い法を身に付け、基礎的な知識やリペア技能習得を目指します。正確性、効率性、商品知識等の現場で必要とする内容についても学修します。						
授業方法	実技を中心として、構造説明やそれぞれの楽器についての演奏方法等、打楽器全般の基礎的な知識やリペア技能が身につく様、授業を進めていきます。						
到達目標	知識・理解	各楽器の仕組みや構造を理解し、基本的な楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各楽器の状態把握後、修理が必要と思われる箇所を見つけ、対処法を判断する。					
	技能	各楽器の状態把握後、リペア箇所を自らのリペア技能で問題解決ができる。					
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・○・ の記号はDP・到達目標との結びつきの強さを示します。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、打楽器概論について教科書を使用しながら説明を行う。 【課題（復習）】打楽器概論で学修した内容の復習（1.5h）						
2	ティンパニーの形態と構造、演奏方法 【課題（復習）】ティンパニーの形態や演奏法等、学んだ内容を復習する。（3～5h）						
3	ティンパニー基礎実習 TP520～532を使用して分解作業を行い、構造理解や工具の使い方について学修する。 【課題（復習・他）】ティンパニー構造や、分解手順等学んだ内容の復習。（3～5h）						
4	ティンパニー基礎実習 TP520～532を使用して分解作業を行い、構造理解や工具の使い方について学修する。 【課題（復習・他）】ティンパニー構造や、分解手順等学んだ内容の復習。（3～5h）						
5	ティンパニー基礎実習 TP520～532を使用して分解作業を行い、構造理解や工具の使い方について学修する。【課題（復習・他）】ヘッド交換時に気をつける事やティンパニー構造や、分解手順等学んだ内容の復習。（3～5h）						
6	ティンパニー基礎実習 - 1 バランステンションロッド、テンションロッド調整他【課題（復習・他）】ベース部の分解で、分解手順やパーツ名称等、学んだ内容の復習。（3～5h）						
7	ティンパニー基礎実習 - 2 バランステンションロッド、テンションロッド調整他【課題（復習・他）】ベース部の分解で、分解手順やパーツ名称等、学んだ内容の復習。（3～5h）						
8	ティンパニー基礎実習 - 3 バランステンションロッド、テンションロッド調整、チューニング【課題（復習・他）】テンションロッドの高さ設定を理解して、分解手順やパーツ名称等、学んだ内容の復習。（3～5h）						
9	ティンパニー基礎実習 - 4 バランステンションロッド、テンションロッド調整、チューニング【課題（復習・他）】テンションロッドの高さ設定を理解して、分解手順やパーツ名称等、学んだ内容の復習。（3～5h）						
10	膜楽器の形態と構造、分解調整他 - 1 コンサートバスドラム、マーティングバスドラムの構造や演奏方法等【課題（復習・他）】コンサートバスドラム、マーチングバスドラムの構造や演奏法等、学んだ内容の復習。（2h）						
11	膜楽器の形態と構造、分解調整他 - 1 コンサートスネアドラム、マーティングスネアドラムの構造や演奏方法等【課題（復習・他）】コンサートバスドラム、マーチングバスドラムの構造や演奏法等、学んだ内容の復習。（2h）						
12	音板打楽器の形態と構造、よくあるトラブル対処法について 【課題（復習・他）】コンサートマリンパで学んだ内容の復習。（2h）						
13	音板打楽器の形態と構造、よくあるトラブル対処法について 【課題（復習・他）】コンサートシロフォンで学んだ内容の復習。（2h）						
14	ヴィブラフォンやチャイムの形態と構造、演奏法やトラブル対処法について 【課題（復習・他）】ヴィブラフォンやチャイムの形態や構造で学んだ内容の復習。（2h）						
15	打楽器総合基礎演習 シンバルの手皮交換他や、小物打楽器の形態等【課題（復習・他）】打楽器全般の復習。（5h）						
時間外での学修	ティンパニーの分解作業については、非常に危険ですから、必ず教員立ち合いを原則とします。（怪我防止の観点から） 各社カタログやパーツリストをしっかりと読み、構造上の違いやセールスポイントを理解してください。（この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間）						

受講学生への メッセージ	基本動作（手順）をしっかり身に付ければ、学校訪問時の対応力強化も図れますので、よく考えて授業に臨んでください。 オフィスアワーは、毎週月曜日授業終了後B107教室で行います。
-----------------	--

【MA】弦楽器リペア演習		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松永 幸宏						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	楽器店修理販売職・19年						
授業内容	楽器店及び学校販売の現場において最低限必要な弦楽器の知識や技術を学ぶ。						
授業方法	実際に楽器にさわる実習が中心ですが、資料などを活用した講義も取り入れグループでの実習などを含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	弦楽器の歴史や名称など基本的な知識を理解できる。					
	思考・判断・表現	不具合を見つけ適切な処置方法を考えることができる。					
	技能	基本的なメンテナンス技術を身に付ける。					
	関心・意欲・態度	より深く楽器に対して関心を持ち、積極的に知識を得ようと努力し取り組むことができる。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	-	-	50
	実技試験		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		30	20	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
2	バイオリンについて(歴史・名称) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
3	バイオリンについて(扱い方・セットアップ) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
4	バイオリンについて(弦交換) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
5	バイオリンについて(駒調整) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
6	バイオリンについて(魂柱たて1) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
7	バイオリンについて(魂柱たて2) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
8	バイオリンの弓について [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
9	バイオリンの弓について [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
10	バイオリンのメンテナンス [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
11	コントラバスの知識・実技1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
12	コントラバスの知識・実技2 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
13	楽器店における弦楽器の販売 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
14	外部講師による特別講義 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
15	授業外の課題のまとめ、試験に向けての復習確認作業 [課題(復習)]試験への再確認(1h)						
時間外での学修	[課題]は技術を身に付ける上で必要なことです。授業外で確実に学修を行いましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]						
受講学生へのメッセージ	専門外の楽器ですが、今後必要になる知識です、積極的に授業に参画してください。オフィスアワーは毎週月曜日授業終了後にF101で行います。						

【MS】演奏会研究		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	鈴木 孝育					
資格・制限等	Wコース必修					
実務家教員						
授業内容	年間約4～6公演を鑑賞予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、後期のみの鑑賞となります。そのかわりに、「自分の企画する演奏会」「世界のオーケストラと指揮者、その名演」「世界の音楽祭・コンサート」をそれぞれ研究し、プレゼンテーションを行ないます。創意工夫された資料作りをし、個別発表することによって、プレゼンテーション能力も磨きます。また、相互に批評・評価する中で、他人の意見を聞く傾聴力や、他人に的確にアドバイスできる力を養成します。世界有数のオーケストラや音楽祭に触れることで、個々の感受性を高め、音楽の表現力や根本的な楽しさを学びます。					
授業方法	個々の企画演奏会については、演目や出演者等を設定し、プログラムを作成します。それをもとに、15分程度のプレゼンを行い、他者の発表時には、評価シートを記入します。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」及び「世界の音楽祭・コンサート」も、それぞれ別の対象を選択し、発表資料を作成します。それをもとに、20分程度のプレゼンを行い、他者の発表時には、評価シートを記入し、意見交換をします。					
到達目標	知識・理解	個々に企画する演奏会や、調査対象のオーケストラ、指揮者、音楽祭やコンサートについての基本情報を調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解することができる。				
	思考・判断・表現	個々に企画する演奏会のプログラムや、「世界のオーケストラ、指揮者とその名演」「世界の音楽祭、コンサート」についてのプレゼンテーション資料を作成し発表することによって、自身の音楽表現に活かすことができる。また、他者の発表内容を評価することにより、自己の知識を増幅させるとともに自己表現力を磨き、自分の企画する演奏会に活かすことができる。				
	関心・意欲・態度	世界の有数なオーケストラや指揮者、音楽祭やコンサートを知ることによって自分の音楽世界を押し広げ、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	資料・発表・講評	27	27	-	24	78
	課題提出	8	8	-	6	22
	合 計(点)	35	35	-	30	100
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。					
テキスト	ありません					
参考書・教材	その都度配付					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ZOOMによる講義 ガイダンス、この授業で学ぶこと 研究の仕方、授業内容、到達目標等 終了後、個別に質疑応答 [課題（準備）]演奏会についての考察課題 ～ 。演奏会研究冒頭調査。(1～2h)					
2	ZOOMによる講義 演奏会についての考察（第1回授業振り返りと発展） 自分の企画する演奏会についての構想を練る。 終了後、個別に質疑応答。 [課題（準備）]自分の企画する演奏会プログラムの作成。(2～3h)					
3	ZOOMによる講義 自分の企画する演奏会についての構想を練る。 個別相談・指導 [課題（準備）]自分の企画する演奏会プログラムの作成。(2～3h)					
4	自分の企画する演奏会プログラム提出。次回の発表について説明。 「世界のオーケストラと指揮者、その名演について」解説および、調査・発表対象の選択。 [課題（準備）]「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表資料作成。(2～3h)					
5	自分の企画する演奏会についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表資料作成。(2～3h)					
6	自分の企画する演奏会についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表資料作成。(2～3h)					
7	自分の企画する演奏会プログラム発表における考察と研究。 プレゼンの意義、方法についての解説。発表について、「良かった点」「改善点」の考察とディスカッション。「世界のオーケストラと指揮者、その名演」の発表についての説明。 [課題（復習・準備）]すべての発表の振り返り及び、次回「世界のオーケストラと指揮者、その名演」のプレゼンテーション準備(2～3h)					
8	「世界のオーケストラと指揮者、その名演について」についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。次回発表の準備(2～3h)					
9	「世界のオーケストラと指揮者、その名演について」についてのプレゼンテーション（4人） [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(2～3h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表における考察と研究発表について、「良かった点」「改善点」の考察とディスカッション。それぞれのオーケストラについて更に補足説明。</p> <p>「世界の音楽祭・コンサート」について、解説および、調査・発表対象の選択。</p> <p>[課題（復習・準備）]すべての発表の振返り及び、本日学修した「オーケストラ・指揮者」の復習。「世界の音楽祭・コンサート」発表資料作成。(2～3h)</p>
11	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表における考察と研究発表について、「良かった点」「改善点」の考察とディスカッション。それぞれのオーケストラについて更に補足説明。</p> <p>[課題（復習・準備）]すべての発表の振返り及び、本日学修した「オーケストラ・指揮者」の復習。「世界の音楽祭・コンサート」発表資料作成。(2～3h)</p>
12	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」発表における考察と研究発表対象から外れたオーケストラについて解説・発表</p> <p>[課題（復習）]本日学修した「オーケストラ・指揮者」の復習。「世界の音楽祭・コンサート」発表資料作成。(2～3h)</p>
13	<p>「世界のオーケストラと指揮者、その名演」における確認テスト</p> <p>Googleフォームにて実施する。</p> <p>[課題（準備）]「世界の音楽祭・コンサート」発表準備。(1～2h)</p>
14	<p>「世界の音楽祭・コンサート」についてのプレゼンテーション（４人）</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。次回発表の準備(1～2h)</p>
15	<p>「世界の音楽祭・コンサート」についてのプレゼンテーション（４人）</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振返り省察する。(1～2h)</p>
時間外での学修	各発表資料提出については、期限に遅れないのはもちろん、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中で、より中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；26時間から41時間]
受講学生へのメッセージ	他者の調査内容や、発表内容を参考にして、自分の知識や表現力をより磨いていきましょう。オフィスアワーは、授業終了後、教室で行います。

【MA】演奏会研究		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員							
授業内容	年間約4～6公演を鑑賞します。鑑賞に当たっては事前に演目、出演者などの研究をする事により、深い知識を持って鑑賞に臨みます。また、それをもとに個別発表することによって、自己の調査内容を増幅させ、プレゼンテーション能力を磨きます。様々な音楽を聴くことで、個々の感受性を高め、音楽の表現力、楽器の技術力等を学びます。CD等のメディアでは得ることのできない本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。プログラム構成、企画、舞台演出、宣伝活動など、演奏以外の面についても研究をし、自分たちの企画する演奏会に活かします。						
授業方法	各公演、鑑賞前には3～4週にわたって演目や出演者などの研究をし、また鑑賞後には、演奏の様子や、自身の感想をレポートにまとめ、鑑賞前後にそれぞれ提出し、個別発表やディスカッションをしてもらいます。また、自分で興味のある演奏会を選択し、調査、発表を行ってもらいます。コンサートの日程により授業の予定が大きく変わることがあります。						
到達目標	知識・理解	演奏会を聴くにあたって、その演奏会のプログラム、演奏者の基本情報を調べ演奏会に臨み、その知識を理解することができる。					
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。					
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート提出・発表		30	30	-	20	80
	小テスト		10	10	-	-	20
	合 計(点)		40	40	-	20	100
評価の特記事項	レポート提出は、鑑賞前の事前レポートと観賞後の事後レポートで評価します。発表は、要点の強調、表現の工夫、説得力、独自性、声の大きさ・スピード、語彙力等によって評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	その都度配付						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業日程の説明、選択演奏会研究・鑑賞レポートについての説明 [課題（準備）]演奏会3における演奏者（演技者）演目内容について調べる。（2～3h）						
2	演奏会3に関するCDの鑑賞及び演奏者（演技者）の解説及び演奏会3鑑賞前レポート提出 [課題（準備）]演奏会3における個別発表の準備をする。（1～2h）						
3	演奏会3鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会3における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
4	演奏会3鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会3における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
5	演奏会3鑑賞 [課題（復習・準備）]演奏会3について鑑賞後のレポートをまとめる。（1～2h）						
6	演奏会3の鑑賞後レポート提出及びそれに基づくディスカッション [課題（復習）]演奏会3鑑賞後レポートによる復習とまとめ。（1～2h）						
7	演奏会の歴史について講義・解説 [課題（復習）]演奏会の歴史について講義内容を復習する。（1～2h）						
8	演奏会の歴史について講義・小テスト [課題（準備）]演奏会4における演奏者（演技者）演目内容について調べる。（2～3h）						
9	演奏会4に関するCDの鑑賞及び演奏者（演技者）の解説及び演奏会4鑑賞前レポート提出 [課題（準備）]演奏会4における個別発表の準備をする。（1～2h）						
10	演奏会4鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会3における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
11	演奏会4鑑賞前レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]演奏会4における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
12	演奏会4鑑賞 [課題（復習）]演奏会4について鑑賞後のレポートをまとめる。（1～2h）						
13	演奏会4の鑑賞後レポート提出及びそれに基づくディスカッション及び選択演奏会レポート提出。 [課題（復習・準備）]演奏会4鑑賞後レポートによる復習とまとめ。及び、選択演奏会における個別発表の準備をする。（2～3h）						
14	選択演奏会レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]選択演奏会における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
15	選択演奏会レポートに基づく個別発表 [課題（復習・発展）]選択演奏会における他者の発表内容から、自己の調査内容を増幅させ、自己の発表の反省をする。（1～2h）						
時間外での学修	各レポート提出については、期限に遅れないのはもちろん、内容の充実したレポート作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中でより中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：18～31時間]						

受講学生への メッセージ	鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。
-----------------	---

【MS】奏法研究		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	楽曲を深く理解し高度な演奏に仕上げていく上で必要な方法論を身につけます。 世の中に溢れている様々なスタイルの音楽に対し柔軟に対応していけるように知識や技術を身につけます。 自分の考え方や音楽性をどのように演奏に結びつけるか実際に演奏を通して研究します。						
授業方法	講義、ディスカッション、個人レッスン、グループレッスン、レッスン聴講、など多彩な活動を通して研鑽します						
到達目標	知識・理解	その音楽が要求する内容を楽譜から読み取ることができる。					
	思考・判断・表現	読み取った内容を演奏に活かすことができる。					
	技能	思い通りの演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	演奏を聴いてその内容を深く探求することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		実技試験	30	20	-	-	50
		レポート提出	-	10	-	-	10
		演奏課題	-	-	20	-	20
		受講態度	-	-	10	10	20
		合 計(点)	30	30	30	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	随時プリント配付						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等 [課題（復習）]本時学修内容の復習(1～2h)						
2	音楽の音とその由来【1 2 個の音（音階の仕組み）】 [課題（復習）]本時学修内容（音階の構成および正確なイントネーション）の復習(1～2h)						
3	音と音の繋がり（1）【点と線（対位法的処理について）】 [課題（復習）]本時学修内容（連続的な音の処理方法）の復習(1～2h)						
4	音と音の繋がり（2）【線の行方（歌うということ）】 [課題（復習）]本時学修内容（有機的なディナーミクおよびアゴーギグ）の復習(1～2h)						
5	和声の力（1）【ハモる】 [課題（復習）]本時学修内容（和声観および正確な音程観）の復習(1～2h)						
6	和声の力（2）【機能と和声について】 [課題（復習）]本時学修内容（ドミナント-トニックのダイナミズム）の復習(1～2h)						
7	和声の力（3）【非和声音と呼ばれる音達】 [課題（復習）]本時学修内容（各種非和声音の実践）の復習(1～2h)						
8	転調【どこでも転調】 [課題（復習）]本時学修内容（転調における属7、減7などの和音）の復習(1～2h)						
9	テンションコード【複雑な和声】 [課題（復習）]本時学修内容（9th、11th、13thの実践）の復習(1～2h)						
10	リズムの力【拍子とリズム】 [課題（復習）]本時学修内容（反復とそのパターンおよびグループ）の復習(1～2h)						
11	音符の付属品（1）【音符に直接付いている小さな印】 [課題（復習）]本時学修内容（アーテュレーション）の復習(1～2h)						
12	音符の付属品（2）【音符の近くにある小さな印】 [課題（復習）]本時学修内容（ディナーミクや速度変化など）の復習(1～2h)						
13	楽譜の付属品（1）【楽譜に書かれている様々な指示】 [課題（復習）]本時学修内容（発想標語や演奏指示）の復習(1～2h)						
14	楽譜の付属品（2）【楽譜に書くまでもない重要な事】 [課題（復習）]本時学修内容（楽譜という記号からその意味を見いだすこと）の復習(1～2h)						
15	前期まとめ 試験対策 [課題（復習）]本時学修内容（1回から14回までの内容全て）の復習(1～2h)						
時間外での学修	机上の理論だけでなく実際の楽器演奏も必須ですから授業時間外で楽器の練習や修練が必要です。気を抜かず取り組んでください。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	日ごろから偏向することなく様々な音楽を聴き感じ考える習慣を身につけ、感じ考えたことを演奏に活かすためにどのような技術を身につけると良いか模索し続けましょう。そのことが音楽への深い理解を養い自分自身の演奏向上に役に立ちます。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MA】奏法研究		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	楽曲を深く理解し高度な演奏に仕上げていく上で必要な方法論を身につけます。 世の中に溢れている様々なスタイルの音楽に対し柔軟に対応していけるように知識や技術を身につけます。 自分の考え方や音楽性をどのように演奏に結びつけるか実際に演奏を通して研究します。						
授業方法	講義、ディスカッション、個人レッスン、グループレッスン、レッスン聴講、など多彩な活動を通して研鑽します						
到達目標	知識・理解	その音楽が要求する内容を楽譜から読み取ることができる。					
	思考・判断・表現	読み取った内容を演奏に活かすことができる。					
	技能	思い通りの演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	演奏を聴いてその内容を深く探求することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		30	20	-	-	50
	レポート提出		-	10	-	-	10
	演奏課題		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	10	10	20
	合 計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	随時プリント配付						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンスおよび前期の復習・総括 [課題（復習）]本時学修内容の復習(1～2h)						
2	音楽の構造（復習）【形式・様式】 [課題（復習）]本時学修内容（楽曲の形式・様式）の復習(1～2h)						
3	グルーピングという考え方【文章の成り立ちとの比較】 [課題（復習）]本時学修内容（演奏解釈法の基本）の復習(1～2h)						
4	フレーズ解釈（1）【フレーズのピーク（重心）】 [課題（復習）]本時学修内容（演奏解釈法の実践）の復習(1～2h)						
5	フレーズ解釈（2）【フレーズ解析の定石（バウンド・加速と減速）】 [課題（復習）]本時学修内容（演奏解釈法の応用）の復習(1～2h)						
6	フレーズ解釈（3）【非和声音（刺繍音・掛留音、倚音、逸音、経過音、先取音、保続音）】 [課題（復習）]本時学修内容（和声解釈からの演奏法応用）の復習(1～2h)						
7	アゴーギグ（1）【正確さと錯覚】 [課題（復習）]本時学修内容（アゴーギグの基礎）の復習(1～2h)						
8	アゴーギグ（2）【揺れる必然】 [課題（復習）]本時学修内容（アゴーギグの応用）の復習(1～2h)						
9	コントラスト【重要な対比】 [課題（復習）]本時学修内容（対比演奏法）の復習(1～2h)						
10	楽譜に書けない指示【作曲家の想い】 [課題（復習）]本時学修内容（全体を通して見えてくる楽曲の解釈）の復習(1～2h)						
11	音楽の多様性（1）【現代におけるスタイルの多様性】 [課題（復習）]本時学修内容（特殊な記譜法・奏法について）の復習(1～2h)						
12	音楽の多様性（2）【正確さと不正確さの狭間】 [課題（復習）]本時学修内容（機械的な正確さと人間的な曖昧さの演奏法）の復習(1～2h)						
13	音楽は流れる【動き続ける音楽】 [課題（復習）]本時学修内容（生き生きと進んでいく音楽の為の演奏法）の復習(1～2h)						
14	良い演奏とは？【何が伝わるのか】 [課題（復習）]本時学修内容（作曲者の意図とそれを具現化する演奏者の意図）の復習(1～2h)						
15	後期まとめ 試験対策 [課題（復習）]本時学修内容（第1回～第14回までのおさらい）の復習確認(1～2h)						
時間外での学修	机上の理論だけでなく実際の楽器演奏も必須ですから授業時間外で楽器の練習や修練が必要です。気を抜かず取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	日ごろから偏向することなく様々な音楽を聴き感じ考える習慣を身につけ、感じ考えたことを演奏に活かすためにどのような技術を身につけると良いか模索し続けましょう。そのことが音楽への深い理解を養い自分自身の演奏向上に役に立ちます。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】楽器奏法		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	佐溝 佳奈						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員							
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用する代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。						
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。					
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。					
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。					
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験		-	-	60	-	60
	各楽器の修得力		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方[準備・課題]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
2	楽器1レッスン1:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法[課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
3	楽器1レッスン2:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
4	楽器1レッスン3:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
5	楽器1レッスン4:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(準備)]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
6	楽器2レッスン1:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法[課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
7	楽器2レッスン2:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
8	楽器2レッスン3:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
9	楽器2レッスン4:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(準備)]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法[課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる[課題(復習)]レッスン楽器の復習(1～2h)						
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間:30時間】						
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MA】楽器奏法		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	佐溝 佳奈						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員							
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。						
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。					
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。					
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、基本奏法の他に簡単な楽曲の演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	楽器の扱い方、初歩の演奏指導ができ、初級者への楽曲の指導ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験	-	-	60	-	60	
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20	
	受講態度	-	-	-	20	20	
	合 計(点)	10	10	60	20	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	楽器レッスン1レッスン1：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等[課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
2	楽器レッスン1レッスン2：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
3	楽器レッスン1レッスン3：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（復習）]課題曲の練習(1～2h)						
4	楽器レッスン1レッスン4：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（準備）]次回レッスン楽器の練習(1～2h)						
5	楽器レッスン2レッスン1：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等[課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
6	楽器レッスン2レッスン2：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
7	楽器レッスン2レッスン3：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（準備、復習）]課題曲の練習(1～2h)						
8	楽器レッスン2レッスン4：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（準備）]次回レッスン楽器の練習(1～2h)						
9	楽器レッスン3レッスン1：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等[課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
10	楽器レッスン3レッスン2：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
11	楽器レッスン3レッスン3：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（準備、復習）]課題曲の練習(1～2h)						
12	楽器レッスン3レッスン4：グループA(Fl) B(Cl) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる[課題（準備）]次回レッスン楽器の練習(1～2h)						
13	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題（準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
14	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題（準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
15	不得意楽器のレッスン3 学期末実技試験対策 [課題（準備）]]レッスン楽器の練習(1～2h)						
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【MS】楽器業界ビジネス		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業内容	楽器業界で即戦力として通用する幅広い知識を修得します。業界の過去から現在を知り将来を展望します。（温故知新）楽器業界の製・配・販（製造業、卸業、小売業）の流通の仕組みを学び、又、業務を遂行する上での必要な関連知識（中古楽器販売、楽譜出版、著作権）について学びます。楽器店に就職すると担当する可能性の高い「学校販売業務（学販）」「店頭販売業務」の実際について学びます。楽器業界人の基本は豊かな感性と人間性及びコミュニケーション能力です。それらを実例から学びます。						
授業方法	講義形式で行います。						
到達目標	知識・理解	楽器業界で即戦力として通用する幅広く豊富な知識を理解できる。楽器業界の流通、関連業務、小売業の業態を知ることが出来、卒業後の就職に生かせる。					
	思考・判断・表現	ブレイグセールスエンジニアとしての優れた感受性と判断力、表現力を持っている。					
	関心・意欲・態度	学校教育や吹奏楽活動の現状に関心を持ち、学校から信頼される人間性豊かな人材を目指す。営業やリペアを実施する際、意欲的にお客様と良好な関係を築くことが出来る。コミュニケーションを築こうとする意欲がある。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		80	7	-	3	90
	レポート		3	4	-	3	10
	合 計(点)		83	11	-	6	100
評価の特記事項							
テキスト	「楽器研究 ・ 」で使用了『管・打楽器価格一覧表』、『楽器別カタログ』を使用します。楽器研究を受講していない学生は購入が必要です。申し出てください。売店での購入になります。『楽器別カタログ』は配布します。						
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業のガイダンス、楽器業界ビジネス講座で学ぶ事」ブレイグ・セールス・エンジニアについての再確認。新しいタイプの業界人とは。[課題(復習)]学修内容を復習し年間の授業の内容と流れを確認する。(2h) 学生ポータルにて実施						
2	管打楽器業界の歴史 日本における管楽器メーカーの歴史的流れ（クラリネット、フルート、金管楽器）[課題（復習）]学修内容を復習。歴史を学ぶ意図・目的を考えること(2h) 学生ポータルにて実施						
3	製造業（1） 楽器の歴史と楽器製造業の歴史。楽器製造業の業態。[課題（復習／予習）]学修内容の復習。管打楽器価格一覧表で国内外のメーカーを確認しておく事。(2h) 学生ポータルにて実施						
4	製造業（2） 楽器メーカーの業務及び楽器製造の方向性。スクールバンドで売られているメーカー。[課題（復習）]学修内容の復習。国内外の売れ筋楽器メーカーの姿を覚えること。(2h)						
5	卸業 卸業の業態 業務内容（6つの機能）日本の主要楽器関連卸商社研究。[課題（復習／作成）]学修内容の復習。日本の主要楽器関連卸商社一覧表を作成する（提出課題）(6h) 提出は本年7月17日（金）						
6	小売業(1) 小売業の業態（楽器小売商としての楽器店の業態）人間中心型小売店とは。[課題（復習）]学修内容の復習。楽器店から楽器業界の第一線としての業務を学ぶ。機会を見つけて楽器店を訪問する事。（必ず客として訪問することを心掛ける）(2h)						
7	小売業（2） 楽器店業務「伸びる楽器専門店とは」店頭（店舗）業務、コンプライアンスについて。[課題（復習）]学修内容の復習。楽器店で活躍する自分の姿をイメージする事。(2h)						
8	中古楽器販売 古物営業法と古物商、中古楽器の査定項目について [課題(復習)]学修内容の復習。中古楽器販売の現状を楽器店、インターネット等で確認する事。(3h)						
9	音楽著作権(1) 音楽著作権とは。音楽著作権法、著作隣接権について。[課題（復習）]学修内容の復習。著作権の本質を考えること。(2h)						
10	音楽著作権（2）二次的著作物、著作権の保護期間、JASRACの業務と、著作権使用許可申請の実際。[課題（復習）]学修内容の復習。音楽著作権は音楽業界で必須の知識である。研究を深めること(2h)						
11	楽譜出版業と楽譜の知識（楽譜出版業の業態）管打楽器関連楽譜の知識、コンサートプログラミング）。[課題（復習／作成）]学修内容の復習。高校吹奏楽定期演奏会のプログラミングをする（3h)						
12	学校販売（1） 学校販売（学販）の業態及びその意義と本質。[課題（復習／予習）]学修内容の復習。小・中・高校での学販担当者の仕事を確認しておく事。(2h)						
13	学校販売(2) 学校及び関連組織。[課題（復習）／予習]学修内容の復習。小・中学校の年間行事、活動について自身の体験をまとめておく事。(2h)						
14	学校販売(3) 学校の年間活動と営業の実際。 教育楽器 [課題（復習）]学修内容の復習。学校の年間活動と学販との関連の理解を深めること。(2h)						
15	学校販売（4）学販営業の実際。 管打楽器 [課題（復習）]学修内容の復習。(2h) 来週、筆記試験を行う。前期学んだことを最終確認しておく事。(10h) 夏期休暇課題提示「中学校の吹奏楽活動の活性化について」10月2日（金）提出。						
時間外での学修	楽器店は楽器業界の第一線として重要です。楽器店以外の店舗からも多くを学べます。管打楽器関連専門誌、楽器関連業界誌、インターネット等で最新情報を学び、自分だけの資料として記録しましょう。”将来に必ず活かされます”【この科目で求める授業外での総学修時間：45時間】						
受講学生へのメッセージ	ブレイグ・セールス・エンジニアに興味を持ってください。この能力は楽器業界で仕事をする上で大きな力になります。オフィスアワー：質問等は授業前後に教室で対応します。						

【MA】楽器業界ビジネス		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	木下 紘治郎					
資格・制限等	Rコース必修					
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年					
授業内容	これまでに学んだ知識を生かす「営業力」を学びます。お客様への提案、説得には営業技術とともに人間としての優秀さ及びコミュニケーション能力が重要です。次の3つの課題から修得します。 1. 営業の基本 2. ロールプレイング 3. グループ学修活動「楽器店における管楽器フェア企画及びプレゼンテーション」をこれまでの授業のまとめとして行います。					
授業方法	講義形式及びグループ学修活動（6～7名のグループ）で行います。					
到達目標	知識・理解	一般的な営業活動の基礎的な知識を修得し、楽器業界を幅広く知り、そこで働く仕事を予測、想像できる。（シュミレーションができる）				
	思考・判断・表現	ブレイングセールスエンジニアとしての臨機応変な思考、判断力、感受性及び表現力を有する。				
	関心・意欲・態度	新情報収集（業界、学校、音楽活動）に敏感である。会社、学校現場から信頼される人間性を身につける努力ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	5	-	5	70
	グループ活動	5	5	-	5	15
	レポート	5	5	-	5	15
合 計(点)	70	15	-	15	100	
評価の特記事項	グループ活動は個々の参画意識が重要です。責任を持って授業に出席してください。					
テキスト	楽器研究 、 で使用した、管打楽器価格一覧表、楽器別カタログを使用します。					
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	営業の基本(1) 会社から信頼される営業担当者について具体的に学び理想的な担当者像を理解する。[課題(復習)]学修内容の復習(2h)					
2	営業の基本(2) 社会人としての基本姿勢 「学生と社会人の違い」「会社組織とは」[課題(復習)]学修内容の復習。社会人となった時に生かせるよう「今の自分を考える」(2h)					
3	営業の基本(3) 基本的営業マナー 小売店等での営業の実際のシュミレーションができる[課題(復習)]学修内容の復習。様々な営業現場で学ぶこと。観察力を高める(4h)					
4	営業の基本(4) 電話対応、名刺交換、メモの重要性 コミュニケーション能力を高める基本を理解する。[課題(復習)]学修内容の復習。今、身に付けなければならない課題として取り組むこと。動作等の練習を行うこと。(2h)					
5	営業の基本(5) 接客の基本 知識と営業活動の実際を知り、実践力の基本としてロールプレイングを行う。併せてこれまで学んだ知識を確認する。[課題(復習/作成)]学修内容の復習。ロープレ課題（管楽器店頭販売のストーリーを作成する）カタログの熟読、楽器準備。発表はグループ分けし役割を決め行う(6h)					
6	営業の基本(6) 接客の基本 ロープレ実習（発表） 知識を実践に生かす基本を学ぶ[課題(復習)] 今後も機会を見つけて学生同士でロープレをすること（2h）					
7	企画(1) 企画とは…販売促進企画 営業効果を上げるための工夫を学ぶ。[課題(復習)]学修内容の確認。様々な業種の興味深いと感じたチラシを収集すること(4h)					
8	企画(2) 販促企画 4つのプロモーションについて。宣材物について…チラシ、POP、DMの研究と催事動員について。[課題(復習)]学修内容の復習。様々な店舗を観察し、学ぶ習慣をつけること(4h)					
9	企画(3) 楽器店における「春の管楽器フェア」について グループで活動する(グループ分けする) 討議内容の提示。[課題(復習/準備)]学修内容の復習。春の管楽器フェアの概要を十分に理解する事。個人企画書作成（5/3Hで考える）（4h）					
10	企画(4) グループ討議（催事概要についての討議(個人企画書をたたき台として考える)）[課題(復習/作成)]学修内容の復習。グループで討議された内容の確認と、次回への取り組み、まとめ。（2h）					
11	企画(5) グループ討議（催事の具体的な内容決定、企画書作成)実施日時、会場、対象、展示規模、会場レイアウト、動員、イベント、宣材物、POP、DMなどの内容決定 [課題(復習/準備)]学修内容の復習。具体的な内容を確認し、メンバー個々の役割分担を明確にする。（2h）					
12	企画(6) グループ討議（企画書提出、資料作成)会場レイアウト、催事会場等、宣材物作成の作業をする。[課題(準備/作成)]授業内では時間が不足する。作業役割を決め時間外でも対応すること。（6h）					
13	企画(7) 最終まとめ(プレゼンテーション準備)「課題(準備)」プレゼン資料、進め方を確認すること。（2h）					
14	企画(8) グループ発表・企画プレゼンテーション（質疑応答と評価）「課題(実習/評価)他グループ発表、自グループ評価を 検証する事。（2h）					
15	普及業務について「夏期課題」中学校における吹奏楽活動を考える」のまとめ}「これまでの授業について」のまとめ ブレイング・セールス・エンジニアとしての能力を確認する。これからの仕事への取り組み及び目標の重要性について [課題(復習)]この科目で学んだことを確認すること。知識を生かせる知恵を身につけること。（4h）					
時間外での学修	POPやチラシの作成は授業内では不十分です。時間外でも積極的に取り組んでください。各方面のチラシを収集し研究しましょう。【この科目で求める授業外での学修時間：48時間】					
受講学生へのメッセージ	業界人としての視点をもって多くの現場を見てください。楽器業界に就職した際のシュミレーションが出来ます。グループ活動では個人の参画意識が重要です。やむを得ない場合を除き、授業は休まないよう個人の責任感を強く意識してください。オフィスアワー：質問等は授業前後に教室で対応します。					

【MS】マーチング指導法		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	日本マーチングバンド協会公認指導員・40年						
授業内容	マーチング指導者としての知識修得や実技演習を通して、幅広い年齢層に対応できるマーチング総合指導者としての基本を学びます。実技と併行してそれぞれの年齢層に合わせた指導法の研究を行います。						
授業方法	実技実習及び講義形式で行います。理解を深めるためDVDを、音楽と動きの調和のためCDを活用します。個人課題及び3～4人のグループ学修活動を行います。						
到達目標	知識・理解	マーチング知識、実技修得のみでなく、幼児、小学生、中学生、高校生を指導する際に必要な教育的意義を理解し、学校教育としてのマーチング活動の指導ができる。					
	思考・判断・表現	優秀な指導者としての在り方を常に思考し、的確な判断力と学習者の興味を引き出し効果的な指導ができる人間性を有する。					
	技能	率先垂範出来る実技を身につけることが出来る。指導に当たって模範を示す技能のみならず、学修者が陥りやすい動作等を的確に示すことができる。					
	関心・意欲・態度	マーチング全般に興味を持ち、意欲的に研究しオールマイティーな指導者として自信を持って指導できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		44	3	-	3	50
	実技検定		2	5	30	3	40
	課題作成		3	4	-	3	10
	合 計(点)		49	12	30	9	100
評価の特記事項	グループ活動は個の存在が重要です。責任感を強く持ち、欠席しないようにしましょう。						
テキスト	『カラーガーズ・マーチングパーカッション基本テクニック』日本マーチングバンド協会（旧日本マーチングバンド指導者協会）(2,200円)						
参考書・教材	自作資料を配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス マーチングバンド経験等確認。授業の進め方。この講座で学ぶことを確認する。[課題(復習)]学修内容の復習。(2h) 学生ポータルにて実施。						
2	日本のマーチング活動について。編成と種類、演奏形態の種類、使用される楽器、マーチング指導者とは、マーチングバンドの教育的意義。[課題(復習)]学修内容の復習(2h)。 学生ポータルにて実施。						
3	マーチングの基本動作 (1) 停止間の動作(2) 行進間の動作(動きの補足資料送付) [課題(復習)]学修内容の復習。反復練習する事(1h) 学生ポータルにて実施。						
4	停止間、動作間の動き実習(実技による動きの確認)。L字課題(1) 個人動作を総合的に実施する課題。[課題(復習)]学修内容の復習。反復練習する事。(2h)						
5	L字課題(2) CDを使用し「音楽と動きの調和」の基本を習得する。L字課題を発展させたT字課題。L字、T字とも個人の動きの完成度を高める意識を高くする。[課題(復習)]学修内容の復習。個人の動きの完成が基本。時間を見つけ反復練習する事。(2h)						
6	実技 ドリルパターン実習、図表の書き方(グループでパターンを動き、それぞれの動きを図表化する) [課題(復習)]学修内容の復習。ドリルパターンを繰り返し書くことで、より確実になる。(2h)						
7	コンビネーション(1) 3～4人一組のグループ(スコード)の動き「デイリートレーニング」[課題(復習)]学修内容の復習。略号で示される動きを想像できるようにする事(1h)						
8	コンビネーション(2) デイリートレーニング、コンビネーション・パターン [課題(復習)]学修内容の復習。自分のデイリートレーニングを作成する事(3h)						
9	コンビネーション(3)パターン、パターン、個人作成課題提示(128拍)提出課題。実技試験課題提示(L字、コンビネーション課題) [課題(復習/作成)]学修内容の復習。個人作成課題を作成する事。(3h)						
10	コンビネーション(4) パターン。個人作成課題をグループで動く(作成者が指導する。(伝達力、指導力を身につける) [課題(復習)]学修内容の復習。発表作品の全ポジションを動けるようにする。(1h)						
11	コンビネーション(5) グループ練習。グループ発表及び評価。L字、T字、コンビネーションのまとめ [課題(復習/予習)]学修内容の復習。次週実技テストを行います。完成度を高めてください(4h)						
12	実技テスト L字課題(個人の評価)、コンビネーション(グループ内での個人の評価) テスト実施前に練習時間を設ける。[課題(復習)]テスト結果を検証し課題を見つける。スネアドラム・スティック、練習台又はそれに代わる物を用意する事(1h)						
13	実技 マーチングパーカッションの基本(1) 楽器の種類とチューニング及び奏法(スネアドラム、マルチタム、バスドラム) [課題(復習)]学修内容の復習。(1h)						
14	マーチングパーカッションの基本(2) スネアドラムの基本奏法 [課題(復習)]学修内容の復習。スネアドラム奏法はマーチングバンド指導者必須の技術です。反復練習しましょう(2h)						
15	マーチングパーカッションの基本(3) ドラムマーチの演奏(SD,QD,BDのアンサンブル) 夏期休暇課題提示「ドラムマーチの作曲又は編曲」1作品作成。[課題(復習)]学修内容の復習。書法を確認してください。(3h)						
時間外での学修	実技の修得は授業中だけでなく時間外でも個人練習、グループでの練習を行ってください。マーチングのコンクール、コンテストに関する多くのDVD,CDが販売されています。そこから多くの実践例を学んでください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：29時間】						
受講学生へのメッセージ	マーチングに興味を持ってください。個人のレベルアップとともにグループでの活動が重要です。グループの中の個人を強く意識して責任をもって授業に参加してください。オフィスアワー：授業時間の前後に体育館、教室で質問、指導、グループ指導に対応します。						

【MA】マーチング指導法		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	日本マーチングバンド協会公認指導員40年						
授業内容	マーチング総合指導者として必要なドラムメジャー、カラーガードの実技及び指導法、バンド全体指導としてディリットレーニング、パレーディング（全日本吹連パレードコンテスト対応）の実技及び指導法を学びます。これから普及すると思われるステージドリルの研究を行います。コンテ作成の基本、舞台関連知識やステージドリルのコンテ作成及び構成・演出の基本を学びます。						
授業方法	実技実習及び講義形式で行います。より理解を深めるためDVD，CDを活用します。						
到達目標	知識・理解	幅広い年齢層に対応できるマーチング総合指導者としての知識を持っている。ドリルフォーメーションの演出・構成、作成ができる。					
	思考・判断・表現	指導対象となる幅広い年齢層に相応しい指導法を常に思考し、適切に判断し指導ができる。誠実で好感を持たれる指導者である。					
	技能	率先垂範できる技能を持っている。マーチングパーカッション、ドラムメジャー、カラーガードの基本技能を身につける。					
	関心・意欲・態度	幅広い能力を身につける強い意志を持ち、現状に対応でき、新情報に敏感でありマーチング指導者としてのスキルを高める。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		45	3	-	2	50
	実技試験		2	2	34	2	40
	提出課題		3	3	-	4	10
	合 計(点)		50	8	34	8	100
評価の特記事項							
テキスト	前期の『カラーガーズ・マーチングパーカッション基本テクニック』を使用します。						
参考書・教材	自作資料等を配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	実技 ドラムメジャー(1) 役割及び指揮杖について。停止間の動作と操法 [課題(復習)]学修内容の復習。DVD等でドラムメジャーの演技，指揮を確認してください。（1h）						
2	ドラムメジャー(2) 行進間の動作と操法 [課題（復習）]学修内容の復習。指揮杖がない時は代用品を工夫しましょう。学校備品があります。学内で使用してください。（1h）						
3	ドラムメジャー(3) パレーディング操法(実技試験課題提示) [課題（復習）]学修内容の復習。姿勢、タイミング等に留意して正確なサインが出せる様にしましょう。（2h）						
4	実技 カラーガード(1) 特性、名称、4つのコントロール、基本奏法(オーダーアーム、ライトショルダーアーム、ランス、プレゼントアーム)[課題（復習）]学修内容の復習。用具がない時は代用品を工夫しましょう。学校備品があります。学内で使用してください(2h)						
5	カラーガード(2) ランスとプレゼントアーム、ドロップ、セカンドテクニック スピン [課題（復習）]学修内容の復習。機会を見つけ練習しましょう。正確なリズム感が重要です。（2h）						
6	カラーガード(3) セカンドテクニック 及び スイープ。個人作成課題提示(128拍の振り付け) 実技試験課題提示。（ドラムメジャー及びカラーガード）[課題（復習／作成）]学修内容の復習。振付課題の作成と実技試験内容の確認をしましょう(4h)						
7	カラーガード(4) セカンドテクニック、個人作成課題を練習(作成者が指導、グループ1作品選ぶ)[課題（復習）]学修内容の復習。グループ作品を確認し個人練習しましょう(1h)						
8	カラーガード(5) グループ練習と発表。カラーガード実技のまとめ。[課題（復習）]学修内容の復習。引き続き色々な様式の音楽を選び振付を作成しましょう(2h)						
9	実技 パレーディング(全日本吹奏楽連盟パレードコンテスト課題)指揮杖、カラーガード活用[課題（復習）]学修内容の復習。各コーナーの90度方向転換に注目し、方法を考えてください。DVDが参考になります。（2h）						
10	実技試験(ドラムメジャー、カラーガード)練習後実施 [課題（復習）]学修内容の復習。個人評価を必ず行ってください(1h)						
11	マーチングの種類、編成及び演奏・演技形態（DVD鑑賞）、ドリルコンテ作成(書法の研究)[課題（復習／作成）]学修内容の復習。書法の確認をし、書けるようにしましょう(2h)						
12	ステージドリル作成(1) （舞台関連知識…舞台、幕、照明、スタッフの仕事)使用曲についての解説（スコア） オープニングの動きと演出。"音楽と動きの調和"。演出プラン、ストーリーボード、コンテ作成。[課題（復習／作成）]学修内容の復習。使用曲をアナリーゼし、オープニングコンテを作成しましょう(4h)						
13	ステージドリル作成(2) オープニングコンテ作成及び中間部のコンテ作成：カラーガード、マーチングパーカッションの活用。[課題（復習／作成）]学修内容の復習。中間部のコンテ作成をしましょう(3h)						
14	ステージドリル作成(3) 中間部及びエンディングの動きと演出。コンテ作成。[課題（復習／作成）]学修内容の復習。コンテ作成をしましょう(3h)						
15	ステージドリル作成(4) コンテ作成のまとめ。全曲のコンテを作成。作成コンテを提出。[課題（復習／作成）]学修内容の復習。引き続き時間を見つけてコンテを作成しましょう。後期授業内容の確認をしましょう。（4h）						
時間外での学修	マーチングの上位大会（各支部大会及び全国大会を可能な限り視察、鑑賞しましょう。学校備品の手具を使用し、復習しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：34時間】						
受講学生へのメッセージ	園や学校を訪問します。教育の一環として活動していることを念頭におき、信頼される指導が出来るよう学んでください。マーチング指導者は清潔な身だしなみ、言動の正しさ、誠実さが求められます。疑問はその場で解決しましょう。オフィスアワー：質問は体育館、教室で授業前後に対応します。						

【MS】楽器店実習		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	服部 篤典・渡辺 博夫・松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	服部：オーケストラ・25年、渡辺：メーカー修理職・34年、松永：楽器店修理販売業・19年						
授業内容	主に愛知県、岐阜県内の楽器店（管楽器専門店、総合楽器店）にインターン実習で出向き、店頭での楽器等販売や、日頃の楽器店業務を理解する。事前に、実習での心構え等を学修したのち実習へ向かいます。実際の楽器店業務全般に携わることで、楽器店従業員、リペア技術者としての基礎を学び、就職した際、スムーズに業務への対応が出来るようになる。						
授業方法	講義においては、心構えr等を学修したあと、各楽器店へ出向き、実際の楽器店全般業務を行います。実習後は、実習内容や反省点についてレポート提出します。						
到達目標	知識・理解	各楽器店担当者のアドバイスを理解し、的確に業務遂行が出来る。					
	思考・判断・表現	楽器店の業務内容について十分理解をすることによって、楽器店就職意識をより明確にする。					
	技能	各楽器の構造や演奏技術に関する知識を持ってお客様と接することができる。また、楽器店担当者からの依頼業務について、自身で考え解決ができる。					
	関心・意欲・態度	楽器店担当者、マネージャー及びお客様とのコミュニケーション作りが円滑にできる。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	言語挨拶・整頓美化		20	-	-	-	20
	迅速化		-	20	-	-	20
	接客態度		-	-	20	-	20
	総合所見		-	-	-	40	40
	合 計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	実習評価用紙に基づいて算出しますが、総合所見コメントについても加味します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽器店担当者から必要資料の配付はあります。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、専門店や総合楽器店の形態について調べる。受け入れ可能について各楽器店へ打診、人数、日程調整他本人の意向についても確認する。【準備（課題）】楽器店実習の意味合いについても理解する。（1h）						
2	楽器店業務について（店頭販売、リペア、音楽教室等）実施内容を楽器店オーナー、マネージャー経由でご担当者に説明し了解を得る。【課題（復習）】楽器店のスタイルはそれぞれ異なった職種で成り立っていることを理解する。（2h）						
3	楽器店業務について（店頭販売、リペア、音楽教室等）将来の就職先と言う意味合いも検討し、愛知、岐阜県内楽器店への人選を行う。【課題（復習・他）】学んだ内容を復習し、楽器店業務についてまとめる。（2h）						
4	実習スケジュール確認 それぞれの学生に対して日程調整を行う。【課題（復習・他）】訪問先の楽器事情を理解する。（2h）						
5	楽器店実習に臨む心構え等説明 楽器店オーナー宛に決定学生名等ご連絡【課題（復習）】服装や言葉使い等注意する事を理解する。前日までに代表者が、電話を入れ確認すること。（1.5h）						
6	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
7	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
8	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
9	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
10	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施 【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
11	実習を終えてヒアリング実施 評価用紙を絡め、個々の学生と面談実施【課題（復習・他）】実際に働いてみて、楽器店をどう思ったか考える。（2h）						
12	実習を終えてヒアリング実施 評価用紙を絡め、個々の学生と面談実施【課題（復習・他）】実際に働いてみて、楽器店をどう思ったか考える。（2h）						
13	お礼状の書き方や、就職に対して意欲の確認 【課題（復習・他）】社会人マナーでの令状投函の重要性等をよく理解する。（1h）						
14	お礼状の書き方や、就職に対して意欲の確認 【課題（復習・他）】社会人マナーでの令状投函の重要性等をよく理解する。（1h）						
15	まとめ 楽器店希望だけではなく、社会人として必要なものを十分に理解し、卒後の進路を考える。 【課題（復習・他）】実習で学んだ全体的内容を振り返り、総合的にまとめを行う。（5h）						

時間外での学修	各楽器店のHPを見ることで、店舗の独自性や主力商品等を理解して、単なる実習経験ではなく、楽器店の様々な業務内容を理解してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	初めて会う楽器店スタッフの方々や、環境の違いなどで緊張の連続になるかも知れませんが、いろんな事を吸収して下さい。挨拶は、元気にはっきりと。第一印象が決まってしまう。オフィスアワーは、F101で毎週木曜日授業終了後に行います。

【MS】楽器講師資格対策		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）・31年						
授業内容	楽器店、楽器メーカーが展開する音楽教室の講師資格取得のための講座です。 ここでは管楽器の講師を目指す学生に対して講師試験の対策や、実際のレッスンで生徒から何を求められ何を指導していくかを学びます。卒業後講師としての的確な指導ができ、生徒から信頼される講師を目指します。						
授業方法	ポピュラー音楽史、ポピュラー音楽理論などの講義と並行し、ポピュラーミュージックに必要な実技、またクラシック課題のレッスンをを行います。						
到達目標	知識・理解	基本的なコードが理解でき簡単なアドリブ演奏ができる。					
	思考・判断・表現	ジャズ、ポピュラーでのリズム、アーティキュレーションが演奏できる。					
	関心・意欲・態度	楽器の扱い方、初歩の演奏指導ができ、中級者への楽曲の指導ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		50	-	-	-	50
	課題		20	10	-	-	30
	受講態度		-	10	-	10	20
	合 計(点)		70	20	-	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配付						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容等 [課題（予習）]音楽基礎知識の予習(1～2h)						
2	筆記試験対策 1 楽典一般：音程、音階ほか [課題（予習）]音楽基礎知識（楽典一般）の予習(1～2h)						
3	ポピュラー奏法対策 1 ポピュラーミュージックの基本的な奏法 1 [課題（復習）]本時学修内容（基本的なポップス奏法：ロックポップス系）の復習・練習(1～2h)						
4	筆記試験対策 2 楽典一般：音階、コードネームほか、小テスト [課題（復習）]本時学修内容（音階・コードネームの基本）の復習(1～2h)						
5	ポピュラー奏法対策 2 ポピュラーミュージックの基本的な奏法 2 [課題（復習）]本時学修内容（基本的なポップス奏法：ジャズスウィング形）の復習・練習(1～2h)						
6	筆記試験対策 3 コードネームに関する知識 1 [課題（復習）]本時学修内容（コードネーム）の復習(1～2h)						
7	ポピュラー奏法対策 3 簡単なアドリブ 1 [課題（復習）]課題曲テーマ部分およびアドリブ部分の練習(1～2h)						
8	筆記試験対策 4 コードネームに関する知識 2、小テスト [課題（復習）]本時学修内容（コードワーク）の復習(1～2h)						
9	ポピュラー奏法対策 4 簡単なアドリブ 2：アドリブフレーズ課題提出 [課題（復習）]PMS課題曲の練習(1～2h)						
10	各個人レッスン 1 課題曲のレッスン：クラシック課題 1 [課題（復習）]PMSクラシック課題 1 の練習(1～2h)						
11	各個人レッスン 2 課題曲のレッスン：クラシック課題 2 [課題（復習）]PMSクラシック課題 2 の練習(1～2h)						
12	各個人レッスン 3 課題曲のレッスン：ポピュラー課題 1 [課題（復習）]PMSポピュラー課題曲 1 の練習(1～2h)						
13	各個人レッスン 4 課題曲のレッスン：ポピュラー課題 2 [課題（復習）]PMSポピュラー課題曲 2 の練習(1～2h)						
14	試験対策 1 実技 [課題（復習）]試験曲（オーディション課題曲）の練習(1～2h)						
15	試験対策 2 理論編 [課題（復習）]本時学修内容（オーディション理論筆記試験対策）の復習(1～2h)						
時間外での学修	音楽理論の理解と、楽器技術の向上が共に求められるので、授業以外での学修、修練が必要となります。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	基本的な音楽理論を理解した上で受講してください。一般的にポピュラーな楽器（具体的にはフルート、サクソフ、クラリネット、トランペット等）を専攻する学生を対象としています。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。						

【MS】卒業演奏（ピアノ）		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	各々の希望する楽曲を1～2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を十分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	作品に対するイメージや考えのもと、演奏表現をすることができる。					
	技能	卒業演奏にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	40	-	80
	レポート		10	-	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合 計(点)		10	40	40	10	100	
評価の特記事項	受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方（グループLINEビデオ通話使用） レッスン（1）選曲した曲のレッスン（ICTを活用した双方型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導） [課題(準備)] レッスンができるように準備しておく（2～3h）						
2	レッスン（2）課題の確認、譜読みの確認（ICTを活用した双方型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導） [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、譜読みが正確か確認をする（2～3h）						
3	レッスン（3）課題の確認、テクニック練習（ICTを活用した双方型授業：授業前日までに演奏動画をLINEにて提出、担当教員がチェックし授業時にFaceTime・LINEビデオ通話等にて指導） [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、スムーズに弾けるようにする（2～3h）						
4	レッスン（4）課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、反復練習をしてテクニックを向上する（2～3h）						
5	レッスン（5）課題の確認、強弱・曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、強弱、音楽用語などを理解して弾く（2～3h）						
6	レッスン（6）課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする（2～3h）						
7	レッスン（7）課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、響きのバランスを考える（2～3h）						
8	レッスン（8）課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する（2～3h）						
9	レッスン（9）課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする（2～3h）						
10	レッスン（10）課題の確認、部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏力を向上する（2～3h）						
11	レッスン（11）課題の確認、表現力 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるようにする（2～3h）						
12	レッスン（12）課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む（2～3h）						
13	レッスン（13）学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2～3h）						
14	レッスン（14）課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h）						
15	レッスン（15）課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる（2～3h）						
時間外での学修	授業外での毎日の練習はもちろん、演奏会等に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を十分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：38時間】						
受講学生へのメッセージ	心と頭と身体を使い、一音一音に気持ちを込めた演奏を心掛けましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【MA】卒業演奏（ピアノ）		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業内容	各々の希望する楽曲を1～2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を十分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	作品に対するイメージや考えのもと、演奏表現をすることができる。					
	技能	卒業演奏にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	40	40	-	80
	レポート		10	-	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		10	40	40	10	100
評価の特記事項	実技試験は卒業演奏会（大垣市サイトピアセンター音楽堂）として行います。受講態度は課題等の学修への取組状況で評価します。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	レッスン（1）選曲した曲のレッスン [課題(準備)] レッスンができるように準備しておく（2～3h）						
2	レッスン（2）課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、譜読みが正確か確認をする（2～3h）						
3	レッスン（3）課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、スムーズに弾けるようにする（2～3h）						
4	レッスン（4）課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、反復練習をしてテクニックを向上する（2～3h）						
5	レッスン（5）課題の確認、強弱・曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、強弱、音楽用語などを理解して弾く（2～3h）						
6	レッスン（6）課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする（2～3h）						
7	レッスン（7）課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、響きのバランスを考える（2～3h）						
8	レッスン（8）課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する（2～3h）						
9	レッスン（9）課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする（2～3h）						
10	レッスン（10）課題の確認、部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏力を向上する（2～3h）						
11	レッスン（11）課題の確認、表現力 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるようにする（2～3h）						
12	レッスン（12）課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む（2～3h）						
13	レッスン（13）学習成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2～3h）						
14	レッスン（14）課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h）						
15	レッスン（15）課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる（2～3h）						
時間外での学修	授業外での毎日の練習はもちろん、演奏会等に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を十分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：38時間】						
受講学生へのメッセージ	2年間の集大成となります。自分の学んだものが存分に発揮できるよう取り組みましょう。オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【MS】卒業演奏（電子オルガン）		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年 上園： 音楽講師・31年						
授業内容	卒業演奏に向けた、自編曲の制作と演奏に取り組みます。制作面を中心に進めながら、それに伴う演奏にも取り組みます。制作・演奏ともに、卒業に向けた高いクオリティを追求していきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に編曲・演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って編曲・演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を編曲・演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、本授業で取り組んだ曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	授業開始後、必要に応じて案内します。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1（上園）	選曲 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定（LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業） [課題(準備)] 曲の前期に取り組む範囲の冒頭1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習してくる。（2～3h）						
2（上園）	編曲と制作(1) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の1/5程度まで（LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業） [課題(復習)] 1/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
3（上園）	編曲と制作(2) 前回と同範囲（LINE・FaceTime・Google DuoによるICT双方向型授業） [課題(準備)] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
4（松井）	編曲と制作(3) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の2/5程度まで [課題(復習)] 2/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
5（松井）	編曲と制作(4) 前回と同範囲 [課題(準備)] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
6（松井）	編曲と制作(5) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の3/5程度まで [課題(復習)] 3/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
7（上園）	編曲と制作(6) 前回と同範囲 [課題(準備)] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
8（上園）	編曲と制作(7) 曲の冒頭から、前期に取り組む範囲の4/5程度まで [課題(復習)] 4/5程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
9（上園）	編曲と制作(8) 前回と同範囲 [課題(準備)] 曲のつづき～次の1/5程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
10（松井）	編曲と制作(9) 前期に取り組む範囲全体 [課題(復習)] 前期に取り組む範囲全体のアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。（2～3h）						
11（松井）	編曲と制作(10) 前回と同範囲 [課題(復習)] 前期の範囲全体を通した演奏を練習。（2～3h）						
12（松井）	演奏追究(1) 例、細部に特化したレッスン [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例、細部）を練習し、演奏に反映する。（2～3h）						
13（上園）	演奏追究(2) 例、構成の軸となる箇所に特化したレッスン [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例、構成の軸）を練習し、演奏に反映する。（2～3h）						
14（松井）	演奏追究(3) 例、演奏に伴う体全体の動きを意識したレッスン [課題(復習)] アドバイスされた箇所（例、体全体の動き）を練習し、演奏に反映する。（2～3h）						
15（上園）	前期の範囲の仕上げ～最終確認 [課題(他)] 試験に向けた演奏仕上げをする。（2～3h）						
時間外での学修	・選曲に時間を要する場合があります。休暇中に予め、広い範囲から複数の曲をピックアップしておいてください。 ・演奏面のレッスンは主に第12週以降で取り組みますが、それ以前の編曲過程でもある程度の演奏ができる必要があります。第11週以前の準備・課題においても、演奏の練習を進めるようにしましょう。 * [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()内の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：40時間】						
受講学生へのメッセージ	いよいよ卒業演奏への着手です。これまで学んだことをたくさん活かして、また新たに学ぶことも加えて、自分ならではの編曲に精一杯取り組みましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MA】卒業演奏（電子オルガン）		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	松井 宏行・上園 弥生						
資格・制限等	Orコース必修						
実務家教員	松井： 楽器メーカー専属インストラクター・15年 / 楽器店 音楽講師・11年 上園： 音楽講師・31年						
授業内容	前期の同授業に引き続き、自編曲の制作と演奏に取り組みます。 前半では制作面の仕上げを行い、後半では演奏面により深く取り組みます。 制作・演奏ともに、卒業に向けた高いクオリティを追求していきます。						
授業方法	個人レッスン						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に編曲・演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って編曲・演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を編曲・演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、本授業で取り組んだ曲の演奏発表、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。						
テキスト	前期で使用了ものがある場合は、それを持参すること。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1（松井）	前期終了後からの制作進捗状況の確認 今後のレッスン内容の方向性を検討～決定 [課題(準備)] 前期の制作のつづきから、残りの1/3程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習してくる。(2～3h)						
2（松井）	編曲と制作(1) 前期のつづき～残りの1/3程度まで [課題(復習)] 残り1/3程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
3（松井）	編曲と制作(2) 前回と同範囲 [課題(準備)] 曲のつづき～次の1/3程度まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
4（上園）	編曲と制作(3) 前期のつづき～残りの2/3程度まで [課題(復習)] 残りの2/3程度までアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
5（上園）	編曲と制作(4) 前回と同範囲 [課題(準備)] 曲のつづき～最後まで制作を進めてくる。また、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
6（上園）	編曲と制作(5) 前期のつづき～最後まで [課題(復習)] 曲全体のアドバイスされた箇所を制作に反映し、その箇所の演奏を練習。(2～3h)						
7（松井）	演奏追究(1) 細部に特化したレッスン [課題(復習)] ここまで一通り編曲を終えた楽曲の冒頭1/3程度まで、演奏を練習してくる。(2～3h)						
8（松井）	演奏追究(2) 前回からのクオリティーアップ [課題(復習)] 楽曲の冒頭1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
9（上園）	演奏追究(3) 構成の軸となる箇所に特化したレッスン [課題(準備)] 曲のつづき～2/3程度まで、演奏を練習してくる。(2～3h)						
10（上園）	演奏追究(4) 前回からのクオリティーアップ [課題(復習)] 楽曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
11（松井）	演奏追究(5) 全体の流れを意識したレッスン [課題(準備)] 曲のつづき～最後まで、演奏を練習してくる。(2～3h)						
12（松井）	演奏追究(6) 前回からのクオリティーアップ [課題(復習)] 楽曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する。(2～3h)						
13（上園）	編曲と制作(6) 編曲の総合的な確認 [課題(他)] 卒業演奏に向けて、最終的な制作面の調整をする。(2～3h)						
14（上園）	演奏追究(7) 演奏の総合的な確認 [課題(他)] 卒業演奏に向けて、最終的な演奏仕上げをする。(2～3h)						
15（上園）	リハーサルと最終確認 [課題(他)] 卒業演奏本番を意識した演奏準備をする。(2～3h)						
時間外での学修	・後期授業第1週の時点で、前期の最終授業よりも編曲制作の進捗状況が進んでいることを期待します。また、演奏面でも前期以上のクオリティに達していることを前提としますので、休暇中も前期の内容を維持～向上できるように積極的に練習に取り組みましょう。・演奏面のレッスンは主に後半（第7週以降）で取り組みますが、それ以前の編曲過程でもある程度の演奏ができる必要があります。前半の準備・課題においても、演奏の練習を進めるようにしましょう。＊[課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、()内の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：40時間】						
受講学生へのメッセージ	いよいよ卒業演奏に向けた仕上げの授業です。自分ならではの編曲に、自分ならではの演奏を重ね、最高の演奏が披露できることと思います。これまで学んだことをたくさん活かして、精一杯取り組みましょう。[オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度						

【MS】卒業演奏（ウインドアンサンブル）		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	服部 篤典・鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	卒業演奏に向け基礎応用力、演奏技術、表現力の向上を図るためのレッスンを行います。各々のレベルに合わせた希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解して演奏に臨みます。						
授業方法	演奏曲目の個人レッスンを各々のレベル進捗状況に応じて行います。ピアノ伴奏の入るものに関しては後半ピアノ伴奏付実技試験は、多目的ホールにて個人発表で行います。前期後半に各自発表を行い、気づいた点等を指摘し合い、最終週に演奏会形式の発表を行います。						
到達目標	知識・理解	楽曲の背景にあるものについて理解している。					
	思考・判断・表現	楽譜を深く理解し音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。					
	技能	確実な音程とアーティキュレーションで、楽曲に合った演奏表現ができ、ピアノリストとの意思伝達ができ安定したアンサンブルの演奏ができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な演奏技術の向上と質の高い演奏を目指す努力ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		実技試験	-	20	40	-	60
		受講態度	-	-	-	20	20
		成長度	10	-	10	-	20
		合 計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項	実技試験を中心として、演奏曲目や作曲家についての理解、受講態度、成長度を総合的に評価します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	取り組む楽曲は各自で購入。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の進め方／楽曲選曲をポータル(お知らせ)で配信し、質問等は担当教員とメールにて実施。 [課題（準備・予習）]楽曲選択のための研究（2h～3h）						
2	楽曲選曲進捗状況により個別に連絡を取り(メール、LINE等)各々アドバイスをする。 楽曲の決まった学生は練習方法などの留意点を指導。 [課題（準備・予習）]楽曲選択のための研究、楽曲の譜読み（2h～3h）						
3	前期選択楽曲のレッスン(LINEビデオ通話など) 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔正確な譜読みをする〕（2h～3h）						
4	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔正確な譜読みをする〕（2h～3h）						
5	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔アーティキュレーションに留意する〕（2h～3h）						
6	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔ダイナミクスの変化に留意する〕（2h～3h）						
7	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔ダイナミクスの変化に留意する〕（2h～3h）						
8	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔指定のテンポで演奏できるようにする〕（2h～3h）						
9	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔指定のテンポで演奏できるようにする〕（2h～3h）						
10	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔フレーズの歌い方を研究する〕（2h～3h）						
11	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔フレーズの歌い方を研究する〕（2h～3h）						
12	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔伴奏と合わせる〕（2h～3h）						
13	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔伴奏と合わせる〕（2h～3h）						
14	前期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。 ・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（予習・復習）]選択曲の研究及び練習〔仕上げ〕（2h～3h）						
15	最終確認 試験会場でのリハーサル（各自発表）気づいた点等を指摘し合う。 [課題（復習・準備）]リハーサルの復習と確認（2h～3h）						
時間外での学修	日ごろから練習時間を確保し計画的に練習を進めてください。より高いレベルの演奏ができるように努力しましょう。「この科目が求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間」						

受講学生への メッセージ	2年間の成果を発表する卒業演奏の場です。自分の力が最大限に発揮できるように頑張りましょう。 オフィスアワーはB104にて水曜日16:40～。
-----------------	---

【MA】卒業演奏（ウインドアンサンブル）		音楽総合学科		2年後期		
		2単位	必修	演習	30時間	
教員	服部 篤典・鈴木 孝育					
資格・制限等	Wコース必修					
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」					
授業内容	卒業演奏に向け基礎応用力、演奏技術、表現力の向上を図るためのレッスンを行います。各々のレベルに合わせた希望する楽曲を選択し、楽曲を深く理解して演奏に臨みます。					
授業方法	演奏曲目の個人レッスンを各々のレベル進捗状況に応じて行います。ピアノ伴奏の入るものに関しては後半ピアノ伴奏付きのレッスンとなります。卒業演奏会は、集大成として音楽ホールで行います。（卒業試験を兼ねる）					
到達目標	知識・理解	楽曲の背景にあるものについて理解している。				
	思考・判断・表現	楽譜を深く理解し音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。				
	技能	確実な音程とアーティキュレーションで、楽曲に合った演奏表現ができ、ピアニストとの意思伝達ができ安定したアンサンブルの演奏ができる。				
	関心・意欲・態度	積極的な演奏技術の向上と質の高い演奏を目指す努力ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	20	40	-	60
	受講態度	-	-	-	20	20
	成長度	10	-	10	-	20
	合 計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項	実技試験は卒業演奏会として、サイトピアセンター音楽堂にて行います。					
テキスト	ありません					
参考書・教材	取り組む楽曲は各自で購入。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 授業の進め方／楽曲選曲 各々のレベルに合わせた楽曲を担当教員と相談の上選曲します。[課題（準備）]楽曲選択のための研究（2h～3h）					
2	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔正確な譜読みをする〕（2h～3h）					
3	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔正確な譜読みをする〕（2h～3h）					
4	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔アーティキュレーションに留意する〕（2h～3h）					
5	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔アーティキュレーションに留意する〕（2h～3h）					
6	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔ダイナミクスの変化に留意する〕（2h～3h）					
7	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔ダイナミクスの変化に留意する〕（2h～3h）					
8	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔指定のテンポで演奏できるようにする〕（2h～3h）					
9	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔指定のテンポで演奏できるようにする〕2h～3h）					
10	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔フレーズの歌い方を研究する〕（2h～3h）					
11	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔フレーズの歌い方を研究する〕（2h～3h）					
12	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔伴奏と合わせる〕（2h～3h）					
13	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔伴奏と合わせる〕（2h～3h）					
14	後期選択楽曲のレッスン 各々のレベル、進捗状況に合わせてレッスンを進めていきます。・演奏技術の向上 ・楽曲研究 ・音色、バランス、ハーモニーの研究 ・表現力の追求 [課題（復習・予習）]選択曲の研究及び練習〔仕上げ〕（2h～3h）					
15	最終確認・試験会場を想定しての発表 [課題（復習・準備）]リハーサルの復習と確認（2h～3h）					
時間外での学修	日ごろから練習時間を確保し計画的に練習を進めてください。より高いレベルの演奏ができるように努力しましょう。〔この科目で求める望ましい授業外での総学修時間；38時間〕					
受講学生へのメッセージ	2年間の成果を発表する卒業演奏の場です。自分の力が最大限に発揮できるように頑張りましょう。オフィスアワーはB104にて水曜日16:40～。					

【MS】卒業研究		音楽総合学科		2年前期	
		2単位	必修	演習	30時間
教員	渡辺 博夫・松永 幸宏				
資格・制限等	Rコース必修				
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 松永：楽器店修理販売職・19年				

授業内容	1年次に学修した、基礎技術から応用的な高度なリペア技能を身につけるとともに、技術力だけではなく、管楽器類のハード、ソフト両面の幅広い知識をさらに深める。これから、卒業研究発表のテーマを決めていって下さい。
------	--

授業方法	前期の授業については、基礎力から応用力を身につける事をまず行います。 リペア技能についても、一つの手法だけではなく、多くのプロセスがあることを理解し、自分にとってやり易い、また、完成度が高い手法を早くに確立することが重要です。管楽器文献、ネット検索、各社カタログ等での情報収集など、幅広い分野から取り入れて知識向上を図る。
------	--

到達目標	知識・理解	仕組み、構造の理解を基本とし、今日に至るまでの管楽器の変遷等について理解する。	
	思考・判断・表現	管楽器の構造等を理解し、自身の考えるテーマに沿った考え方や表現ができる。	
	技能	プレゼンテーションを十分に理解し、伝達方法や資料の纏め方がしっかりできる。	
	関心・意欲・態度	楽器全般に関する関心や興味を、日頃から持ち、自らが率先してリペア技術、知識の向上ができる。	
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。	

観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	20	50	-	70
	受講態度	-	-	-	20	20
	合 計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	
---------	--

テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ 1年次に購入したものを使用します
------	--

参考書・教材	各社カタログ、管楽器文献等
--------	---------------

内容	
実施回	授業内容・目標
1	遠隔授業 ポータルサイトを活用し発表テーマの決定 情報収集、準備物用意 【課題（復習・他）】課題提出 発表テーマ（2～3h）
2	遠隔授業 ポータルサイトを活用し発表テーマに基づいて情報収集、準備物用意 【課題（復習・他）】課題提出 テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）
3	遠隔授業 ポータルサイトを活用し発表テーマに基づいた進捗状況 【課題（復習・他）】課題提出 進捗状況及び発表構成報告（2～3h）
4	木管楽器・金管楽器の応用実習 授業の目標や学ぶ内容を理解し、自身の持っている技術のスキルアップを目指す。 また、疑問点を抽出させ、解決法を見出させる。【課題（復習・他）】解決法を見出すにはどうしたら良いか等、しっかり考える。（2～3h）
5	木管楽器・金管楽器の応用実習 授業の目標や学ぶ内容を理解し、自身の持っている技術のスキルアップを目指す。 また、疑問点を抽出させ、解決法を見出させる。【課題（復習・他）】解決法を見出すにはどうしたら良いか等、しっかり考える。（2～3h）
6	木管楽器・金管楽器の応用実習 授業の目標や学ぶ内容を理解し、自身の持っている技術のスキルアップを目指す。 また、疑問点を抽出させ、解決法を見出させる。全員に説明が必要と感じた場合、個々の作業を止め討議の場とする。【課題（復習・他）】解決法を見出すにはどうしたら良いか等、しっかり考える。（2～3h）
7	木管楽器・金管楽器の応用実習 授業の目標や学ぶ内容を理解し、自身の持っている技術のスキルアップを目指す。 また、疑問点を抽出させ、解決法を見出させる。全員に説明が必要と感じた場合、個々の作業を止め討議の場とする。【課題（復習・他）】解決法を見出すにはどうしたら良いか等、しっかり考える。（2～3h）
8	木管楽器・金管楽器の応用実習 授業の目標や学ぶ内容を理解し、自身の持っている技術のスキルアップを目指す。 また、疑問点を抽出させ、解決法を見出させる。全員に説明が必要と感じた場合、個々の作業を止め討議の場とする。【課題（復習・他）】解決法を見出すにはどうしたら良いか等、しっかり考える。（2～3h）
9	木管楽器・金管楽器の応用実習 テーマを決めるにあたって諸注意や、過去の先輩たちが取り上げたテーマについて説明する。【課題（復習・他）】テーマに対する相談を受けるが、卒業研究の重要性についてよく考える。（3h）
10	木管楽器・金管楽器の応用実習 テーマを決めるにあたって諸注意や、過去の先輩たちが取り上げたテーマについて説明する。 【課題（復習・他）】テーマに対する相談を受けるが、卒業研究の重要性についてよく考える。（3h）
11	木管楽器・金管楽器の応用実習 テーマを決めるにあたって諸注意や、過去の先輩たちが取り上げたテーマについて説明する。 【課題（復習・他）】テーマに対する相談を受けるが、卒業研究の重要性についてよく考える。（3h）
12	木管楽器・金管楽器応用実習 情報収集 ネット検索等、幅広い分野から情報収集を行う【課題（復習・他）】テーマに対する相談を受けるが、卒業研究の重要性についてよく考える。（3h）
13	木管楽器・金管楽器応用実習 情報収集 ネット検索等、幅広い分野から情報収集を行う【課題（復習・他）】テーマに対する相談を受けるが、卒業研究の重要性についてよく考える。（3h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	木管楽器・金管楽器応用実習 情報収集 ネット検索等、幅広い分野から情報収集を行う【課題（復習・他）】テーマに対する相談を受けるが、卒業研究の重要性についてよく考える。（3h）
15	木管楽器・金管楽器応用実習 情報収集 ネット検索等、幅広い分野から情報収集を行う【課題（復習・他）】テーマに対する相談を受けるが、卒業研究の重要性についてよく考える。（3h）
時間外での学修	学生間での問題解決の場面もあると思いますから、問題点等、その場でメモを必ず残しておいてください。解決策が見いだせれば、メモで追記をしておくこと。情報収集には、パソコンの使用頻度が高くなっていますから、学内で使用する場合、空き時間を効率よく利用してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	幅広い視野からの発表は、1年次生にとっても大変参考になります。人前でのプレゼンテーションは、相手にしっかり伝達する難しさを十分に理解して発表に臨んでください。 オフィスアワーは、毎週金曜日5限にF101教室で行います。

【MA】卒業研究		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫・松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 松永：楽器店修理販売職・19年						
授業内容	2年間の集大成としての意識を高く持って、管楽器（打楽器類については、原則としてテーマにしない）を幅広い角度から掘り下げる。既存に囚われない豊かな発想を持ち臨んでください。						
授業方法	発表では、プレゼンテーションの進行をよく考えて、準備物（管楽器他）に漏れの無いようにしてください。必ずリハーサルを行う事。パワーポイントを使用する場合、説明文をすべて画像にしないこと。要点のみを纏める事も必要です。						
到達目標	知識・理解	仕組み、構造の理解を基本とし、より高度な技能や、今日に至る管楽器の変遷を理解する。					
	思考・判断・表現	テーマに沿った考えや表現ができる。					
	技能	パワーポイントではしっかりまとめることが出来ており、制作物では完成度の高い物となっている。					
	関心・意欲・態度	楽器全般に関心や興味を持ち、自らが率先して技能、知識を向上することができる。					
	備考	・○・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	発表		30	30	30	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	実技発表、論文発表の区別はありますが、プロセスから発表までの精度、内容、発表時間について評価します。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	管楽器文献、各社カタログ、ネット検索等						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	発表テーマの決定 情報収集、準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
2	テーマに基づいて情報収集、準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
3	情報収集、準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
4	情報収集、準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
5	情報収集、準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
6	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
7	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
8	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意【課題（復習・他）】テーマに基づいて学んだ内容の復習（2～3h）						
9	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意【課題（復習・他）】情報を整理し、プレゼンテーションの内容について復習する。（2～3h）						
10	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意【課題（復習・他）】情報を整理し、プレゼンテーションの内容について復習する。（2～3h）						
11	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物用意【課題（復習・他）】情報を整理し、プレゼンテーションの内容について復習する。（2～3h）						
12	リハーサルにむけて、内容や時間配分を考える。【課題（復習・他）】情報を整理し、プレゼンテーションの内容について復習する。（2～3h）						
13	プレゼンテーションリハーサル 時間、内容、準備物等確認し、リハーサル後修正を行う。【課題（復習・他）】情報を整理し、プレゼンテーションの内容について復習する。（2～3h）						
14	プレゼンテーションリハーサル 時間、内容、準備物等確認し、リハーサル後修正を行う。【課題（復習・他）】情報を整理し、プレゼンテーションの内容について復習する。（2～3h）						
15	卒業研究発表実施 1年次生聴講で行います。F101教室or多目的ホール 発表時にトラブルの無いように、事前にしっかり準備をしておいてください。【課題（復習・他）】発表を振り返り、社会人としてもプレゼンの必要性がある為、今回の出来についてしっかり考える。（2～3h）						
時間外での学修	パワーポイント作成は、パソコン台数を考慮し、個人持ちPCでの作成も取り入れてください。ただ、Macのシステムでは起動しないこともありますから、事前に必ずチェックをしておいて下さい。楽器の改良、改造については、実習楽器を除く廃棄品を流用するなどして下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	人前での発表は、誰もが緊張をするものですが、1年次生の聴講態度に負けないう、しっかり伝えてください。オフィスアワーは、毎週金曜日5限にF101教室で行います。						

【MS】卒業論文		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年、日比：現場実践16年						
授業内容	自分で決めたテーマについて調べ、一年かけて論文形式に仕上げます。前半2回は講義形式、それ以降は面談（個人、グループ）でテーマの進み具合を担当教員と話し合います。						
授業方法	演習形式。発表を含みます。						
到達目標	知識・理解	論文にふさわしいテーマを決定する。					
	思考・判断・表現	過去の文献を探し、正しく記載する。					
	技能	論文に適した正しい文体でまとめることができる。					
	関心・意欲・態度	継続的にテーマに対する関心を持ち、担当教員と話し合いながら論文作成を進めることができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		課題提出	20	20	20	-	60
		受講態度	-	-	-	20	20
		発表（グループ発表含む）	-	-	-	20	20
		合 計(点)	20	20	20	40	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。中間発表を行い、途中経過の論文を提出することが単位の要件となります。						
テキスト	各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること。						
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	（LINEグループ通話による遠隔授業：全体授業の後個別通話による面談） 論文とはどのようなものか。構成、文体、引用の基礎知識 興味のあるテーマを複数探し提出する。 [課題（復習）]学んだ内容の復習、テーマ候補を複数考える（2H）						
2	（LINEグループ通話による遠隔授業：全体授業の後個別通話による面談） 興味のあるテーマについて担当教員と個別で面談を行う。 資料の検索について [課題（準備）]論文テーマを絞り、類似するテーマの論文を読む（2H）						
3	（LINEグループ通話による遠隔授業：全体授業の後個別通話による面談） テーマに関連する文献の検索（J-Stageなど） Web上の文章の引用について注意点 [課題（準備）]学んだ内容の復習、自分のUSBに文献用ファイルを作成する（2H）						
4	担当教員と話し合いながら文献検索を行う。 [課題（準備）]調べた文献の内容をまとめてファイルに整理する（2H）						
5	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。なぜ自分がこのテーマを選んだか書き始める。 [課題（準備）]作成した「なぜ自分がこのテーマを選んだか」を完成させる（2H）						
6	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（準備）]論文の形式にのっとった文書設定を行う、文献を読み込みまとめる（2H）						
7	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（復習）]ページ番号をファイルに入れる。文献を読み込みまとめる（2H）						
8	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（復習）]見出しの形式を整える。文献を読み込みまとめる（2H）						
9	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（準備）]図書館に行き関連する本を借り、資料としてまとめる（2H）						
10	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（準備）]Webから得た資料を文献として形式を整えて使用する（2H）						
11	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（準備）]文献のまとめを論文に正しい形で引用する（2H）						
12	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（復習）]図、表の正しい使い方、タイトルを入れる（2H）						
13	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちにを行う。 [課題（復習）]論文の全体を考えるために見出しと流れを書き出す（2H）						
14	中間報告の準備を行う。報告は一人10分以内で、 研究のテーマ 現在どこまで進めたか 後期はどのように進めるか、を口頭で報告する。ここまで進んだ論文をプリントアウトして提出する。 [課題（準備）]中間報告の準備、読む練習（2H）						
15	中間報告を行う。先週提出した論文を返却するのでコメントを確認、後期の予定を確認する。 [課題（復習）]返却されたコメントに基づき論文を訂正する（2H）						
時間外での学修	各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要である。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への メッセージ	音楽に関わるものでしたらどんなテーマでも論文となります。 自分の興味があるものをとことん追求しましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。
-----------------	---

【MA】卒業論文		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年、日比：現場実践・16年						
授業内容	前期に行った中間報告を踏まえて、さらに実験や考察を重ねて1本の論文を完成させる。						
授業方法	演習形式、最終的に口頭発表を行う。						
到達目標	知識・理解	正しく先行研究論文の引用ができる。					
	思考・判断・表現	考察に自分の考えを正しい方法でまとめることができる。					
	技能	心理学論文の形式で卒業論文を提出する。(30字×40行、10枚以上)発表用の抄録をまとめることができる。					
	関心・意欲・態度	関心を持ったテーマに継続的に取り組み、指導教員と話し合いながら作成することができる。初めて聞く人を対象としてわかりやすいプレゼンテーションができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表（グループ発表含む）		-	-	-	20	20
	合 計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。発表および論文の期日以内での提出が単位の要件となります。						
テキスト	各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること						
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]コメントに応じて訂正した論文を教員と共有し今後の方針を決定する（2H）						
2	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]論文の全体像がわかるように目次の作成を始める（2H）						
3	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]これまで調べた内容を基に考察を書き始める（2H）						
4	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]考察の方向性について教員の指導を受ける（2H）						
5	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]全体の論旨の流れが不自然でないか確認する（2H）						
6	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]結語部分を作成する（2H）						
7	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]テーマと考察が関連しているか、「はじめに」で述べた部分がすべて検討されているかを確認する（2H）						
8	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]教員あるいは他の学生に読んでもらいわかりにくい箇所がないか確認する（2H）						
9	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]英数字を半角にする、通しで文献番号をつける（2H）						
10	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]論文タイトル、各章タイトルの形式を整える（2H）						
11	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題（復習）]図と表の形式をチェックし、通し番号をつける（2H）						
12	本文提出第一次締切日（30字×40行、10枚以上。表紙と目次は本文に含まない。文献リストを含む）[課題（復習）]文献リストを完成させる（2H）						
13	抄録締切日（A4サイズで1～4枚以内、電子データも提出する）[課題（復習）]抄録をまとめる。誤字脱字をチェックし、文献リストをつける（2H）						
14	卒業論文発表会リハーサル。各自抄録を読み（筆者 私、である ですますに口語体に変えて読む）、より効果的なプレゼンテーションの工夫を行う。[課題（復習）]抄録を読む練習を行う（2H）						
15	卒業論文発表会。各自が行った研究について1人10分の発表を行う。卒業論文最終締切。 [課題（復習）]他の学生の発表にコメントする。表紙、目次も含む完成した論文を提出する（2H）						
時間外での学修	各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	短大で卒業論文を課すところは多くありませんが、卒業後に、文書で音楽療法の成果をまとめる機会は意外と多いものです。将来の自分のために頑張りましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						